甲府市文化財調査報告 31

甲府市内遺跡III

―平成７・８年度試掘調査報告書―

2006

甲府市教育委員会

序

平成18年３月１日、甲府市は旧中道町・旧上九一色村北部と合併し新たに出発しました。新甲府市は、長野との県境に位置する標高2500m級の秩父連山を北辺とし、南は標高2000mに近い御坂山塊までの南北43キロ、東西最大幅約10キロと、甲府盆地を南北に縦断する細長い市域となりました。この合併により旧甲府市域に253箇所、旧中道町に103箇所、旧上九一色村北部の12箇所、合計368箇所が埋蔵文化財包蔵地となり、県内屈指の「遺跡の宝庫」が誕生しました。中には弥生時代後期から古墳時代前期に位置する120基を超える方形周溝墓群の「上の平遺跡」、古墳時代４世紀代に築造された古墳として東日本最大級の規模を誇る「銚子塚古墳」・「丸山塚古墳」をはじめ、中世武田氏三代の居館である「武田氏館跡」など、全国的にも著名な遺跡が含まれております。

本書は、平成７・８年に旧甲府市域において行われました試掘調査の報告であります。加牟那塚古墳が所在する千塚周辺から積石塚古墳が集中する和戸周辺までの盆地北辺部の遺跡を中心とする遺跡の調査成果が多く掲載されております。

合併により市域が拡大したため、今後試掘調査件数も増加するものと考えられます。是非とも未来を担う子供たち、さらに子々孫々まで、我々の先人が残した歴史を守り伝えるためにも、市民の皆様方一人一人の埋蔵文化財に対するご理解・ご協力を賜りますよう今後とも宜しくお願い申し上げます。

2006年３月

甲府市教育委員会
教育長　角　田　智　重

例　　言

1．本書は、平成７・８年度に実施した甲府市内における各種開発行為に伴う試掘調査の報告書である。

2．本書に収録した調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。

3．調査は、信藤祐仁・平塚洋一・志村憲一・佐々木満・兒玉好美（元教育委員会文化財主事）が担当した。

4．本書の執筆は信藤祐仁・平塚洋一・志村憲一・佐々木満が、編集は原　正邦（文化スポーツ課長）を編集責任者とし、志村憲一が行った。

5．本書の挿図は、内藤真千子・栗田かず子・清水秀樹・中村里恵・鈴木由香・佐野香織が作成した。

6．本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。

7．発掘調査にあたり、土地所有者の御協力を賜った。

8．調査参加者

相沢陽子	雨宮英郎	池谷富士子	岡　悦子	小沢恵津子	小沢菊太郎
長田富夫	金井いく代	茅嶋一男	岸本美苗	倉田勝子	小池信夫
小池孝男	小宮通子	坂本しのぶ	佐田金子	三枝袈裟男	清水公子
末木義光	鈴木由香	武井美知子	手塚房子	長澤晴雄	中田芳仁
根岸利昭	平沢則子	深沢久子	藤原洋子	本道歌子	本道政清
山田利三	渡辺　茂	渡邊百合子			

（敬称略）

凡　　例

1．遺構・遺物番号は、各調査地区単位で通し番号とした。

2．遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査対象により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。

3．全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。

4．調査位置図には、甲府都市計画図（1/50,000）を使用した。

5．遺物観察表の色調は「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　1997後期）に基づいて記載した。

6．図面のスクリーントーン指示は、以下のとおりである。

・遺物 赤色塗彩
・遺構炭範囲

・遺物 黒色土器

・遺構 焼土

・遺物 粘土痕付着

・遺物 タール付着

・石

目　　次

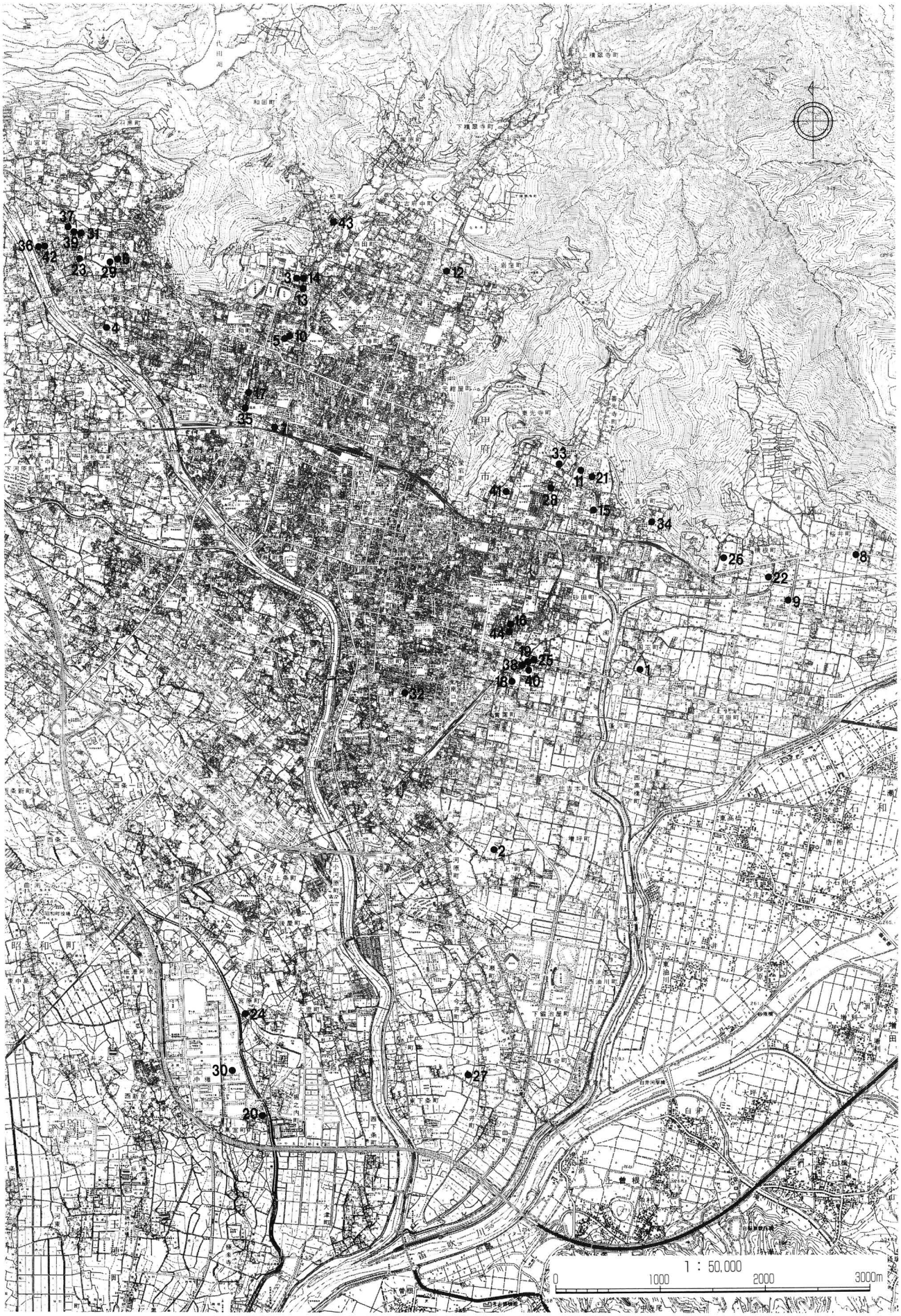
序
例　　言
凡　　例
目　　次
市内遺跡試掘調査

調査位置図……1
調査区一覧表……2～3
1　深田遺跡（第２次）……4
2　上町天神遺跡……4
3　緑が丘二丁目遺跡（第８次）……5
4　音羽遺跡……5～6
5　緑が丘一丁目遺跡（第５次）……6
6　加牟那塚古墳……7
7　塩部遺跡（第２次）……7～8
8　上土器遺跡（第２次）……9
9　大坪遺跡（第８次）……9
10　緑が丘一丁目遺跡（第６次）……10
11　宮の脇Ａ遺跡（第２次）……11
12　大手下遺跡・武田城下町遺跡……11
13　緑が丘二丁目遺跡（第９次）……12
14　緑が丘二丁目遺跡（第10次）……12
15　本郷遺跡……13
16　朝気遺跡（第12次）……14
17　塩部遺跡（第３次）……14
18　十丁遺跡……14～15
19　家之前遺跡（第１次）……16
20　金山遺跡……16

21　善光寺境内遺跡……17～18
22　大坪遺跡（第９次）……19
23　榎田遺跡（第１次）……19
24　桜林Ｂ遺跡……20
25　家之前遺跡（第２次）……20
26　村内石山遺跡……21
27　汗タリ遺跡……22
28　銀杏之木遺跡……23
29　金塚西遺跡（第２次）……24～25
30　砂間遺跡……25～26
31　榎田遺跡（第２次）……26～28
32　幸町Ａ遺跡……29～31
33　地蔵北遺跡……32
34　酒折遺跡……32
35　塩部遺跡（第４次）……33～34
36　天神西遺跡（第１次）……34～35
37　榎田遺跡（第３次）……35～50
38　家之前遺跡（第３次）……51
39　榎田遺跡（第４次）……51
40　家之前遺跡（第４次）……52～53
41　御崎田遺跡……54
42　天神西遺跡（第２次）……54～55
43　永井遺跡……56
44　朝気遺跡（第13次）……56

写 真 図 版

図版１　緑が丘遺跡二丁目遺跡（第８次）、音羽遺跡、加牟那塚古墳、
上土器遺跡（第２次）、緑が丘一丁目遺跡（第６次）(1)……57
図版２　緑が丘遺跡一丁目遺跡（第６次）(2)、大手下遺跡・武田城下町遺跡、十丁遺跡、
善光寺境内遺跡(1)……58
図版３　善光寺境内遺跡(2)……59
図版４　善光寺境内遺跡(3)……60
図版５　善光寺境内遺跡(4)、榎田遺跡（第１次）、桜林Ｂ遺跡、汗タリ遺跡、
金塚西遺跡（第２次）(1)……61
図版６　金塚西遺跡（第２次）(2)……62
図版７　榎田遺跡（第２次）(1)……63
図版８　榎田遺跡（第２次）(2)、幸町Ａ遺跡、塩部遺跡（第４次）……64
図版９　天神西遺跡（第１次）、家之前遺跡（第３次）、家之前遺跡（第４次）(1)……65
図版10　家之前遺跡（第４次）(2)、天神西遺跡（第２次）、永井遺跡……66
図版11　榎田遺跡（第３次）(1)……67
図版12　榎田遺跡（第３次）(2)……68
図版13　榎田遺跡（第３次）(3)……69
図版14　榎田遺跡（第３次）(4)……70
図版15　榎田遺跡（第３次）(5)……71



● 番号は調査一覧表と対応

図1　調 査 位 置 図

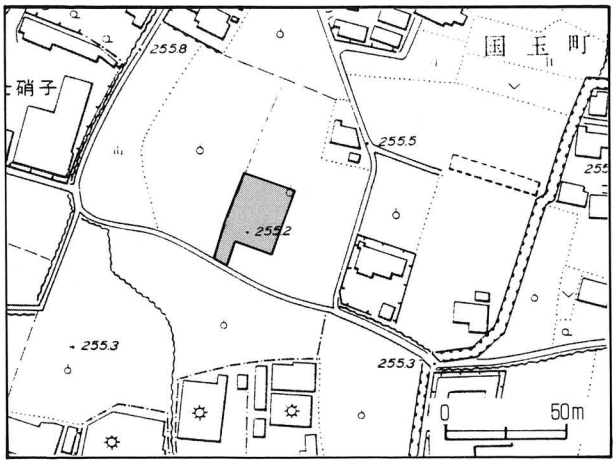
平成７年度　市内遺跡調査区一覧表

番号	遺　跡　名	所　在　地	調査原因	調査面積	調査期間	遺　構	遺　　物
1	深田遺跡（第２次）	国玉町606	個人住宅建設	4㎡	4/5～6	なし	土師器小片
2	上町天神遺跡	上町1739-3他	物置建設	1㎡	4/6～7	なし	土師器小片
3	緑が丘二丁目遺跡（第８次）	緑が丘二丁目893-10	個人住宅建設	4㎡	4/10～13	なし	土師器小片
4	音羽遺跡	音羽町443-9	個人住宅建設	4㎡	5/9～17	土坑	坏、須恵器
5	緑が丘一丁目遺跡（第５次）	緑が丘一丁目108-5･6	個人住宅建設	4㎡	5/30	土坑	土師器小片
6	加牟那塚古墳	千塚三丁目2547-4他	下水道工事	4㎡	5/30	周溝	なし
7	塩部遺跡（第２次）	塩部一丁目367-1他	店舗建設	500㎡	6/12～7/10	溝	陶磁器
8	上土器遺跡（第２次）	桜井町238	個人住宅建設	20㎡	6/22～26	溝	土師器小片、布目瓦
9	大坪遺跡（第８次）	横根町460	事務所建設	2㎡	7/11～13	なし	なし
10	緑が丘一丁目遺跡（第６次）	緑が丘一丁目108-1	個人住宅建設	17㎡	7/20～28	溝	坏、高坏、甕
11	宮の脇Ａ遺跡（第２次）	善光寺二丁目2744	個人住宅建設	1.6㎡	8/9	なし	陶磁器
12	大手下遺跡・武田城下町遺跡	大手三丁目3644-1	集合住宅建設	20㎡	8/10～11	なし	なし
13	緑が丘二丁目遺跡（第９次）	緑が丘二丁目921-1他	個人住宅建設	8㎡	8/18	なし	土師器小片
14	緑が丘二丁目遺跡（第10次）	緑が丘二丁目897-5	個人住宅建設	4㎡	8/18	なし	なし
15	本郷遺跡	善光寺三丁目2359-1	集合住宅建設	50㎡	10/11～16	溝	土師器小片
16	朝気遺跡（第12次）	朝気二丁目642-6	個人住宅建設	4㎡	10/19	なし	土師器小片
17	塩部遺跡（第３次）	塩部三丁目地内	県道工事	100㎡	10/20～11/1	なし	なし
18	十丁遺跡	里吉三丁目823他	宅地造成	12㎡	1/8～17	溝	高坏、甑、甕、青磁
19	家之前遺跡（第１次）	里吉三丁目1001	宅地造成	12㎡	2/1～5	なし	須恵器
20	金山遺跡	高室町724-2	個人住宅建設	2㎡	2/27	なし	なし
21	善光寺境内遺跡	善光寺三丁目2669-1	檀信徒会館建設	90㎡	3/6～15	なし	かわらけ、陶磁器、煙管、土製品

平成８年度　市内遺跡調査区一覧表

番号	遺　跡　名	所　在　地	調査原因	調査面積	調査期間	遺　構	遺　物
22	大坪遺跡（第９次）	横根町275-1・3	個人住宅建設	8㎡	4/2～3	なし	なし
23	榎田遺跡（第１次）	千塚五丁目3006-1	個人住宅建設	9㎡	4/2～9	なし	坏、甕
24	桜林Ｂ遺跡	宮原町248-1	個人住宅建設	8㎡	4/15～19	なし	土師器小片
25	家之前遺跡（第２次）	里吉三丁目1003、1010他	店舗建設	33㎡	5/13～24	なし	土師器、須恵器、陶器、石製品
26	村内石山遺跡	横根町724-1他	グラウンド造成	26㎡	5/27～6/4	暗渠	土師器、坏
27	汗タリ遺跡	下今井町18-1他	市民センター建設	75㎡	6/13～21	なし	銅製品
28	銀杏之木遺跡	東光寺二丁目310-1	集合住宅建設	15㎡	7/1～11	溝跡、土坑	土師器、擂鉢
29	金塚西遺跡（第２次）	千塚三丁目地内	公園建設	100㎡	7/11～8/26	なし	坏、台付甕、壺、須恵器、灰釉陶器、白磁
30	砂間遺跡	高室町国母工業団地162	工場増築	6㎡	7/15～17	なし	なし
31	榎田遺跡（第２次）	千塚五丁目2805-4・5他	集合住宅建設	45.7㎡	7/25～8/20	溝、竪穴住居、土坑	土師器、坏、甕、須恵器、白磁、青磁
32	幸町Ａ遺跡	幸町2785他４筆	マンション建設	48㎡	8/29～9/20	溝、竪穴住居、土坑	土器、甕、台付甕、壺、鉢
33	地蔵北遺跡	東光寺三丁目1713他	集合住宅建設	12㎡	9/6～17	土坑	土師器小片、須恵器、陶磁器
34	酒折遺跡	酒折三丁目1283-1他	運動場造成	8㎡	9/18～19	なし	縄文土器、土師器小片
35	塩部遺跡（第４次）	塩部二・三丁目地内	道路改良工事	146㎡	10/1～17	溝跡、土坑	土師器、坏、灰釉陶器、煙管
36	天神西遺跡	千塚四丁目3331他	個人住宅建設	12㎡	10/2～15	土坑	坏、擂鉢、陶器、古銭
37	榎田遺跡（第３次）	千塚五丁目2926-1	宅地造成	320㎡	10/21～1/29	溝、竪穴住居、土坑	坏、高坏、甕、灰釉陶器、白磁、布目瓦
38	家之前遺跡（第３次）	里吉三丁目790、793-1	集合住宅建設	46㎡	11/6～21	なし	坏
39	榎田遺跡（第４次）	千塚五丁目2962-7	個人住宅建設	4㎡	11/13～14	なし	かわらけ
40	家之前遺跡（第４次）	里吉三丁目982-1	集合住宅建設	80㎡	11/6～21	溝跡	高坏、甕、台付甕
41	御崎田遺跡	東光寺二丁目4-349他	宅地造成	40㎡	2/6～12	なし	土師器小片
42	天神西遺跡（第２次）	千塚四丁目3230他	集合住宅建設	28㎡	2/19～25	竪穴住居	坏、甕、灰釉、内耳土器、陶器、平瓦
43	永井遺跡	小松町425-1	個人住宅建設	4㎡	3/4	なし	坏、須恵器、人骨
44	朝気遺跡（第13次）	朝気二丁目670-2	個人住宅建設	4㎡	3/11～12	なし	土師器小片

1 深田遺跡（第２次）



調査位置　甲府市国玉町606
調査原因　個人住宅建設
対象面積　500㎡
調査面積　４㎡
調査期間　平成７年４月５日～６日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

深田遺跡は濁川左岸の盆地平坦部標高約255ｍに立地する古墳時代の遺跡であり、調査区は遺跡範囲の中央部に位置する。近隣には古墳時代の塚越遺跡や中世の落合氏館跡と、延喜式内社で甲斐国三ノ宮の玉諸神社が鎮座している。

調査区に２ｍ四方のグリッドを設定し、地表下約45cm掘削を行った。第１～４層内からは土師器小片が約30点出土した。遺構に関しては検出されなかった。

（志村憲一）

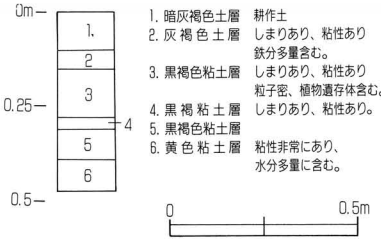
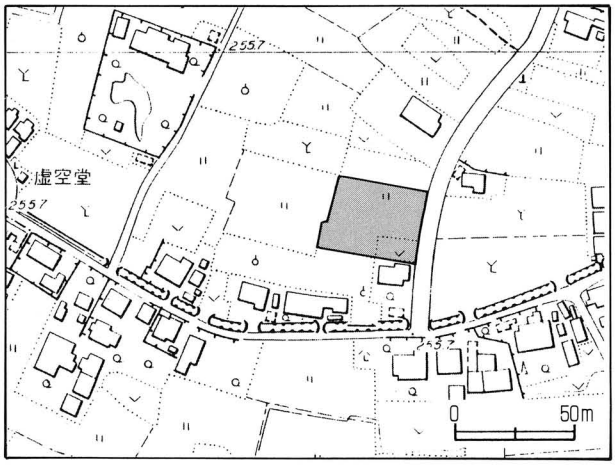


図１　基本層序

2 上町天神遺跡



調査位置　甲府市上町1739-3、1739-4、1740-1
調査原因　物置建設
対象面積　2,642㎡
調査面積　１㎡
調査期間　平成７年４月６日～７日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

上町天神遺跡は、濁川左岸の盆地中央部標高約255ｍに位置する、古墳～平安時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の北西部にあたり、耕地が広がる。周辺には、平安期の大土井遺跡・明石西河原遺跡、中世段階の土尻遺跡などが存在する。

調査区に１ｍ四方のグリッドを設定し、地表下約120cmまで掘削を行った。地表下約60cmまでの第１～３層から土師器小片が出土しているが、いずれの層も攪乱を受けていた。遺構に関しては検出されなかった。

（志村憲一）

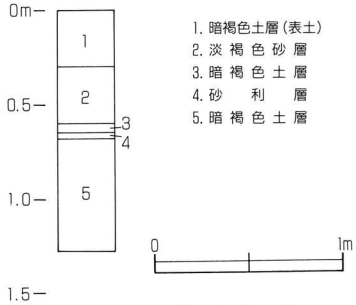
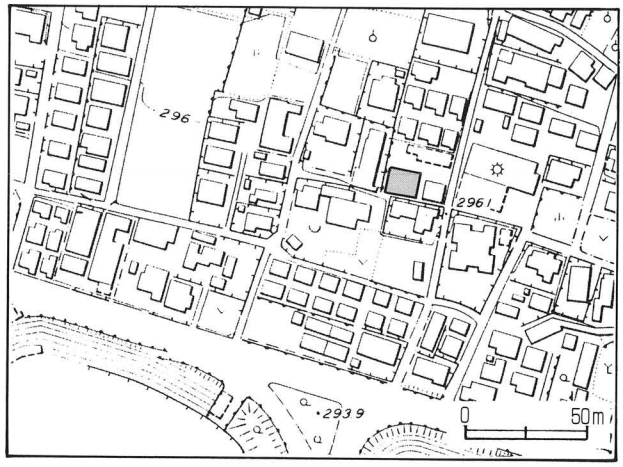


図１　基本層序

3 緑が丘二丁目遺跡（第８次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目893-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　149.37㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成７年４月10日～13日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

緑が丘二丁目遺跡は縄文から平安時代までの散布地である。遺跡範囲中央部東側の標高296ｍ地点に位置し、現状周辺は住宅地である。

調査区域内に２ｍ四方のグリッドを設定し、地表下約0.9ｍ地点まで掘削を行った。第１～４層までの堆積層が確認されたが、近代の攪乱を受け、遺構は検出されなかった。

出土遺物は、古墳時代後期鬼高期の土師器小片が約30点出土している。　（志村憲一）

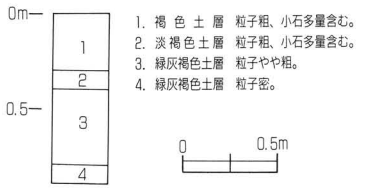


図１　基本層序

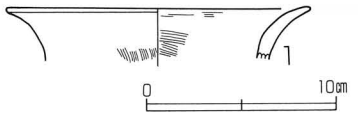
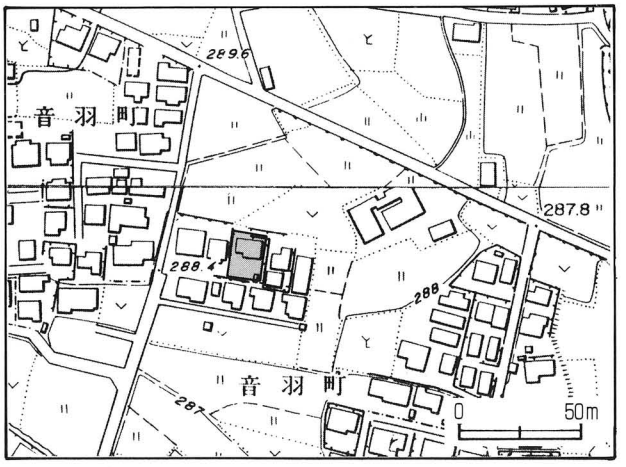


図２　出土遺物

4 音羽遺跡



調査位置　甲府市音羽町443-9
調査原因　個人住宅建設
対象面積　285.94㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成７年５月９日～17日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

音羽遺跡は、荒川左岸標高288ｍに位置する弥生時代から平安時代までの散布地である。調査区東側200ｍ地点では、平成４・５年度山梨県埋蔵文化財センターが調査を行い弥生時代後期から平安時代の住居跡が28軒と古墳時代前期の方形周溝墓４基が検出された。

調査区域内に２ｍ四方のグリッドを設定し、地表下約1.3ｍまで掘削を行った。遺物包含層は第１～７層である。特に試掘坑北西隅の第５層からは、炭化材が折重なった状況で検出された。さらに炭化材直下からは、北西方向に広がるものと考えられる、深さ約20㎝の土坑の一部が検出された。出土遺物は完形品を含み極めて良好な状況て確認され、いずれも８世紀第四半期に位置づけられる甲斐型土器及び須恵器が出土した。

炭化材及び土坑の検出状況から、８世紀代の焼失住居の一部分であることも考えられる。

（志村憲一）

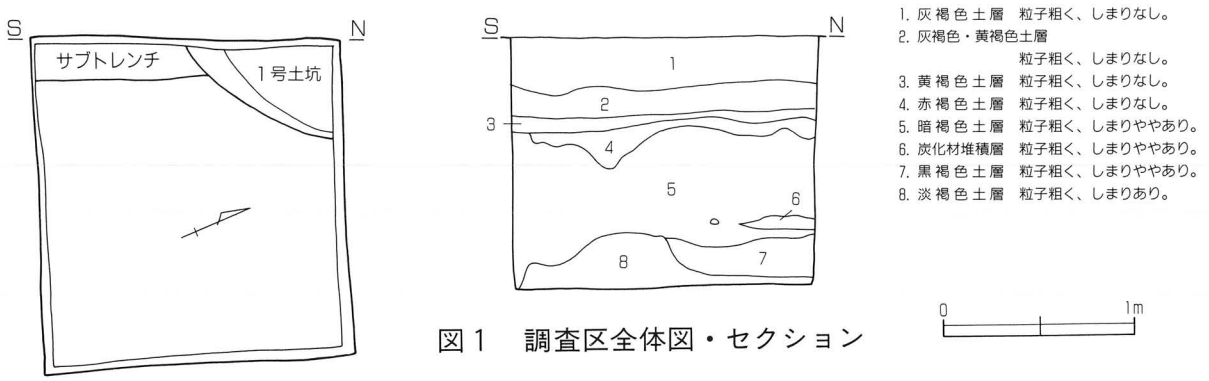


図1　調査区全体図・セクション

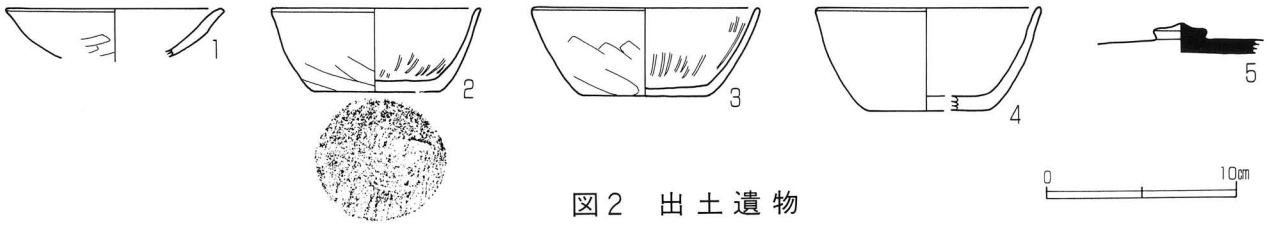


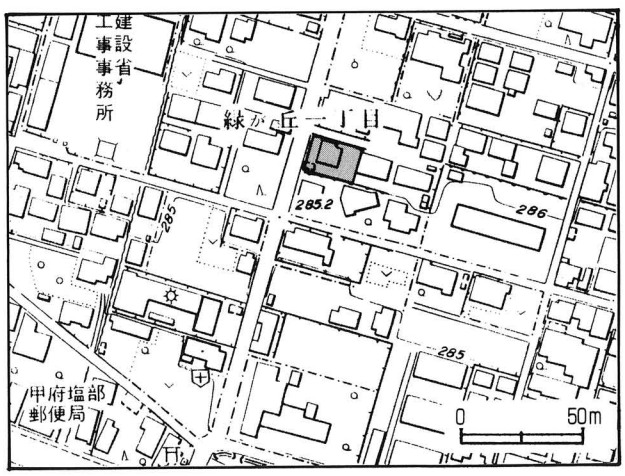
図2　出土遺物

表1　音羽遺跡出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	坏	(11.2)	－	－	ロクロナデ・ケズリ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
2	土器	坏	(10.8)	(4.4)	6.8	ロクロナデ・ケズリ・暗文	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
3	土器	坏	(11.7)	(4.6)	6.6	ロクロナデ・ケズリ・暗文	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
4	土器	坏	(11.6)	(5.4)	(6.2)	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
5	須恵器	蓋	－	(1.5)	－	ロクロナデ	N 5/灰	良	

5　緑が丘一丁目遺跡（第5次）



調査位置　甲府市緑が丘一丁目108-5、108-6
調査原因　個人住宅建設
対象面積　312.45m²
調査面積　4m²
調査期間　平成7年5月30日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

緑が丘一丁目遺跡は、相川右岸に立地する古墳時代の散布地である。遺跡範囲の中央部南側標高約286m地点に位置する。現状周辺は住宅地である。

調査区域内に2m四方のグリッドを設定し、地表下約1mまで掘削を行った。地表下約70cmに位置する第6層内から、直径約10cmのピットが2基検出された。遺物は土師器小片3点が出土した。　（志村憲一）

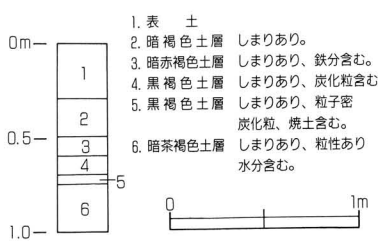
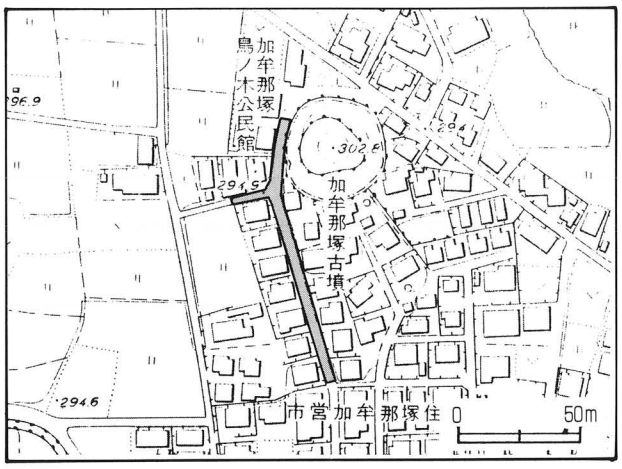


図1　基本層序

6　加牟那塚古墳



調査位置　甲府市千塚三丁目2547-4他
調査原因　下水道工事
調査面積　4㎡
調査期間　平成７年５月30日
調査担当　信藤祐仁

調査の概要

調査区は、県史跡「加牟那塚古墳」の西裾部分を巻く市道に、古墳の中心から放射状になるように１ｍ×４ｍのトレンチを１本設定した。周溝の一部を確認することができたが、道路の外側まで延びており周溝の規模は不明。深さは確認面から約50cmであり、遺物としての埴輪や土師器はまったく確認できなかった。

南側の個人住宅で浄化槽を設置後の移動した土中から、形象埴輪（５．６）と円筒埴輪（１．２．３）が採集された。５は馬形埴輪の鈴部分で鈴口の切れ込みも確認でき、６は人物埴輪の衣服の綴じ紐の結び目と推定される。

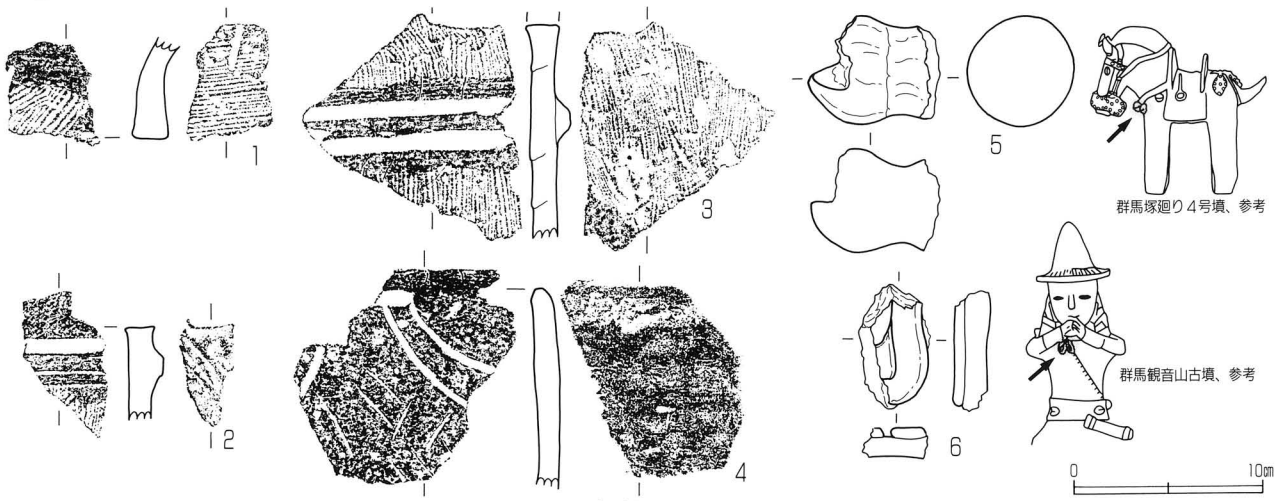
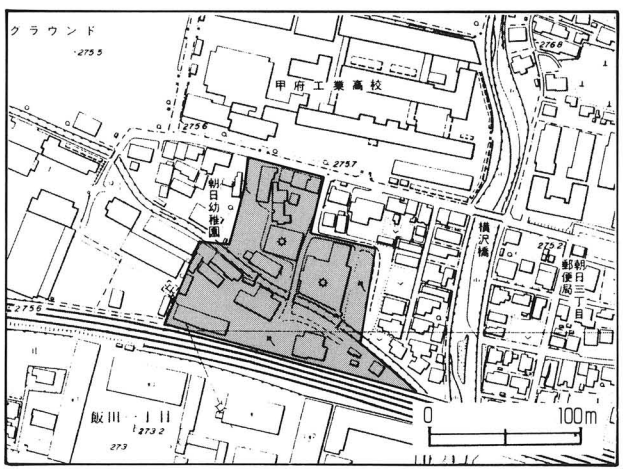


図１　出土遺物

7　塩部遺跡（第２次）



調査位置　甲府市塩部一丁目367-1他
調査原因　店舗建設
対象面積　11,530.08㎡
調査面積　500㎡
調査期間　平成７年６月12日～７月10日
調査担当　兒玉好美

遺跡の概要

調査区は、湯川の両岸にまたがって位置し標高は約275ｍである。平成７年に北西側約200ｍ地点の甲府工業高校敷地で山梨県埋蔵文化財センターが行った調査では、縄文から現代

に至る遺構・遺物が検出されている。

調査の概要

湯川の両岸の調査区域内に８箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物が検出された下記トレンチについて記載する。

Ｔ－１　地表下約２ｍまで掘削した。地表下1.9ｍまで攪乱を受けていた。時代不明の土器数点、瀬戸美濃系陶器１点、近代の遺物が大量に検出された。

Ｔ－２　南北方向のトレンチからはＮ－42°－Ｗ方向をとる幅２ｍ、深さ0.3ｍの溝跡と、Ｎ－60°－Ｗに軸線をもつ幅50cm、深さ20cmの溝が１ｍ間隔をあけて２条検出された。遺構内からは近世から近代にかけての陶磁器が検出された。

Ｔ－２　東西方向のトレンチでは、ほぼ磁北方向の幅4.5ｍ、深さ0.5ｍの南北方向の溝が１条検出され、遺構内からは近世の瀬戸・美濃系陶器が１点出土した。

（志村憲一）

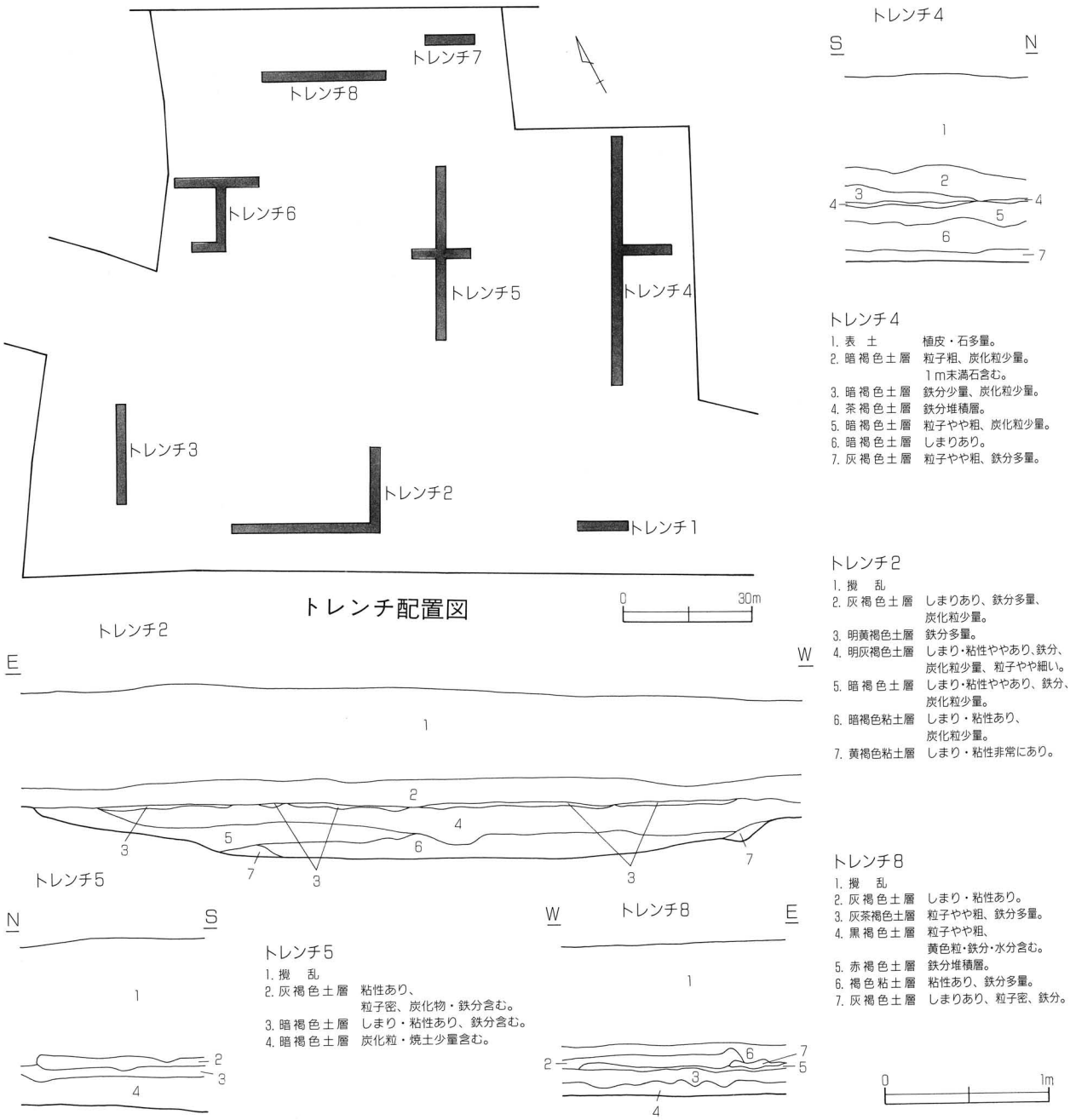


図２　トレンチ２・４・５・８セクション

8 上土器遺跡（第２次）

調査位置　甲府市桜井町238
調査原因　個人住宅建設
対象面積　250.22㎡
調査面積　20㎡
調査期間　平成７年６月22日～26日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

上土器遺跡は、奈良時代に甲斐国分寺の瓦を焼成した瓦窯跡と、古墳時代後期の集落跡が過去の調査により確認されている。

今回の調査は、対象地に２×10ｍのトレンチを設定し実施した。調査の結果、地表から約70cmの深さでトレンチ南側に幅約20cmの溝状遺構が確認できた。また、さらに掘り下げたところでAT層とみられる火山灰層が確認できた。

出土遺物に古墳時代後期の甕（１）や瓦片（４、５）、紡錘車（３）がある。

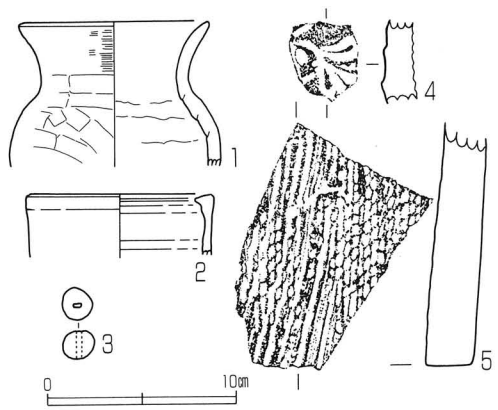
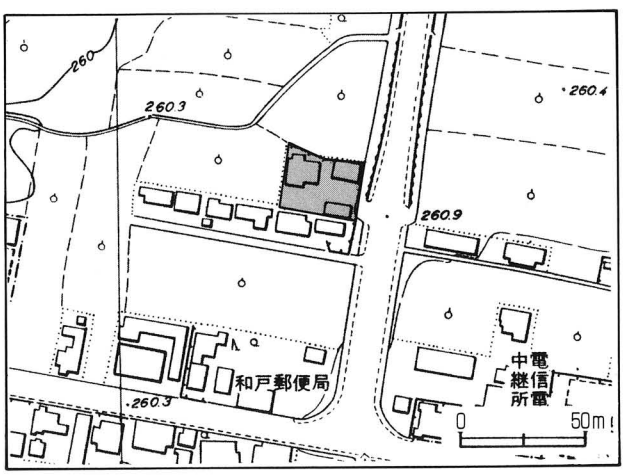


図１　出土遺物

9 大坪遺跡（第８次）



調査位置　甲府市横根町460
調査原因　事務所建設
対象面積　266.73㎡
調査面積　2㎡
調査期間　平成７年７月11日～13日
調査担当　兒玉好美

遺跡の概要

大坪遺跡は、古墳～平安時代の生産跡である。遺跡範囲の南東部、標高約260ｍに位置する。

調査の概要

調査区域内に２ｍ四方のグリッドを設定し、地表下約0.9ｍ地点まで掘削を行った。地表下約0.4ｍまでは攪乱を受け、５・６層は砂層であり、河川の堆積層と考えられる。遺構・遺物は全く確認されなかった。

（志村憲一）

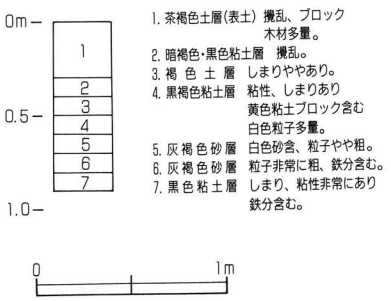


図１　基本層序

10 緑が丘一丁目遺跡（第６次）

調査位置　甲府市緑が丘一丁目108-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　420.0㎡
調査面積　17㎡
調査期間　平成７年７月20日～28日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

緑が丘一丁目遺跡は、相川によって形成された扇状地の西端に立地する。近年（平成16～17年度）の調査により、古墳時代後期の集落跡が検出されている。

当初２×４ｍのトレンチを設定し、調査を行ったところ、古墳時代後期の土器を含んだ溝状遺構が検出できた。溝跡からの土器の出土量が集中して多量だったため、溝の延長を確認するため、拡張して調査を行った。

出土遺物は古墳時代後期に位置付けられる。坏、高坏、甕等が出土しているが、ベンガラによる朱が塗布されている。

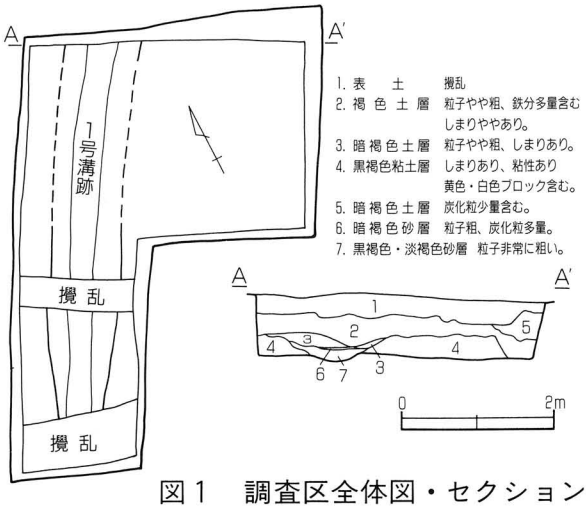


図１　調査区全体図・セクション

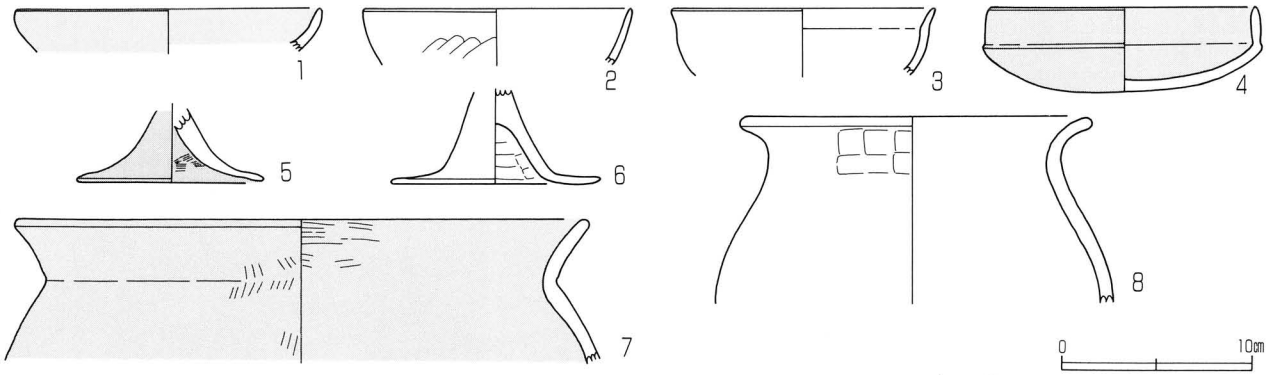


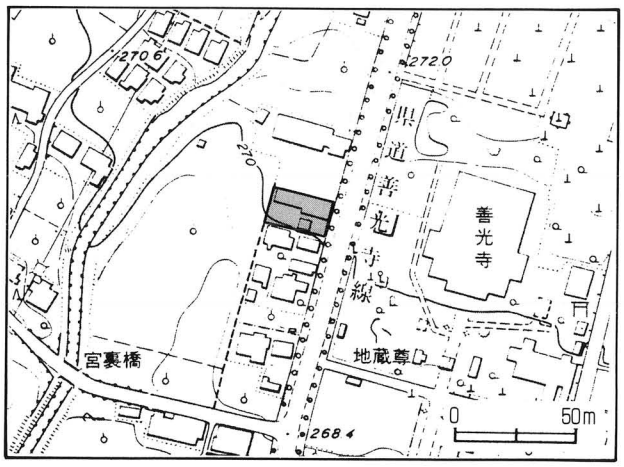
図２　出　土　遺　物

表１　緑が丘一丁目遺跡（第６次）出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	埦か	(16.0)	－	－	ナデ・ミガキ	10YR 6/4 鈍い黄橙	良	内外赤色塗彩
2	土器	坏	(14.0)	－	－	ナデ・ケズリ	10YR 6/3 鈍い黄橙	良	
3	土器	埦	(14.0)	－	－	ナデ	7.5YR 6/6 橙	良	
4	土器	坏	(14.0)	(3.6)		ナデ・ミガキ	10R 4/8 赤	良	内外赤色塗彩
5	土器	高坏	－	－	(10.0)	ナデ・ケズリ	5YR 6/4 鈍い橙	良	内外赤色塗彩
6	土器	高坏	－	－	(11.0)	ナデ・ケズリ	10YR 6/4 鈍い黄橙	良	
7	土器	壺	(30.0)	－	－	ハケ	10YR 4/8 赤	良	内外赤色塗彩
8	土器	壺	(18.4)	－	－	ナデ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	

11 宮の脇A遺跡（第２次）



調査位置　甲府市善光寺二丁目2744
調査原因　個人住宅建設
対象面積　424.058㎡
調査面積　1.6㎡
調査期間　平成７年８月９日
調査担当　兒玉好美

遺跡の概要

当遺跡は北原扇状地扇央部標高約270ｍに位置する縄文・平安から近世にかけての散布地である。県道を挟んで東側には甲斐善光寺が存在し、調査区は善光寺の子院が存在したものと考えられる。

調査の概要

調査区域内に２ｍ×0.8ｍの試掘坑を１箇所設定し、地表下約0.6ｍまで掘削を行った。試掘坑東端より、径0.5ｍ、深さ0.2ｍのピットが１基確認された。出土遺物は、近世18世紀以降の、煙管、寛永通宝、陶磁器小片である。

（志村憲一）

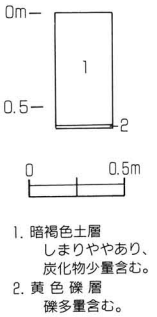
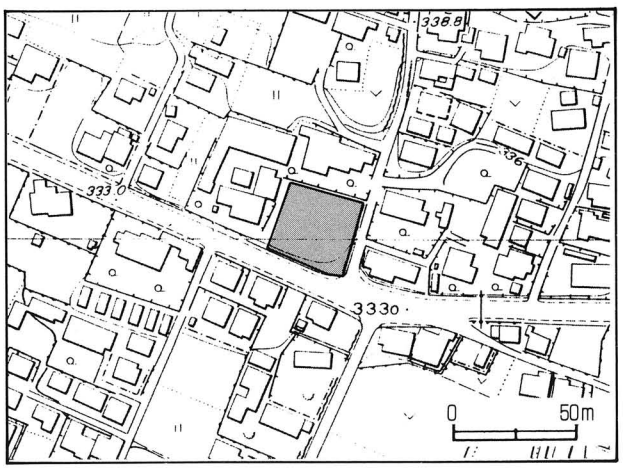


図１　基本層序

12 大手下遺跡・武田城下町遺跡



調査位置　甲府市大手三丁目3644－1
調査原因　集合住宅建設
調査面積　20㎡
調査期間　平成７年８月10日～11日
調査担当　信藤祐仁

調査の概要

武田氏館跡の東南約250ｍ、標高約333ｍ、西富士川右岸に位置する。武田家臣屋敷配置図（古府の図）では、馬場美濃守信春の屋敷地の範囲内に比定され、「古府中村絵図」（武田神社蔵）では「大手下畑」の記載がある。

集合住宅建設に伴い、東西方向に２×10ｍのトレンチを設定し、地表面から重機で慎重に掘削した後、底面と断面を観察した。地表下110cmまで客土で、その下に水田耕作土層があり、遺構・遺物とも皆無であった。

畑の境界の石列中に茶臼の存在が確認された。下臼の受け部の破片で、安山岩製、復元口径約37.0cmを測る。

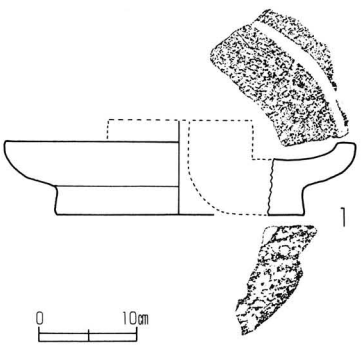
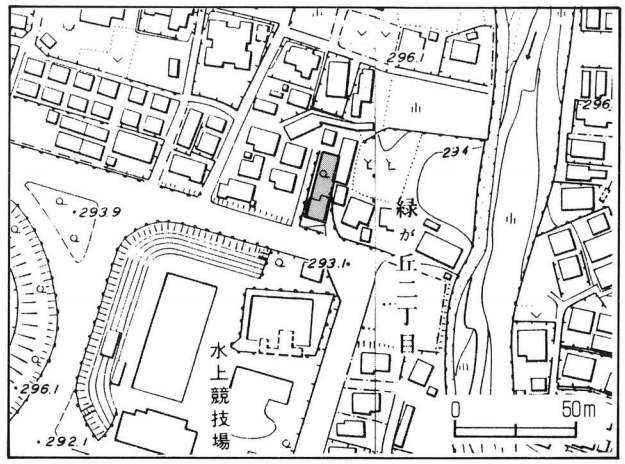


図１　出土遺物

13 緑が丘二丁目遺跡（第９次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目921-1・3,
　　923-2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　495.5㎡
調査面積　８㎡
調査期間　平成７年８月18日
調査担当　兒玉好美

遺跡の概要

調査区は相川右岸の標高約294ｍ地点に位置する、縄文から平安時代までの散布地である。現状周辺は住宅地である。

調査の概要

調査区域内に1.5ｍ×5.5ｍのトレンチを設定し、地表下約0.8ｍまで掘削を行った。遺構はなく、土師器小片が１点確認されたのみである。堆積層は、１～３層に分層される。第３層からは多量の河原石が検出され、旧河床であったものと考えられる。　（志村憲一）

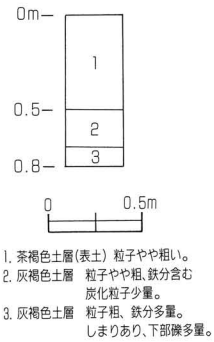
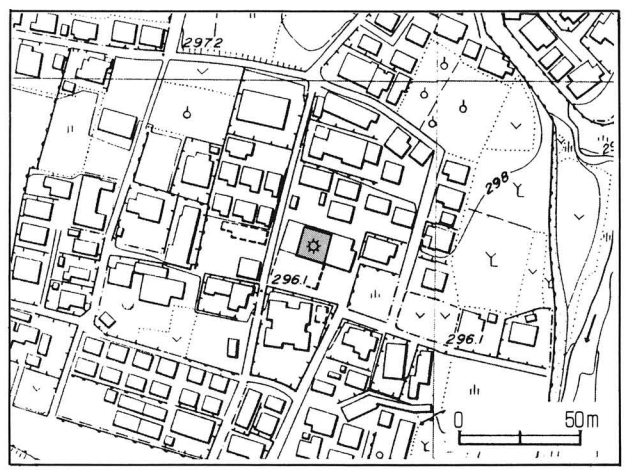


図1　基本層序

14 緑が丘二丁目遺跡（第10次）



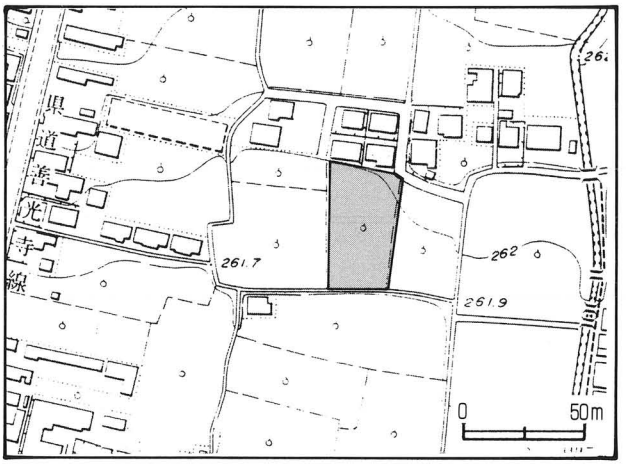
調査位置　甲府市緑が丘二丁目897-5
調査原因　個人住宅建設
対象面積　131.53㎡
調査面積　４㎡
調査期間　平成７年８月18日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

調査地は宅地造成工事に先立ち、進入道路部分について試掘調査を実施した地域であった（「緑が丘二丁目遺跡（第５次）」甲府市教育委員会『甲府市内遺跡Ⅱ』）。その調査データから現地表面から100cmまでは、遺物包含層に達しないことが想定されていた。

調査の結果、現地表面から60cmまでが攪乱層、60～80cmが暗褐色粘土層、それより下層が暗灰色土層（自然堆積層）であった。人工的な掘り込みや土器等は検出できなかった。

15 本郷遺跡



調査位置　甲府市善光寺三丁目2359-1
調査原因　集合住宅建設
対象面積　1,222㎡
調査面積　50㎡
調査期間　平成７年10月11日～16日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

本郷遺跡は、高倉川に開析された扇状地に立地する。本郷遺跡の周辺には本郷Ｂ遺跡（平安時代）・同Ｃ遺跡（古墳～中世）があり、北には武田信玄により遷座させられた甲斐善光寺が存在する。

調査区に幅２ｍでＴ字状にトレンチを設定し、調査を実施した。地表から30cmの地層を精査した結果、北東から南西方向にかけて溝状遺構が２条検出できた。溝の延長を確認するため、延長方向に１×４ｍのトレンチを設定し調査を行い、溝が延長することを確認した。出土遺物には土師質土器小片が２点確認できた。

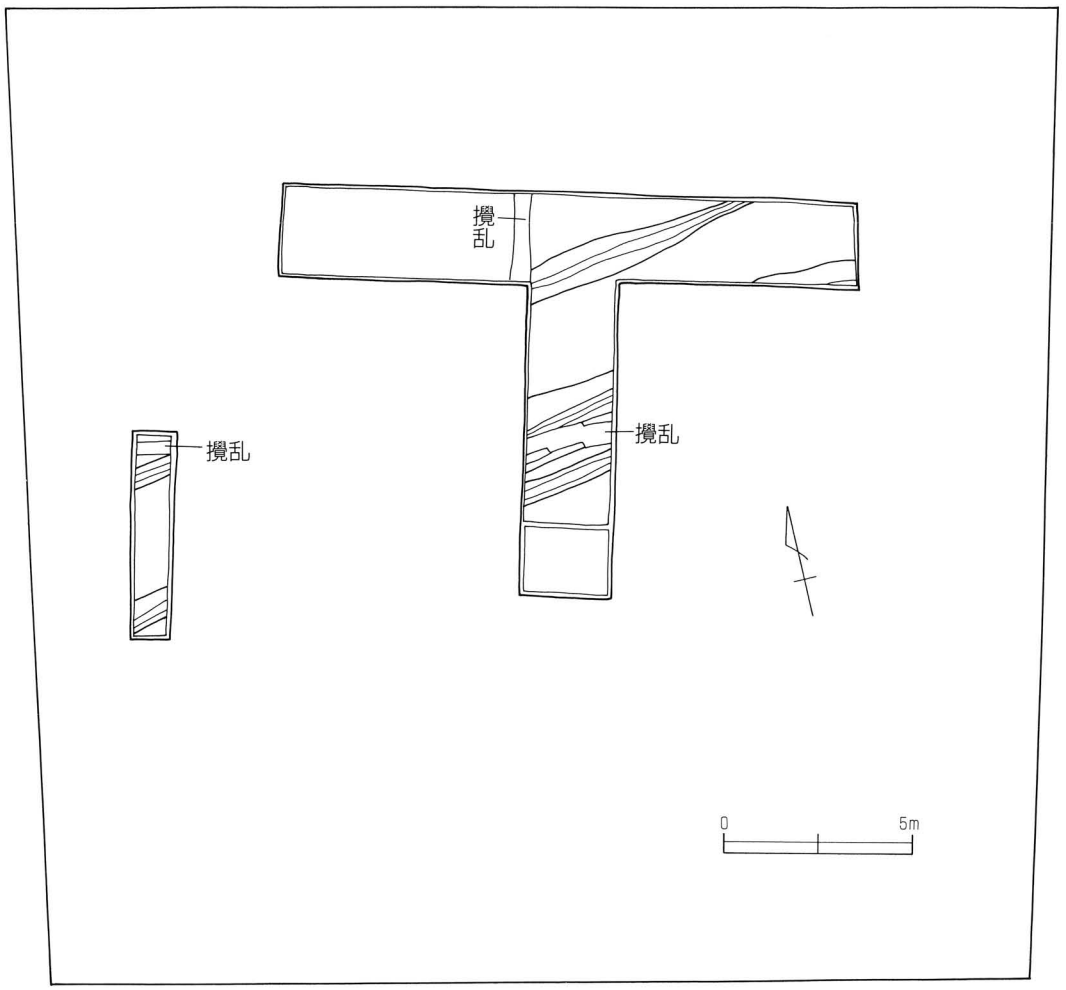


図１　調査区全体図

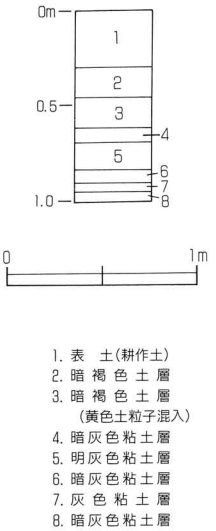
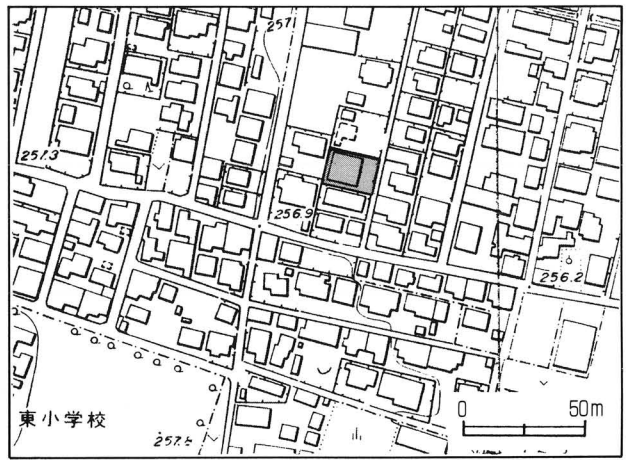


図２　基本層序

16 朝気遺跡（第12次）



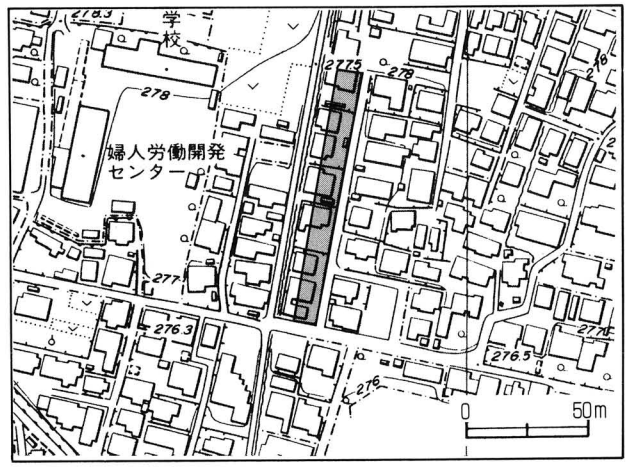
調査位置　甲府市朝気二丁目642-6
調査原因　個人住宅建設
対象面積　307.91㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成7年10月19日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

調査対象地に2×2mの試掘グリッドを設定し、調査を実施した。

地表から40cmまで攪乱、40～70cmまで灰色粘土層、70cmより下層は砂層が堆積する状況を確認した。出土遺物は、わずかに土師質土器の小片が1点出土しただけである。

17 塩部遺跡（第3次）



調査位置　甲府市塩部三丁目地内
調査原因　県道工事
対象面積　118.8㎡
調査面積　100㎡
調査期間　平成7年10月20日～11月1日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

主要地方道甲府・昇仙峡線（通称アルプス通り）の造成にともなう下水道敷設に先立つ試掘調査である。1m幅で延長100mのトレンチ調査を実施した。約1mの深さで掘削・精査した結果、人工的な遺物は全く検出できなかった。また、北東から南西方向の自然流路跡が3条確認できた。

18 十丁遺跡

調査位置　甲府市里吉三丁目823,824,827-1
調査原因　宅地造成
対象面積　2,628.95㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成8年1月8日～17日
調査担当　平塚洋一

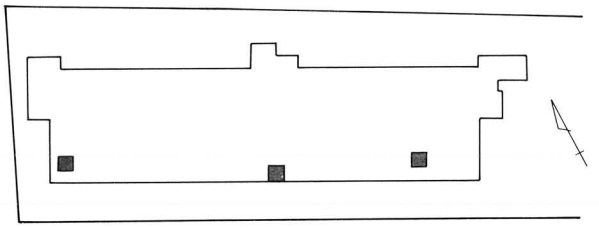


図1　試掘坑配置図

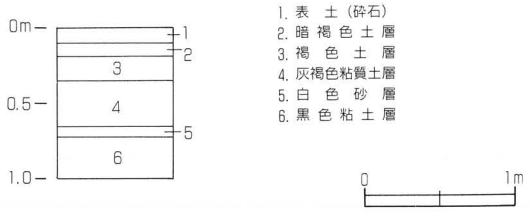


図2　基本層序

十丁遺跡は、東進してきた濁川と西進してきた十郎川が合流し、南へと方向を変える地点から南西約1.2kmに位置する。標高257m付近に位置し、濁川の氾濫により形成された沖積地である。平成14年度には宅地造成に先立つ試掘調査を実施した結果、古墳時代の土器や溝跡が検出できたため、拡張し調査を実施している。その結果、竪穴住居跡や方形周溝墓が確認された。

調査対象地に2×2mの調査グリッドを東・中・西の3箇所設定し、調査を実施した。地表から50～70cmの地層から古墳時代前期の土器が数点出土した。西に設定した調査区では、地表から60cmの地層で溝状遺構が検出できた。その規模は幅15cm、確認面からの深さ約10cm程度である。

出土遺物11は、真鍮製の鋺状金具である。外面に蓮華状のレリーフが施され、吊り下げ用の金具を留める穴が2箇所あけられ、うち1箇所には金具が残る。

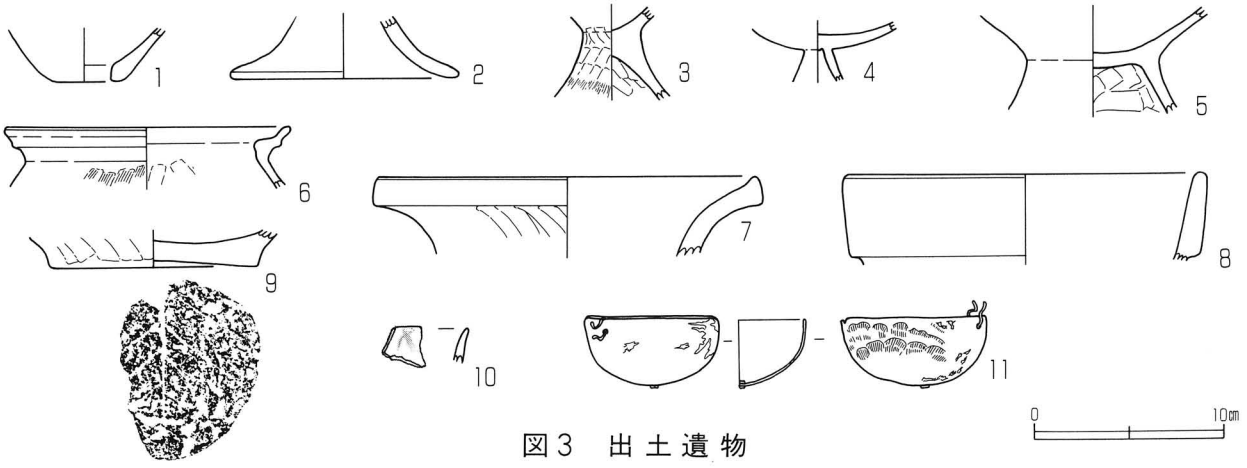


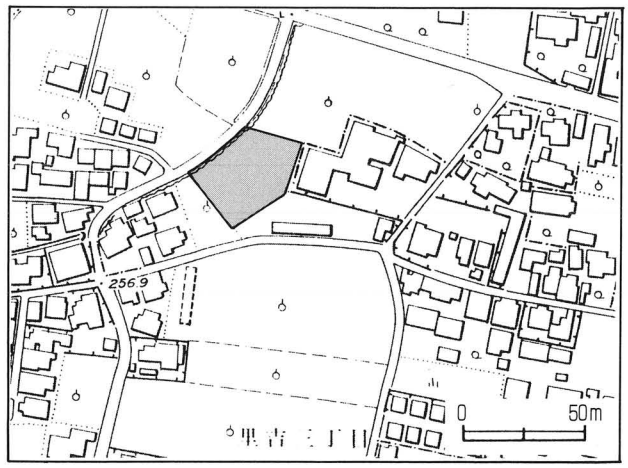
図3　出土遺物

表1　十丁遺跡出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種　別	器　種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調　整	色　調	焼成	備　考
1	土　器	甑	－	－	3.5		5YR 6/6 橙	良	
2	土　器	高坏	－	－	(12.0)	ナデ	5YR 6/6 橙	良	
3	土　器	高坏	－	－	－	ケズリ	10YR 6/3 鈍い黄橙	良	
4	土　器	高坏	－	－	－		7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
5	土　器	台付甕	－	－	－	ナデ・ケズリ	7.5YR 7/3 鈍い橙	良	
6	土　器	台付甕	(15.0)	－	－	ナデ・ハケ	10YR 6/4 鈍い黄橙	良	S字状口縁部
7	土　器	広口壺	(20.0)	－	－	ナデ・ケズリ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
8	土　器	壺	(19.2)	－	－	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
9	土　器	甕	－	－	(10.8)	ケズリ	10YR 6/3 鈍い黄橙	良	木葉痕
10	青　磁	碗	－	－	－		5Y 7/1 灰白	良	蓮弁紋
11	金属製品	仏具	7.0	3.5	－			良	真鍮製・外面に線刻

19 家之前遺跡（第１次）



調査位置　甲府市里吉三丁目1001
調査原因　宅地造成
対象面積　1,166㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成８年２月１日～５日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

家之前遺跡は、前述の十丁遺跡と同じく濁川の氾濫による沖積地に所在する。標高257ｍと甲府盆地のなかでも最も低い地域に位置する。『角川日本地名大辞典』19 山梨県（1983）によると、家之前遺跡が所在する里吉地区内に御前塚古墳という円墳があるとされる。

店舗建設予定地に２×２ｍの調査グリッドを３箇所設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、遺構は全く検出できなかった。出土遺物は中央に設定した調査グリッドから須恵器片が１点出土しただけである。しかし、同じ遺跡のなかでは方形周溝墓も確認されており、注意が必要な地域である。

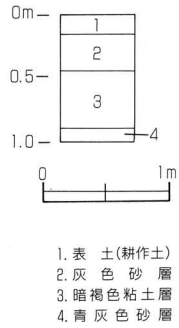
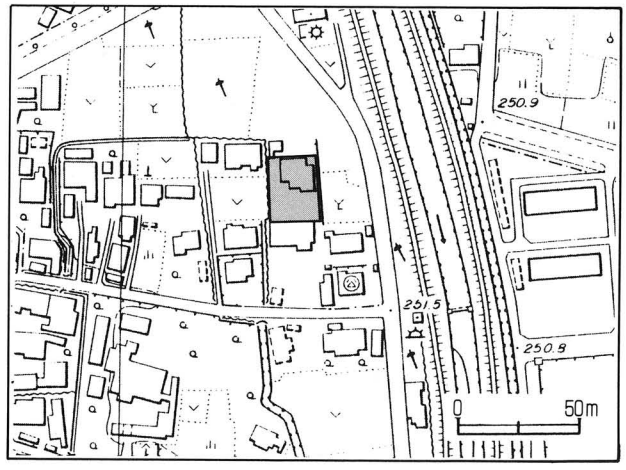


図1　基本層序

20 金山遺跡



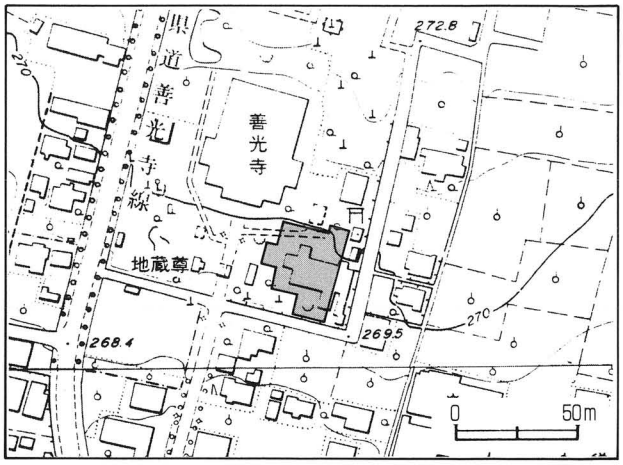
調査位置　甲府市高室町724-2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　147.15㎡
調査面積　２㎡
調査期間　平成８年２月27日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

金山遺跡が所在する高室町は甲府市南部、荒川下流で笛吹川と合流する付近に位置する。高室町は、武田信虎の時代、家臣の高室氏が居宅を移したことにより、その名前が冠せられたとされる。調査区に隣接して江戸時代から明治年間にかけて建設された建物が残り、平成17年に県指定文化財「高室家住宅」として指定された。

調査の結果、地表から約１ｍまで砂層が堆積しそれより下層は1.2ｍまで暗灰色のシルト層が堆積していた。出土遺物は確認できなかった。調査地点は鎌田川に隣接し、氾濫の影響を受けたことが推測される。

21 善光寺境内遺跡



調査位置　甲府市善光寺三丁目2669-1
調査原因　壇信徒会館建設
対象面積　494.06㎡
調査面積　90㎡
調査期間　平成８年３月６日～15日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

甲斐善光寺は、武田信玄が上杉謙信との川中島の合戦により信州善光寺が罹災することをおそれ、永禄元年（1558）に仏像や経典、僧侶などを甲斐に移し建立したものである。

創建当時の建物は江戸時代中期に火災に遭い、そのほとんどを失ったため、30年の歳月をかけて復元したものが現在の本堂（金堂）である。桁行約38ｍ、梁行約23ｍ、高さ約26ｍの規模を誇り、全国でも五指に入る木造建築物である。しかし、創建当時はさらに大きな規模だったとされ、今回の調査は建築当時の伽藍配置や建物の規模を確認するための調査であった。

調査は既存建物（昭和期建設）部分を撤去し、建築予定建物の範囲にトレンチを３箇所設定して実施した。調査の結果、中世までさかのぼる遺構は検出できなかった。出土遺物に内耳鍋、ロクロ成形のかわらけ等がある。

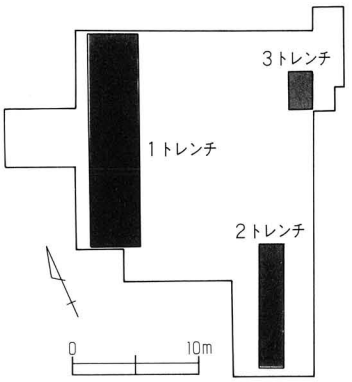


図１　トレンチ配置図

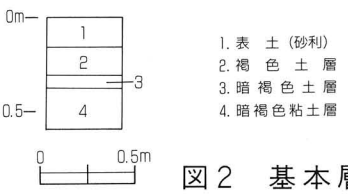


図２　基本層序

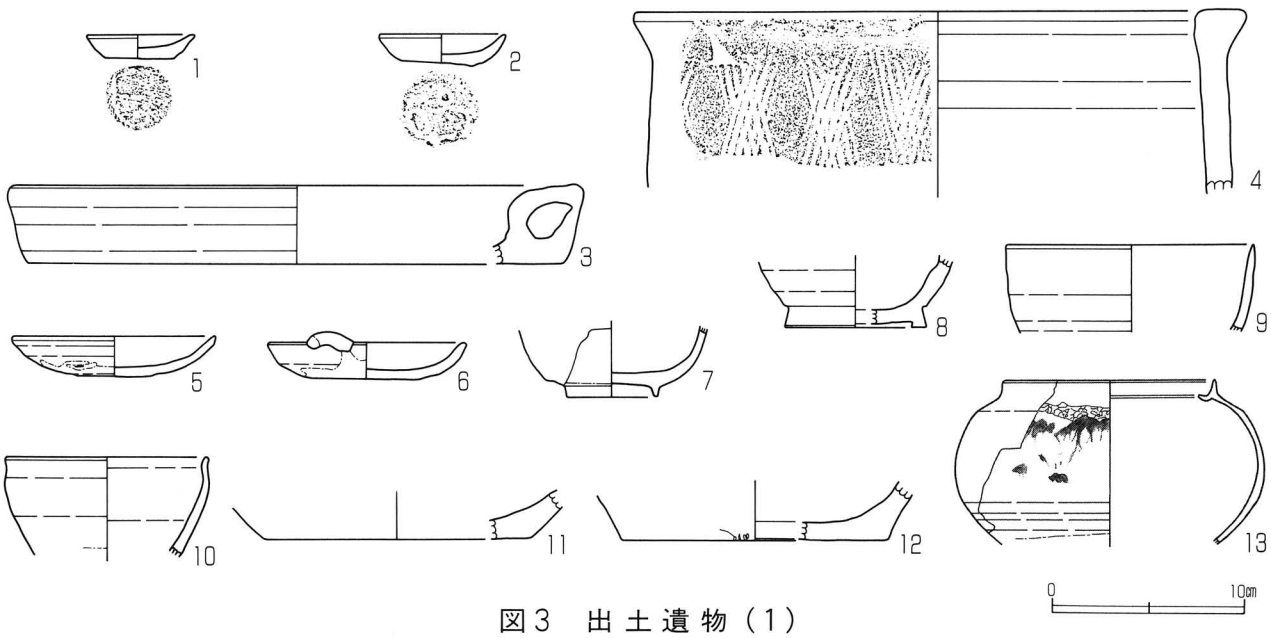


図３　出土遺物（１）

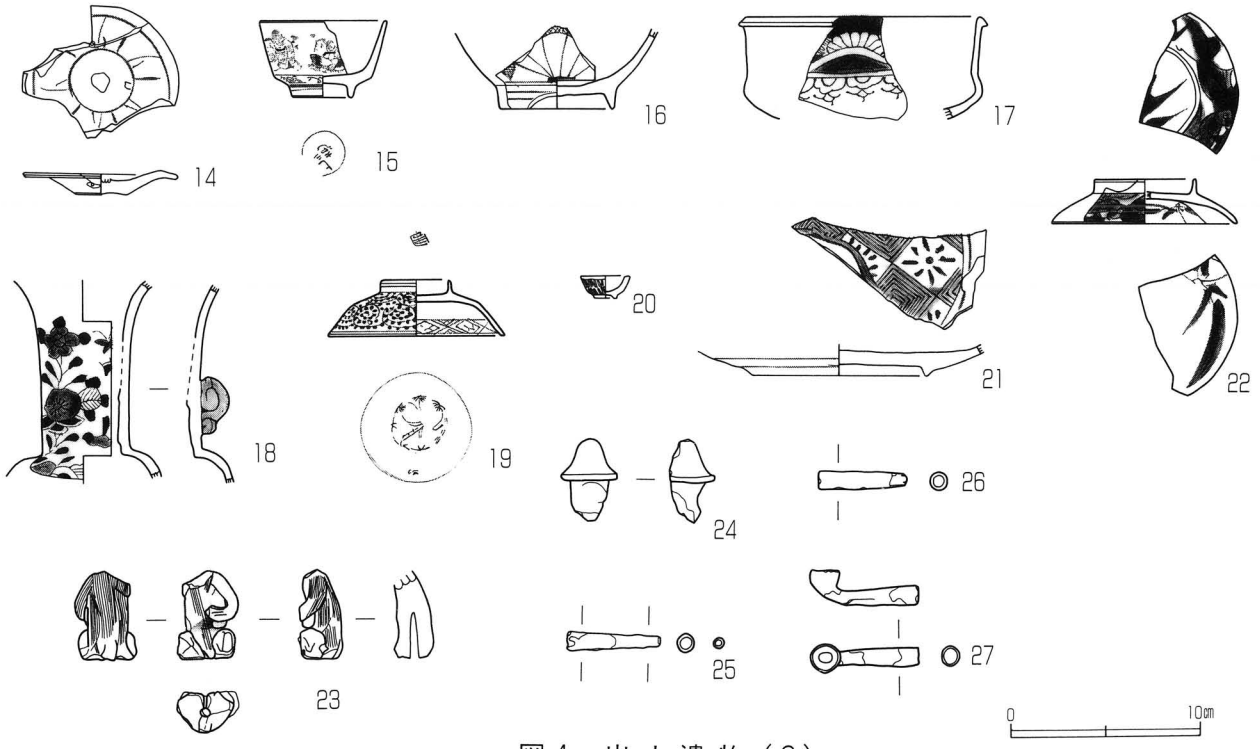


図4　出土遺物（2）

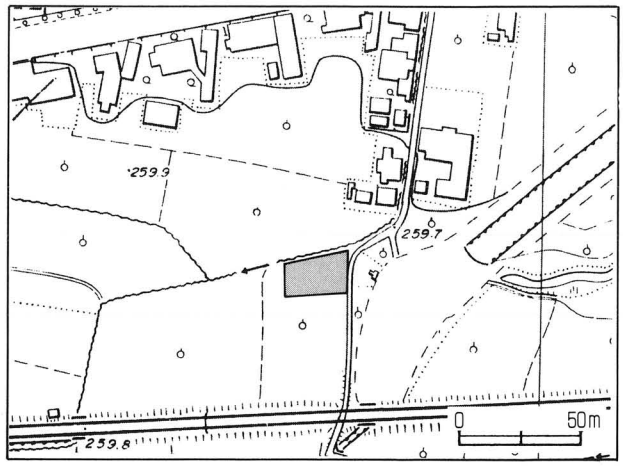
表1　善光寺境内遺跡出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	かわらけ	5.6	1.2	3.6	ロクロナデ	7.5YR 6/6 橙	良	
2	土器	かわらけ	6.6	1.5	4.3	ロクロナデ	5YR 5/6 明赤褐	良	
3	土器	内耳鍋	(29.5)	(4.1)	(28.0)	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
4	土器	甕	(32.0)	—	—	ナデ	7.5YR 6/6 橙	良	
5	陶器	皿	(10.5)	(2.1)	(4.0)		2.5Y 8/3 淡黄	良	
6	陶器	皿	10.3	2.0	5.6		2.5Y 8/2 灰白	良	
7	陶器	碗	—	—	4.7		2.5Y 8/3 淡黄	良	
8	陶器	壺	—	—	(7.4)		2.5Y 8/3 淡黄	良	
9	陶器	碗	(13.0)	—	—		2.5Y 8/3 淡黄	良	
10	陶器	碗	(10.4)	—	—		2.5Y 8/2 灰白	良	天目茶碗
11	陶器	擂鉢	—	—	(14.0)		10R 4/6 赤	良	
12	陶器	擂鉢	—	—	(14.0)		2.5Y 8/3 淡黄	良	
13	陶器	土瓶	(11.0)	—	—		10YR 7/6 明黄褐	良	
14	陶器	土瓶蓋	8.1	1.1	2.6		2.5Y 7/4 浅黄	良	
15	磁器	碗	(6.6)	(4.1)	3.0			良	絵付
16	磁器	碗	—	—	(6.0)			良	染付　広東碗
17	磁器	香炉	(12.0)	—	—			良	染付
18	磁器	花瓶	—	—	—			良	染付
19	磁器	蓋	9.2	3.0	3.5			良	染付
20	磁器	紅猪口	(2.6)	(1.2)	1.2			良	
21	磁器	皿	—	—	(9.2)			良	染付
22	磁器	蓋	(9.8)	(2.3)	(5.4)			良	染付
23	土製品	泥人形	(4.6)	3.0	1.9		7.5YR 7/6 橙	良	猿
24	土製品		(4.3)	3.0	—		10YR 3/1 黒褐	良	
25	金属製品	煙管	(4.8)	1.0	0.2				
26	金属製品	煙管	(4.5)	0.9	0.2				
27	金属製品	煙管	(5.6)	1.0	0.1				

22 大坪遺跡（第９次）

調査位置　甲府市横根町275-1・3
調査原因　個人住宅建設
対象面積　77.66㎡
調査面積　８㎡
調査期間　平成８年４月２日～３日
調査担当　志村憲一



調査の概要

大坪遺跡は古墳～平安時代の生産遺跡である。調査区は十郎川の右岸標高約259ｍに位置する。

調査区域内に２ｍ四方の試掘坑を２箇所設定し、地表下約1.4ｍ地点まで人力で掘削を行った。両試掘坑からは遺構・遺物は確認されてはいない。地表下約1.5ｍ地点には、幅５～10cmのＡＴ層（２万５千年前の姶良火山灰層）の堆積が確認されている。（志村憲一）

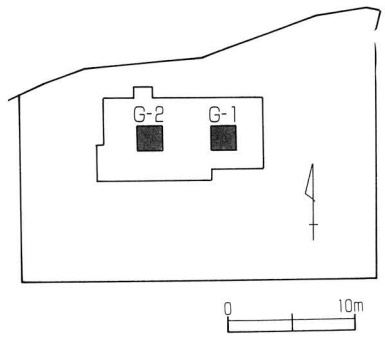
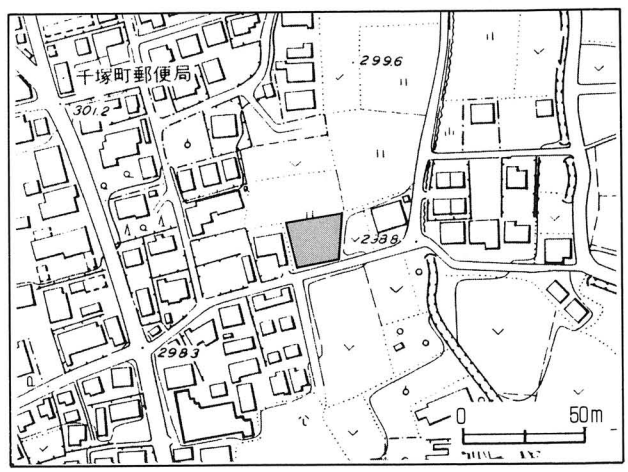


図１　試掘坑配置図

23 榎田遺跡（第１次）

調査位置　甲府市千塚五丁目3006-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　325.19㎡
調査面積　９㎡
調査期間　平成８年４月２日～９日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

榎田遺跡は荒川により形成された扇状地の、標高305ｍ付近に位置する。県埋文センターにより平成４年(1992)に発掘調査が実施され、方形周溝墓群が確認されている。

今回は、３×３ｍの試掘調査グリッドを設定し、調査を行った。地表下約30cmから土器・陶磁器が出土し始め、約100cm下層で遺構確認面となる。今回の調査では遺構は検出されなかった。また十分な保護層が保てることを確認し調査を終了した。

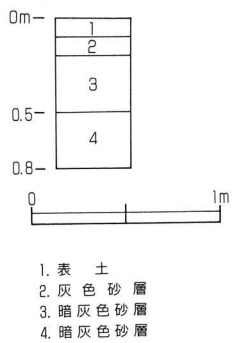


図１　基本層序

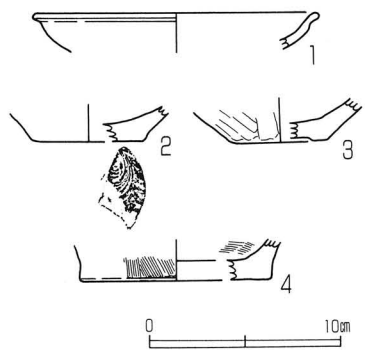
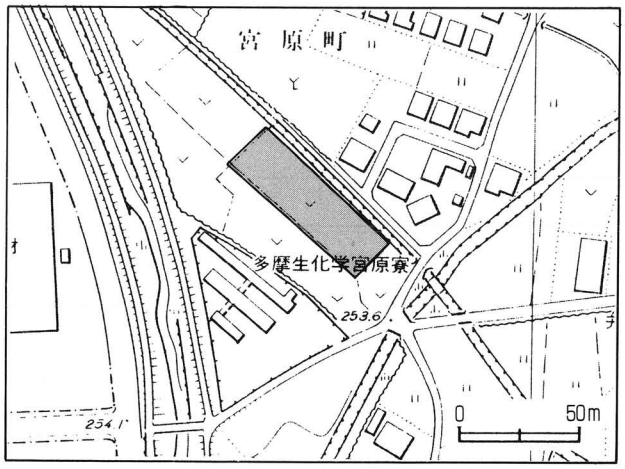


図２　出土遺物

24 桜林B遺跡

調査位置　甲府市宮原町248-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　139.47㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成8年4月15日～19日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

桜林B遺跡は荒川と鎌田川に挟まれた地域の標高253m付近、両河川の氾濫により形成された沖積地に所在する。特に調査地は鎌田川から約30mの位置にある。調査地に2×2mの調査グリッドを2箇所設定し、調査を行った。

調査の結果、地表から80cmまでが盛土、その下に耕作土、褐色土、砂層となる。出土遺物は平安時代の土師質土器の小片が確認できた。

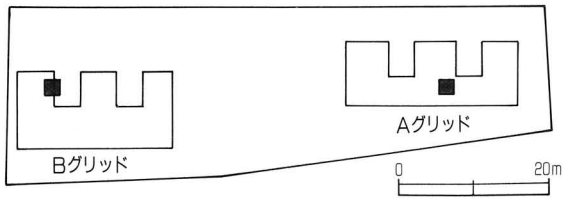


図1　試掘坑配置図

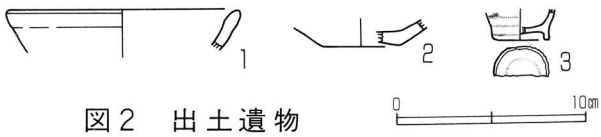
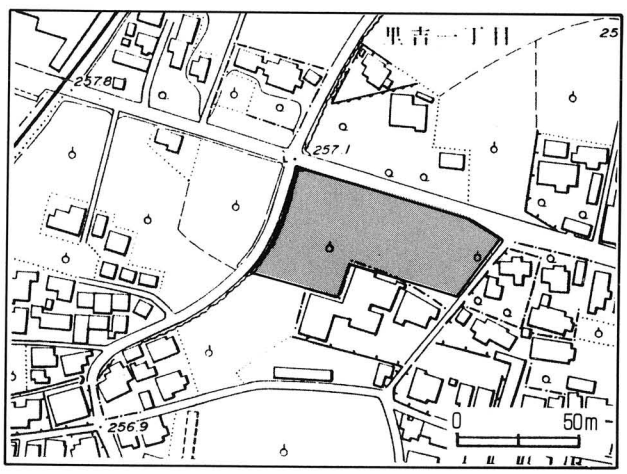


図2　出土遺物

25 家之前遺跡（第2次）

調査位置　甲府市里吉三丁目1003,1010,1012-2
調査原因　店舗建設
対象面積　2,650.6㎡
調査面積　33㎡
調査期間　平成8年5月13日～24日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

当初3×3mの調査グリッドを設定し調査を行った。西から1・2・3グリッドとし、1・2グリッドは地表から140cm掘り下げた結果、地表下80cmより下層が砂層となり、地表下130cmから湧水し始める。東端の3グリッドは地表下60cm付近から土器がややまとまって出土するため、東側に2m幅で拡張した。しかし、遺構は検出できず、地表下1.2mで湧水し始める。

調査の結果、西側には旧自然河道があったことが想定され、東側の微高地に集落が展開したものと考えられる。

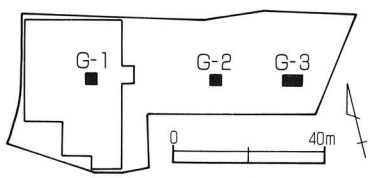


図1　試掘坑配置図

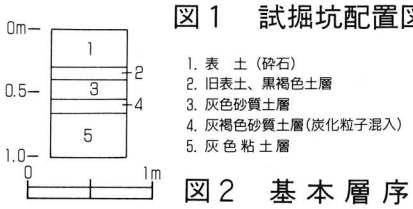


図2　基本層序

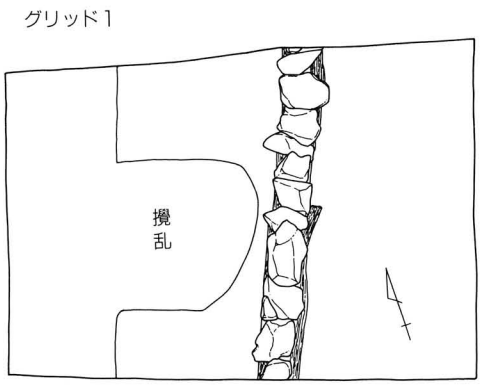
26 村内石山遺跡

調査位置　甲府市横根町724-1他
調査原因　グラウンド造成
対象面積　6,644㎡
調査面積　26㎡
調査期間　平成８年５月27日～６月４日
調査担当　佐々木　満

調査の概要

調査対象地は、村内石山遺跡包蔵地範囲の東端に位置し、西側の山の斜面が終わり、平坦に開ける場所である。試掘調査は、南北方向に長い調査区に対して２ｍ×２ｍのグリッドを６箇所に設定したが、グリッド１は遺構確認のため一部拡張して調査を実施した。

表土層直下は水田層であり、水田造成層除去後は黒色土が確認された。黒色土面の確認でグリッド１・５から石蓋の水路が各１条検出されたが、水路は排水用の暗渠と考えられ、葡萄畑かあるいは水田開発に伴う暗渠と考えられた。土層堆積状況を確認するため、部分的にサブトレンチを入れたところ、黒色土下層には藻など水生植物で形成された腐葉土層が50cmほど堆積していることが判明した。結果、近世以降と考えられる暗渠以外に遺構は確認されず、それより下層にはかつて湿地あるいは沼地が形成されていたと考えられる。



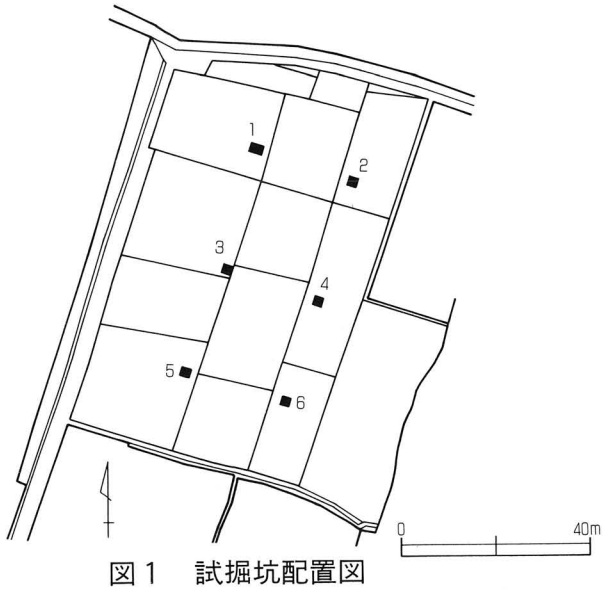


図１　試掘坑配置図

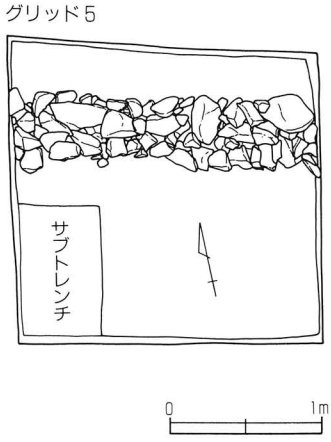


図２ グリッド１・５ 全体図

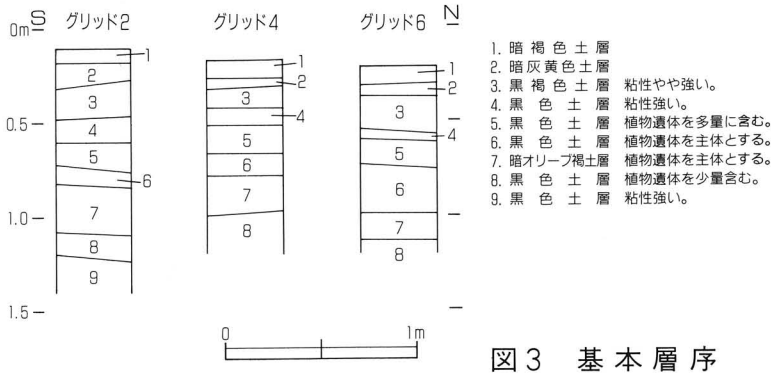
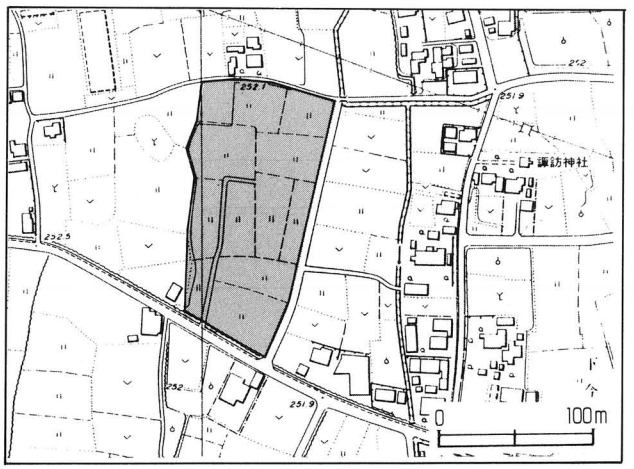


図３　基本層序

27 汗タリ遺跡

調査位置　甲府市下今井町18-1他
調査原因　市民センター建設
対象面積　10,088㎡
調査面積　75㎡
調査期間　平成８年６月13日～21日
調査担当　佐々木　満



調査の概要

本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲ではないものの、本市南部市民センター建設に伴う大規模な造成工事であったため、字名から汗タリ遺跡と付して試掘調査を実施した。南北方向に長い敷地に対して、建物予定地についてはＬ字状のトレンチを設定し、駐車場などその他施設の予定地については２ｍ×３ｍのグリッドを７箇所設定して調査した。

掘削を進めると、調査区は全体に50～60㎝程度盛土造成されていることが判明し、実際の調査は、その下層からとなった。盛土層直下には旧地表となる水田造成層が確認され、除去後は粗粒砂層が確認された。それ以下はすべて粗粒砂層であり、状況からみて河川氾濫による洪水層と考えられる。粗粒砂層は掘削した調査区すべてにおいて確認され、部分的に深さ約2.5ｍまで掘削した段階でも変化が見られなかったことから、厚く堆積していることが予測された。よって、本地点には埋蔵文化財はないと判断し、試掘調査を終了した。

遺物は盛土層からの表採品が多く、水田層以下からは僅かに２点のみであった。掲載したのは全体に歪んでいるが盛土層から出土した銅製の脚付香炉である。年代などは不明である。

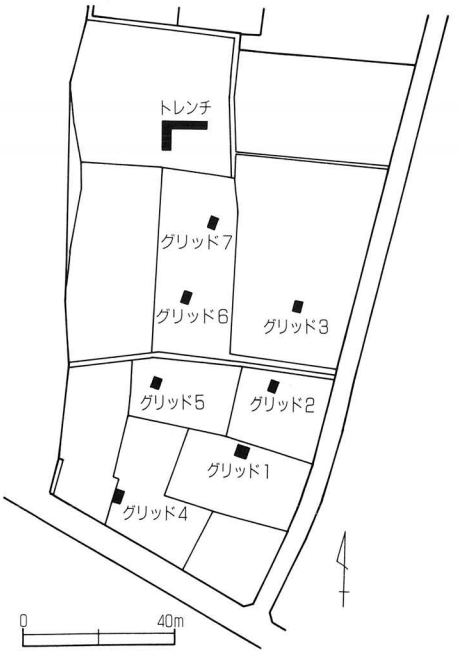
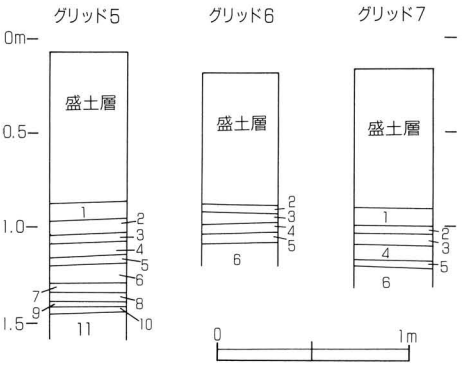


図１　トレンチ配置図



1. 暗灰黄色土層　一部青味がかり、砂粒多量含む。
2. 暗オリーブ褐色土層　砂粒多量、炭化物微量含む、水田耕作土層。
3. 黄褐色土層　砂粒多量含む。酸化鉄を多く含む、水田床土層。
4. 暗オリーブ色砂質土層　砂粒多量含む、水田耕作土層。
5. 暗灰黄色砂質土層　砂粒多種含む。水田床土層。
6. 暗オリーブ褐色砂質土層　砂粒多量、炭化物微量。
7. 暗灰黄色砂質土層　細粒砂を主体とする層。
8. 灰色粗粒砂層
9. 灰黄色粗粒砂層
10. 黄灰色粗粒砂層
11. 灰色粗粒砂層

図２　基本層序

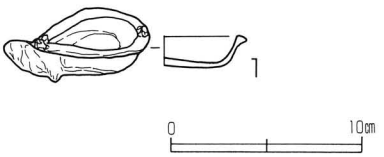
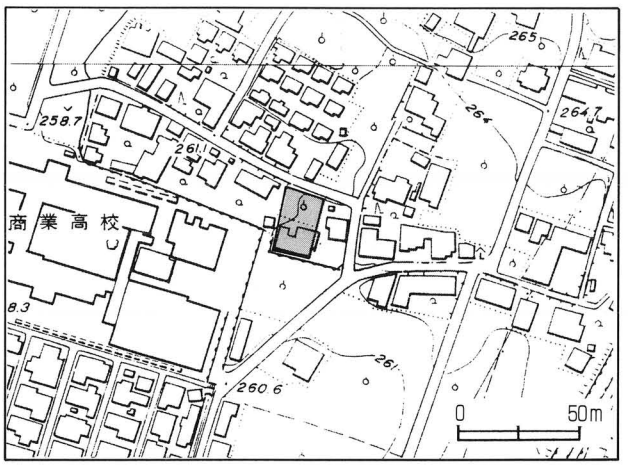


図３　出土遺物

28 銀杏之木遺跡



調査位置　甲府市東光寺二丁目310-1
調査原因　集合住宅建設
対象面積　562.44㎡
調査面積　15㎡
調査期間　平成８年７月１日～11日
調査担当　佐々木　満

調査の概要

本地点は、銀杏之木遺跡の包蔵地範囲北端部に位置し、北側には宮裏遺跡が近接する。南北方向に長い敷地に対して２ｍ×２ｍのグリッドを４箇所設定し、調査を実施した。各グリッドとも土層の堆積状況に変化はなく、地表下約30cmまでは盛土がなされ、その下層から黒色土が確認された。遺構は黄褐色の地山層上で確認されたが、実際には黒色土上から掘り込まれていることが後に確認されている。

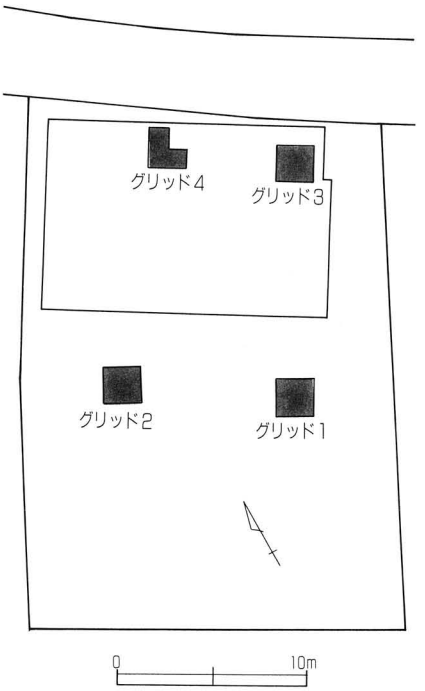


図１　トレンチ配置図

検出遺構

グリッド２からは土坑１基、グリッド３からはピット１基、グリッド４からは溝跡が１条検出された。土坑、ピットからの出土遺物はなく年代は不明である。溝跡からは台付甕など古墳時代の遺物が出土したが、掘り込みの位置が上層であることから、近世以降の溝跡と考えられる。溝跡には小礫が詰め込まれていたことから、人為的に埋め戻されたと考えられ、比較的新しい時期の廃絶と考えられる。

出土遺物

図化できなかったが、土師器や中世の擂鉢などが出土している。

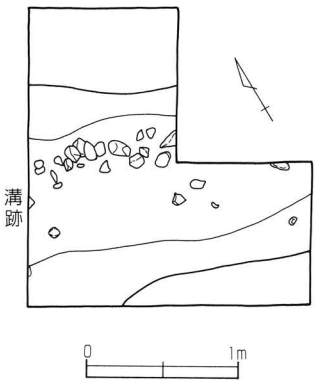
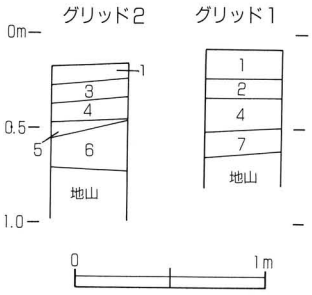


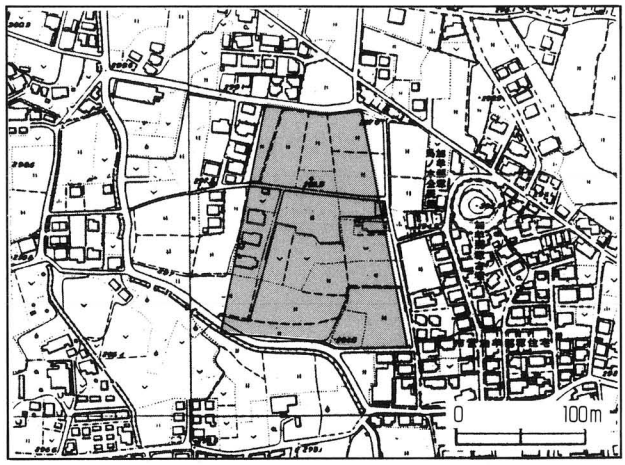
図２　グリッド４



1. 表　土
2. 暗褐色土層　砂粒、炭化物微量。
3. 黒褐色土層　粗粒砂多量、小礫微量。
4. 暗褐色土層　焼土粒、炭化物少量、小礫微量、粘性やや強。
5. 黒色土層　焼土粒、酸化鉄粒子少量、粘性やや強。
6. 黒褐色土層　酸化鉄粒子少量、しまり強い。
7. 黒色土層　酸化鉄粒子微量、しまり強い。

図３　基本層序

29 金塚西遺跡（第２次）



調査位置　甲府市千塚三丁目地内
調査原因　公園建設
対象面積　21,299.69㎡
調査面積　100㎡
調査期間　平成８年７月11日～８月26日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

金塚西遺跡は県史跡加牟那塚古墳の西側に隣接する。平成６年度から引き続き実施している千塚公園建設のための確認調査である。

平成８年度は、調査可能な地区を任意に６区画に分け、２×２ｍの調査グリッドを合計で31箇所設定し調査を行った。調査の結果、１・２区は約30cmの盛土があり、地表下約70cmが遺物包含層となる。３区は最も遺物が集中する調査区である。地表下約40～120cmまで古墳時代前期の土器がまとまって出土した。４区は約30cmの盛土があり、地表下約50cmから遺物包含層となる。５区は約80cmの盛土があり、土器の出土はほとんどなく地表下約120cmで湧水する。６区は地表下約60cmが遺物包含層となり、同時に湧水層となるため調査は困難であった。

全体的には、東側（加牟那塚古墳に近い側）では土器の出土量が少なく、西側に偏って多く出土する傾向が窺えた。そのことから、古墳時代の集落の中心は調査区の西にあったことが想定できる。

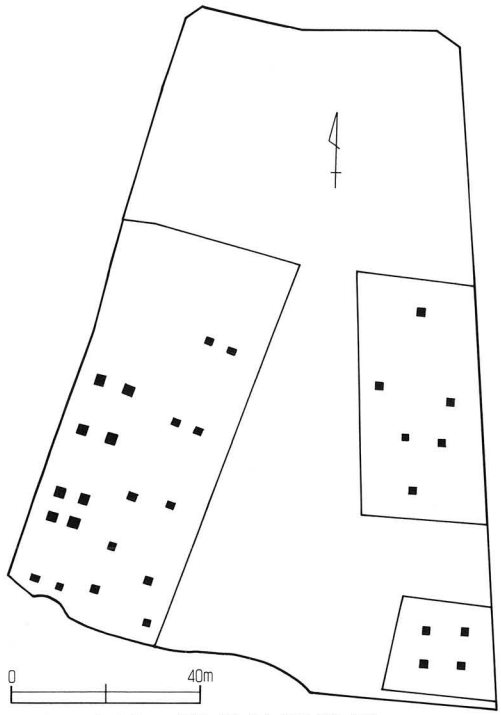


図１　試掘坑配置図

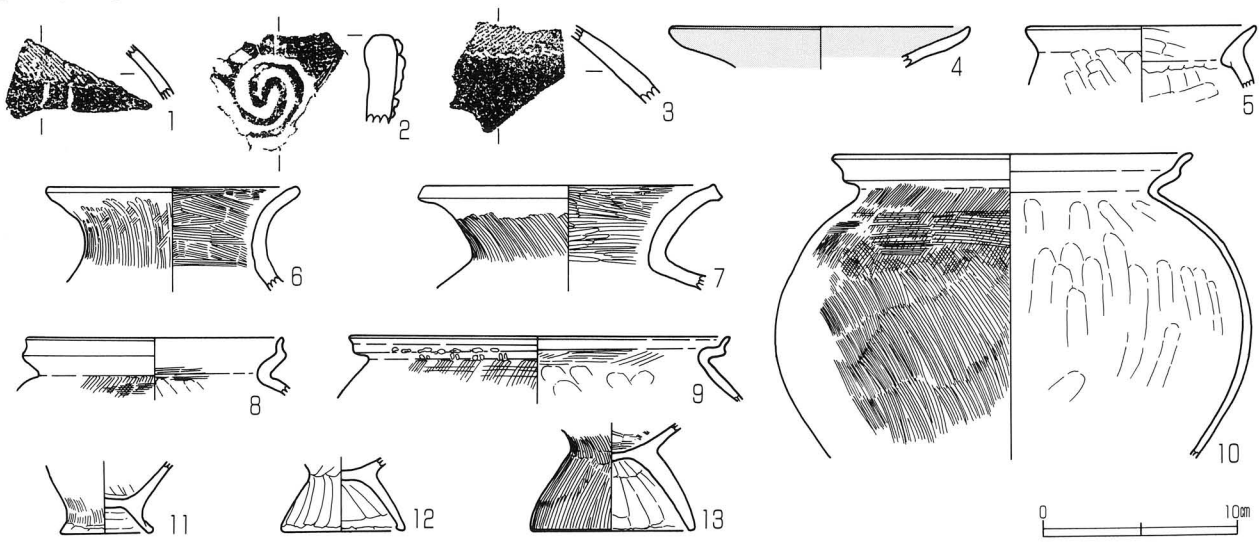


図２　出土遺物

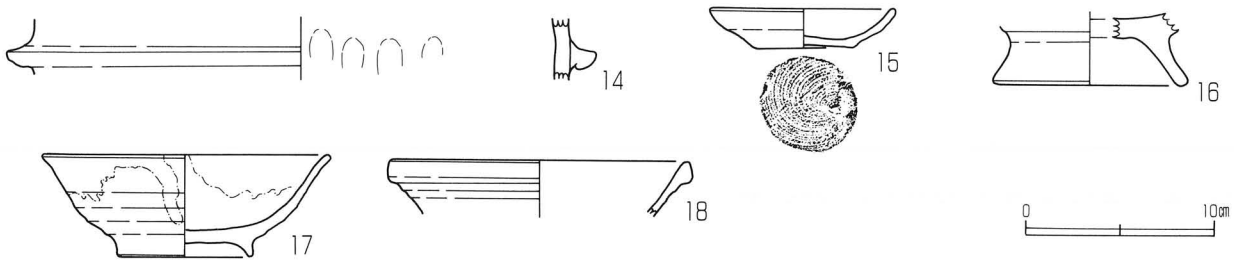


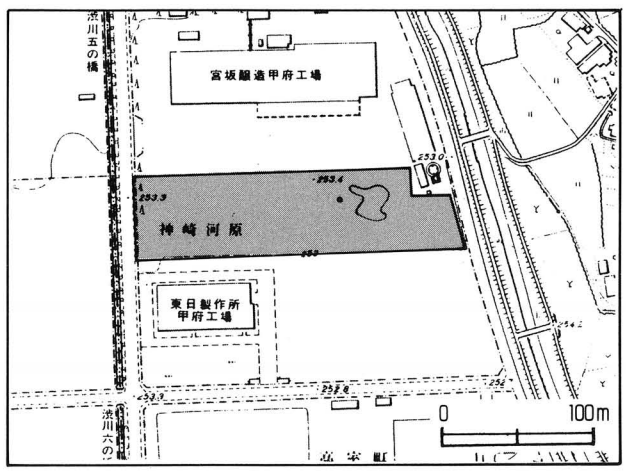
図3　出土遺物

表1　金塚西遺跡（第2次）出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器		－	－	－	すり消し縄文	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
2	土器	深鉢	－	－	－		5YR 5/4 鈍い赤褐	良	渦巻き隆帯
3	土器		－	－	－	すり消し縄文	7.5YR 6/6 橙	良	
4	土器	器台か	(16.0)	－	－	ナデ・ミガキ	7.5Y 4/6 赤	良	内外赤色塗彩
5	土器	小型甕	(12.0)	－	－	ナデ・指頭ナデ・ハケ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
6	土器	甕	13.2	－	－	ミガキ・ハケ	2.5YR 6/8	良	
7	土器	壺	15.4	－	－	ナデ・ミガキ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
8	土器	台付甕	(13.5)	－	－	ナデ・ハケ・指頭痕	5YR 4/4 鈍い赤褐	良	S字状口縁部
9	土器	台付甕	(20.0)	－	－	ナデ・ハケ・指頭痕	5YR 5/6 明赤褐	良	S字状口縁部
10	土器	台付甕	18.6	－	－	ナデ・指頭ナデ・ハケ	7.5YR 6/6 橙	良	S字状口縁部
11	土器	台付甕	－	－	4.8	ナデ・ハケ	5YR 4/4 赤褐	良	
12	土器	台付甕	－	－	6.8	ケズリ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
13	土器	台付甕	－	－	(8.4)	ケズリ・ハケ	5YR 6/4 鈍い橙	良	
14	土器	羽釜	－	－	(31.0)	ナデ・指頭痕	7.5YR 5/3 鈍い褐	良	
15	土器	かわらけ	9.7	2.1	5.0	ロクロナデ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
16	土器	脚高高台坏	－	－	(10.4)	ロクロナデ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
17	灰釉陶器	碗	(15.0)	(5.4)	(7.2)	ロクロナデ	N 7/ 灰白	良	
18	白磁	碗	(16.0)	－	－	ロクロナデ	7.5Y 7/1 灰白	良	

30 砂間遺跡



調査位置　甲府市高室町国母工業団地162
調査原因　工場増築
対象面積　455.49㎡
調査面積　6㎡
調査期間　平成8年7月15日～17日
調査担当　佐々木　満

調査の概要

調査対象地は、砂間遺跡の包蔵地範囲北西隅に位置するが、調査前から立地や周囲の確認状況からみて遺跡の密度は薄いものと予測された。工場本体は稼動中で業務に支障のないように配慮するとともに地下埋設の配管などを損傷しないよう調査は最低限での確認となった。2m×2mのグリッドを建物予定地の東西両端に設定し、調査を実施したが、東側では配管の関係で最終的に2m×1mの掘削に止めた。

アスファルトと砕石の層を除去したところで畑の耕作土と考えられる土層が約40cm確認

されたが、その下層は砂層が何層にも堆積していた。粗粒砂と細粒砂が相互に堆積しており、河川氾濫によるものと考えられる。おそらく現在本地区東側を流れている鎌田川の洪水によるものと考えられる。遺構・遺物なども確認されず、本地点では遺跡は確認されなかった。

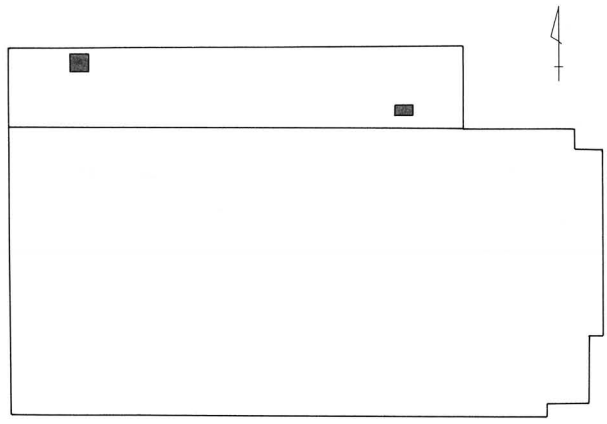


図1　試掘坑配置図

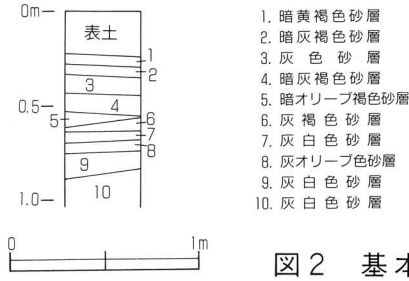
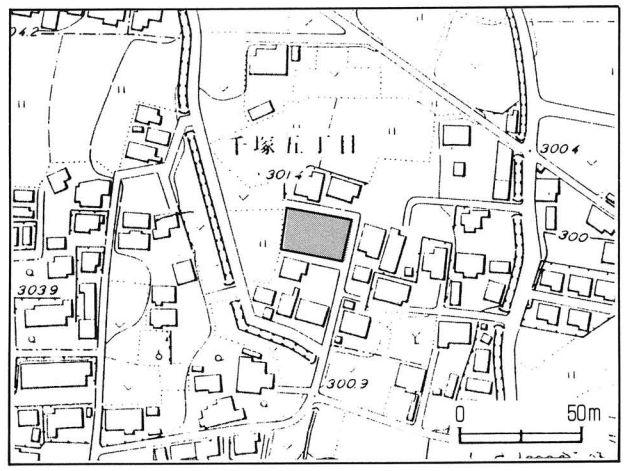


図2　基本層序

31 榎田遺跡（第2次）



調査位置　甲府市千塚五丁目2805-4・5他
調査原因　集合住宅建設
対象面積　504㎡
調査面積　45.7㎡
調査期間　平成8年7月25日～8月20日
調査担当　佐々木　満

調査の概要

本地点は、榎田遺跡包蔵地範囲の東端に位置し、近隣には金塚西遺跡、天神西遺跡など時期的に併行する遺跡群が点在する。調査区は、当初2m×2mのグリッドを3箇所設定して調査したが、2箇所のグリッドで遺構が検出されたため、その後3つのグリッドを接合し、T字状のトレンチで全体の確認を実施した。基本的に全体的に水田造成層が地表下約40cmまで形成されており、遺構はその直下の安定した砂質土上で確認している。

検出遺構

調査区全体で溝跡9条、竪穴建物1棟、ピット2基、土坑1基などを検出したが、溝跡の多くは覆土に粗粒砂層を含んでおり、洪水による埋没であると考えられる。調査段階では溝跡が重複して確認されたが、3号溝と9号溝、あるいは5号溝と6号溝などは洪水の際の流路である可能性もある。しかし、確認段階では遺構の発見が前後したこともあり、別遺構として番号を付し調査した。溝跡は、出土遺物の年代では13世紀初頭から13世紀後半と考えられる。

トレンチ北側では竪穴建物跡が1棟確認され、一部調査区を拡大して掘削した。床面に

は炭化物などが散布し、調査区北壁際で竈か炉と考えられる焼土塊の集中箇所が確認された。建物内にはピット２があるが、規模と位置からみて竪穴建物跡の柱穴であるかは定かではない。時期的には６世紀後半と考えられる。

出土遺物

溝跡からは灰釉陶器、常滑甕、華南白磁、龍泉・同安窯青磁などの陶磁器と、外耳鍋、手づくねかわらけなどの土器類が出土している。竪穴建物跡からは土師器・須恵器の蓋、甕などが出土している。他にも調査区内で16世紀後半の青花皿が出土するなど幅広い時期の遺物が出土している。

ま と め

全体的に６世紀代と13世紀代の遺構・遺物がまとまって出土している。13世紀代の遺構・遺物については、当該地域から甲斐市東部に展開したと推定される志摩荘との関連を考える上で貴重な調査事例となった。

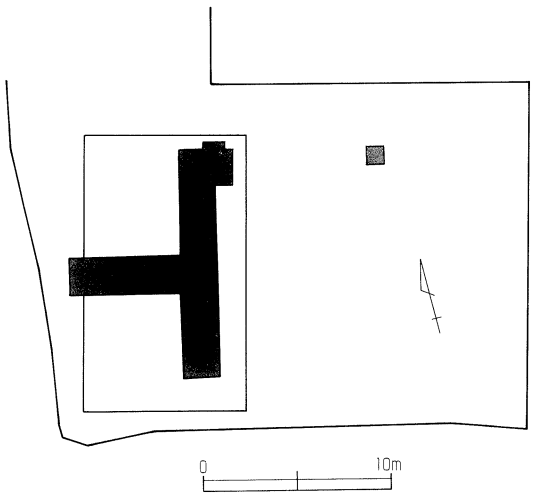
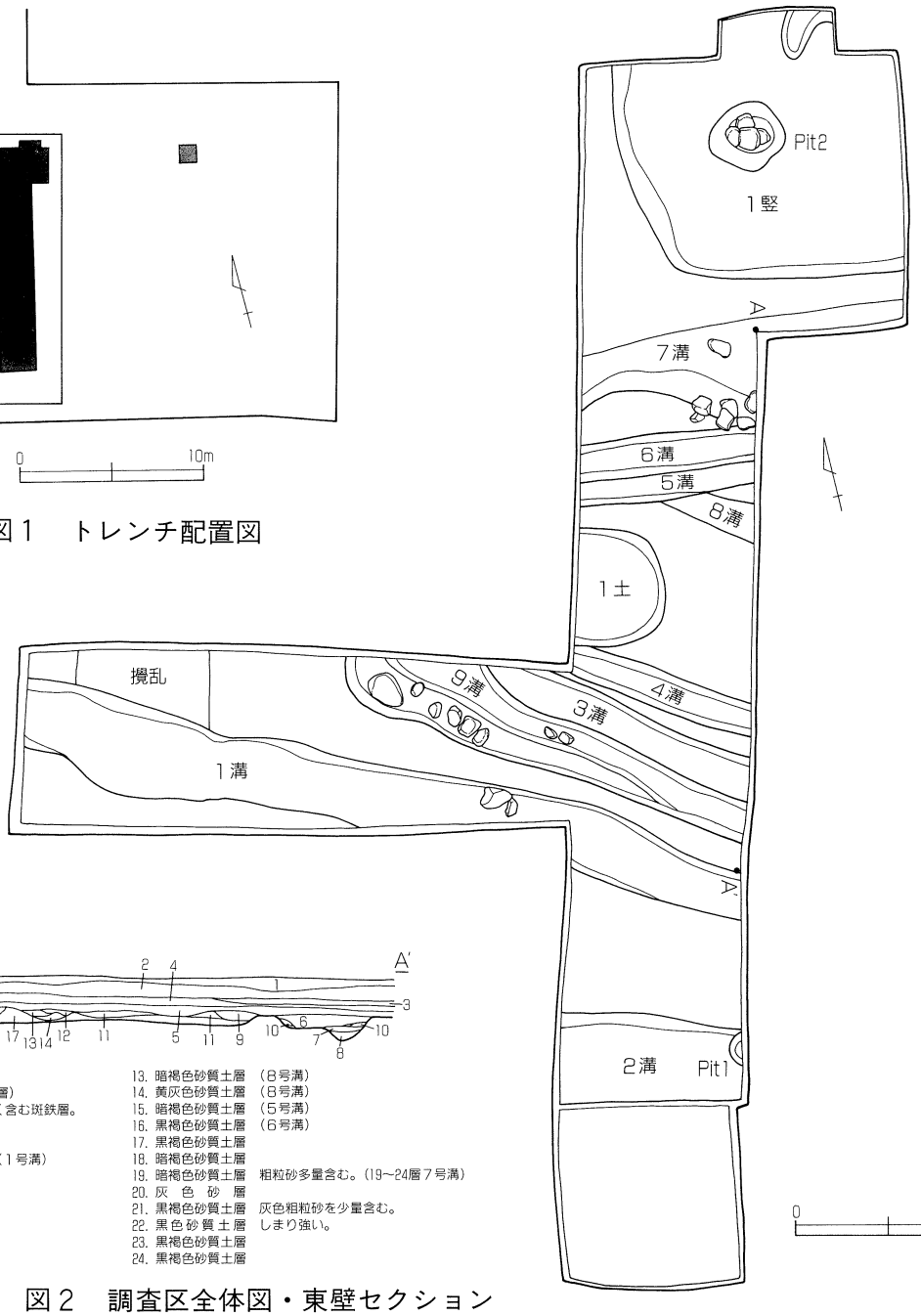
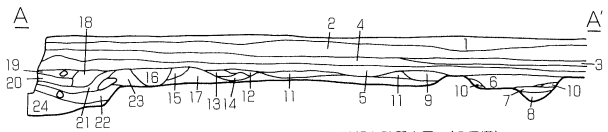


図１　トレンチ配置図





1. 表　土
2. 黄 灰 色 土 層　（水田耕作土層）
3. 暗オリーブ褐色土層 酸化鉄を多く含む斑鉄層。
4. 黄 褐 色 土 層　（水田床土層）
5. 黒褐色砂質土層
6. 黒褐色砂質土層　炭化粒微量（１号溝）
7. 灰黄色粗粒砂層　（１号溝）
8. 灰 色 粗 粒 砂 層　（１号溝）
9. 黒褐色砂質土層　（９号溝）
10. 灰黄色砂質土層
11. 黒褐色砂質土層
12. 黒褐色砂質土層　（８号溝）
13. 暗褐色砂質土層　（８号溝）
14. 黄灰色砂質土層　（８号溝）
15. 暗褐色砂質土層　（５号溝）
16. 黒褐色砂質土層　（６号溝）
17. 黒褐色砂質土層
18. 暗褐色砂質土層
19. 暗褐色砂質土層　粗粒砂多量含む。（19～24層７号溝）
20. 灰　色　砂　層
21. 黒褐色砂質土層　灰色粗粒砂を少量含む。
22. 黒 色 砂 質 土 層　しまり強い。
23. 黒褐色砂質土層
24. 黒褐色砂質土層

図２　調査区全体図・東壁セクション

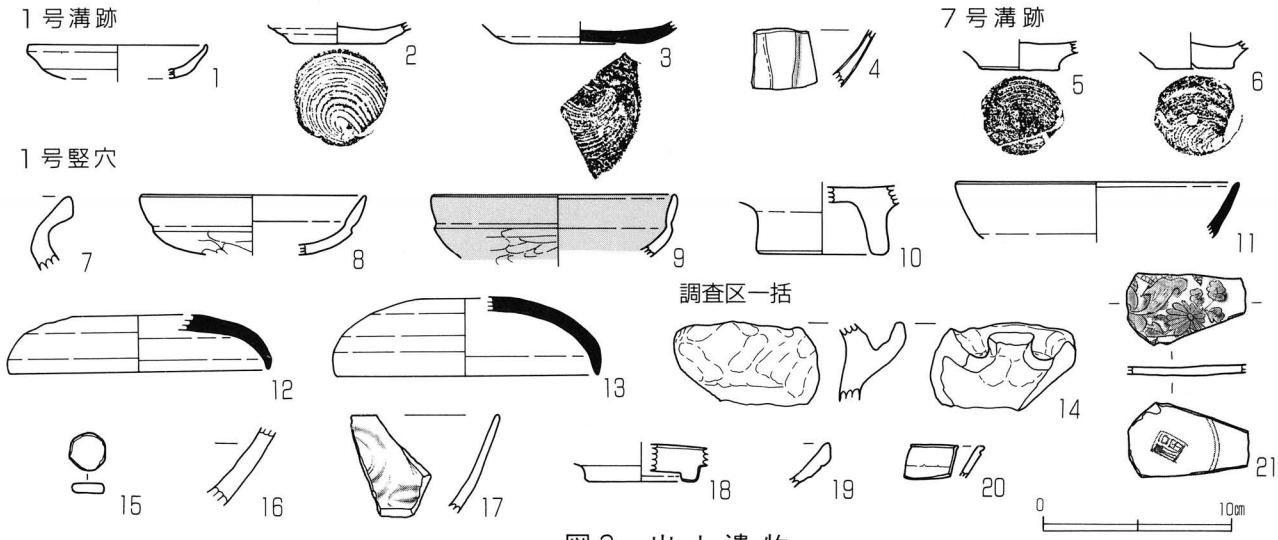


図3　出土遺物

表1　榎田遺跡（第2次）出土遺物観察表

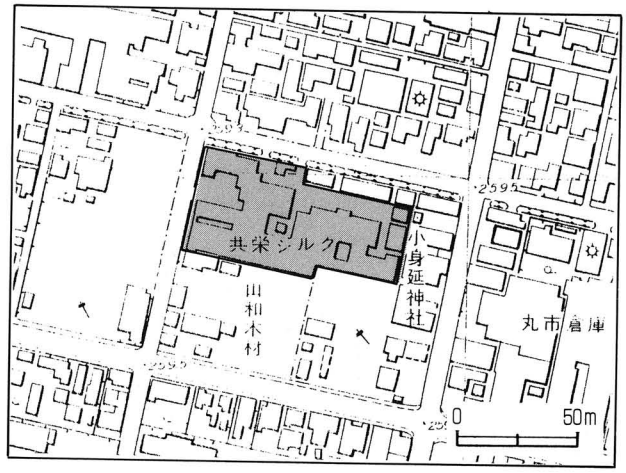
単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	皿	(9.4)	－	－	ナデ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	手づくね
2	土器	坏	－	－	(5.0)	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
3	須恵器	坏	－	－	(7.0)	ロクロナデ	N 4/ 灰白	良	
4	青磁	碗	－	－	－	蓮弁文	N 8/ 灰	良	青磁碗II類
5	土器	坏	－	－	(4.3)	ナデ	5YR 4/1 褐灰	良	スス付着
6	土器	坏	－	－	(4.0)	ナデ	5YR 4/6 赤褐	良	
7	土器	甕か壺	－	－	－	ナデ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
8	土器	坏	(12.0)	－	－	ナデ・ケズリ	5YR 6/6 橙	良	
9	土器	坏	(12.8)	－	－	ナデ・ケズリ	7.5YR 4/4 鈍い赤	良	赤色塗彩
10	土器	坏	－	－	(7.0)	ロクロナデ	7.5YR 7/4 鈍い赤	良	
11	須恵器	坏	(16.0)	－	－	ロクロナデ	5Y 6/1 灰	良	
12	須恵器	蓋	(13.8)	(3.0)	(7.0)	ロクロナデ	2.5Y 6/1 黄灰	良	
13	須恵器	蓋	(14.0)	(4.1)	(5.2)	ナデ	2.5Y 7/1 灰白	良	
14	土器	鍋	－	－	－	指頭整形	7.5YR 6/6 橙	良	外耳鍋
15	土製品	円盤	1.9	0.4	1.9	ヘラ	5YR 6/6 橙	良	
16	陶器	片口鉢	－	－	－	ナデ	10YR 7/1 灰白	良	常滑か
17	青磁	碗	－	－	－		N 7/ 灰白	良	青磁碗I-2b類
18	青磁	碗	－	－	(6.0)		5Y 7/1 灰白	良	青磁碗I類か
19	白磁	碗	－	－	－			良	白磁碗IV類
20	白磁	碗	－	－	－			良	白磁碗V類
21	磁器	皿	－	－	－			良	青花

写真1　北側全景

写真2　1号竪穴セクション

32 幸町A遺跡



調査位置　甲府市幸町2785他４筆
調査原因　マンション建設
対象面積　2,331.36㎡
調査面積　48㎡
調査期間　平成８年８月29日～９月20日
調査担当　佐々木　満

調査の概要

幸町A遺跡は、昭和54年道路工事の際、本県では確認例が少ない弥生中期の土器が採取されたことから包蔵地として周知されてきた遺跡であるが、包蔵地の範囲の指定が狭かったこともあり、当初本地点は包蔵地範囲の隣接地であった。幸町A遺跡の実態の把握と範囲確認を目的として開発直前に調査協力いただき、試掘調査を実施した。調査当初は基本土層と分布確認のために２ｍ×２ｍのグリッドを３箇所設定して調査したが、厚い盛土層の除去後水田耕作土などが確認された。水田造成層掘削後１箇所のグリッドで遺構が検出されたため周囲をT字状に拡張し、トレンチ調査を実施した。

検出遺構

調査区全体で溝跡10条、竪穴建物１棟、ピット７基、土坑３基などを検出した。溝跡は10号溝跡を除き、深さ10cmから20cm前後の浅い掘り込みであり、水が流れたような痕跡は確認できなかった。軸線は東西に同一方向で２条が併行する位置関係にあることから畑などの畝の可能性も考えられる。

溝跡の下層には竪穴建物跡や土坑などが検出されたが、調査期間の制限などから調査区を拡張するなどして全体を確認することはできなかったため、正確な規模などは不明である。竪穴建物跡からはピット３基が確認されたが、明確な炉跡などは検出されなかった。

出土遺物

竪穴建物跡からは壺・甕類が出土しているが、全体として数は少ない。図化した遺物では、10号溝跡から小型壺や甕など比較的まとまった遺物が出土している。時期的には弥生後期の遺物群と考えられる。

ま と め

この調査によって包蔵地外であった本地点まで遺跡が展開することが明らかとなり、幸町A遺跡の包蔵地範囲が少なくとも南へ広がることは確実と判断し、以後包蔵地範囲を改定している。調査成果から本地点の状況を判断すると、竪穴建物跡が埋没後、畑として耕作地化したと解釈できる。年代的にも出土遺物から弥生後期と考えられるため、盆地低部の様相を知る上で貴重な成果となった。

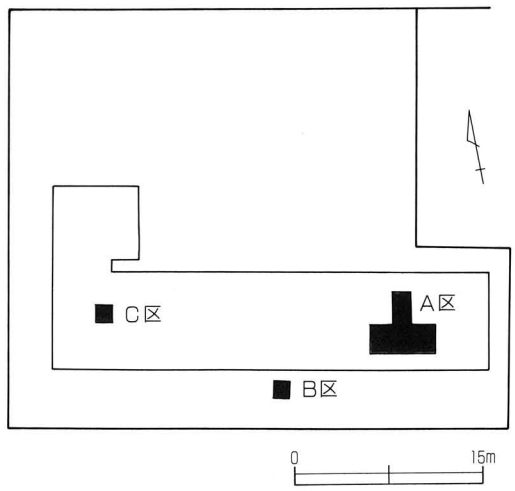
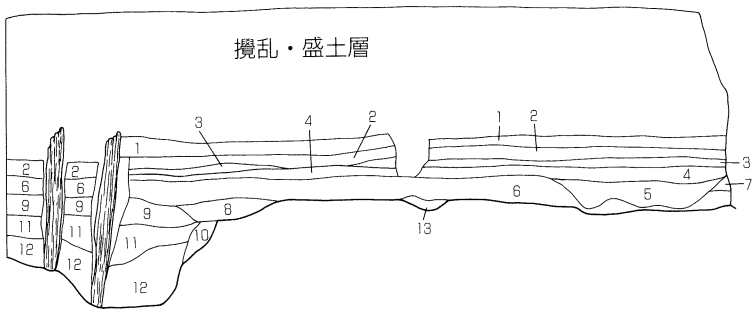
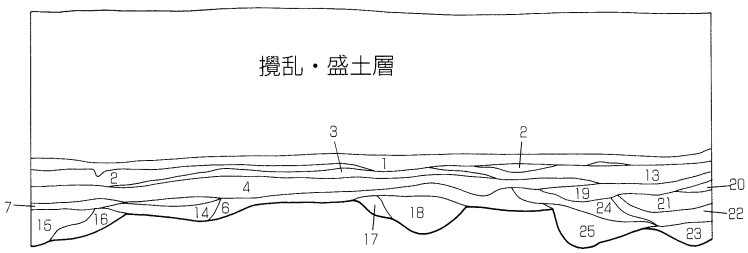


図１　試掘坑配置図

A　A区東壁　A′



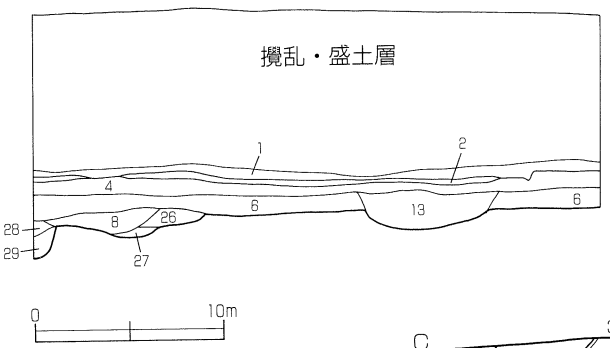
B　B′

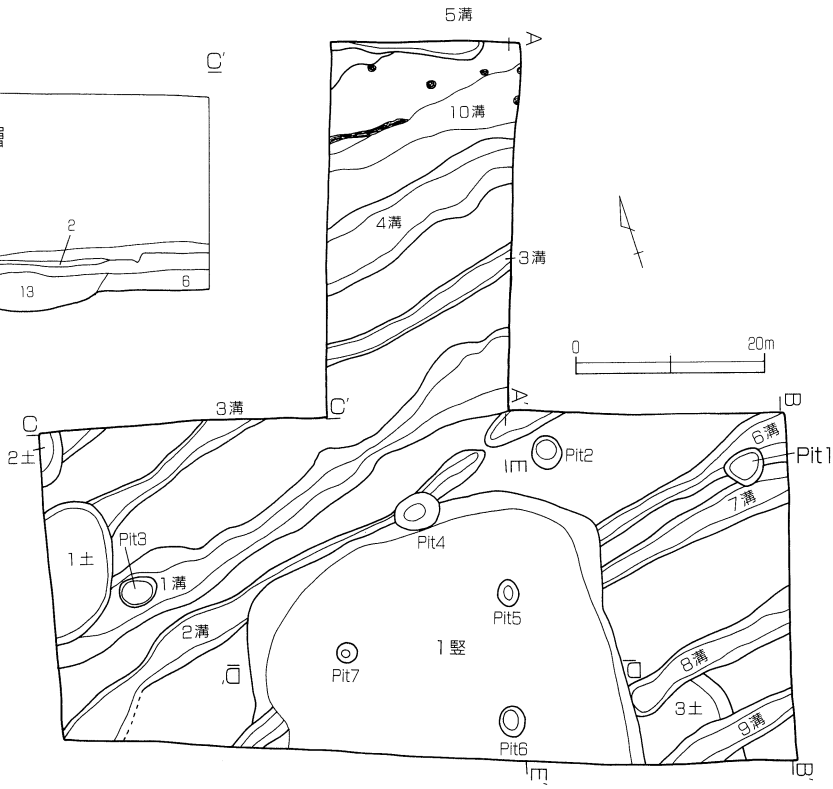


1. 暗オリーブ褐色土層
2. 黒　色　土　層
3. 黒 褐 色 土 層
4. 暗灰黄色土層
5. 黒 褐 色 土 層（1号溝）
6. 黄灰色砂質土
7. 暗オリーブ褐砂質土
8. 黒 褐 色 土 層　やや灰色がかり、砂粒多量含む。（4号溝）
9. 黒 褐 色 土 層　全体に青味がかり、酸化鉄粒少量含む。粘性もやや強い。（10号溝）
10. 暗緑灰色砂層　粗粒砂を主体とする。（10号溝）
11. 黒 褐 色 土 層　9層に比べ灰白色粘土粒、炭化物微量含む。（10号溝）
12. 黒 褐 色 土 層　全体に青味がかり、青灰色砂塊を多量に含む。（10号溝）
13. 黒褐色砂質土層（3号溝）
14. 黒褐色砂質土層（7号溝）
15. 黒 褐 色 土 層　砂粒を多量含む。（6号溝）
16. 暗オリーブ褐砂質土層（6号溝）
17. 暗灰黄色砂質土層（8号溝）
18. 黒褐色砂質土層（8号溝）
19. 暗オリーブ褐砂質土層
20. 黒褐色砂質土層
21. 黒褐色砂質土層（4号土坑）
22. 黒褐色砂質土層　炭化物多量、灰白色土粒微量。（4号土坑）
23. 暗灰黄色砂質土層
24. 暗オリーブ褐砂質土層
25. 黒褐色砂質土層
26. 暗灰黄色砂質土層
27. 灰黄色砂質土層
28. 黒褐色砂質土層　全体に青味がかる、灰色砂塊少量含む。（2号土坑）
29. 灰黄色砂質土層　黒褐色土粒を少量含む。（2号土坑）

A区北壁

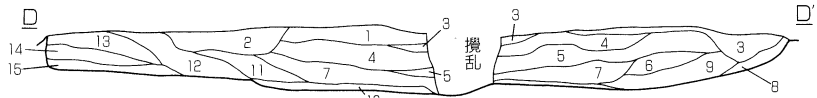
C　C′





1号竪穴

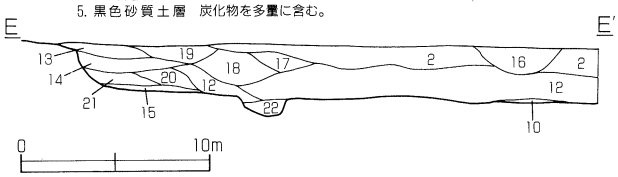
D　D′



2号竪穴

1. 暗褐色砂質土層　炭化物少量含む。
2. 黒色砂質土層　やや青味がかり、炭化物多量含む。
3. 暗褐色砂質土層　しまり強い。
4. 暗灰褐色砂質土層　オリーブ色砂粒塊、炭化物微量含む。
5. 黒色砂質土層　炭化物を多量に含む。
6. 黒褐色砂質土層
7. 黒褐色砂質土層　オリーブ色砂粒塊を少量含む。
8. 暗灰黄色砂質土層　黒褐色土粒少量含む。
9. 黒褐色砂質土層

E　E′



10. 黒褐色砂質土層　炭化物少量含む。しまりやや強い。
11. 黒褐色砂質土層　炭化物、灰色砂粒塊微量含む。
12. 黒褐色砂質土層　全体に青味がかり、炭化物微量含む。
13. 黒褐色砂質土層　オリーブ色砂粒塊を多量含む。
14. 黒褐色砂質土層　灰色砂粒を多量含む。
15. 黒褐色砂質土層　炭化物少量含む。
16. 暗オリーブ褐砂質土層
17. 暗褐色砂質土層　炭化物を多量に含む。
18. 黒褐色砂質土層　オリーブ砂粒多量、炭化物微量含む。
19. 黒褐色砂質土層
20. 黒褐色砂質土層
21. 黒褐色砂質土層　オリーブ砂粒塊を少量含む。
22. 黒褐色砂質土層　黄褐色砂粒少量含む。

図2　A区全体図・セクション

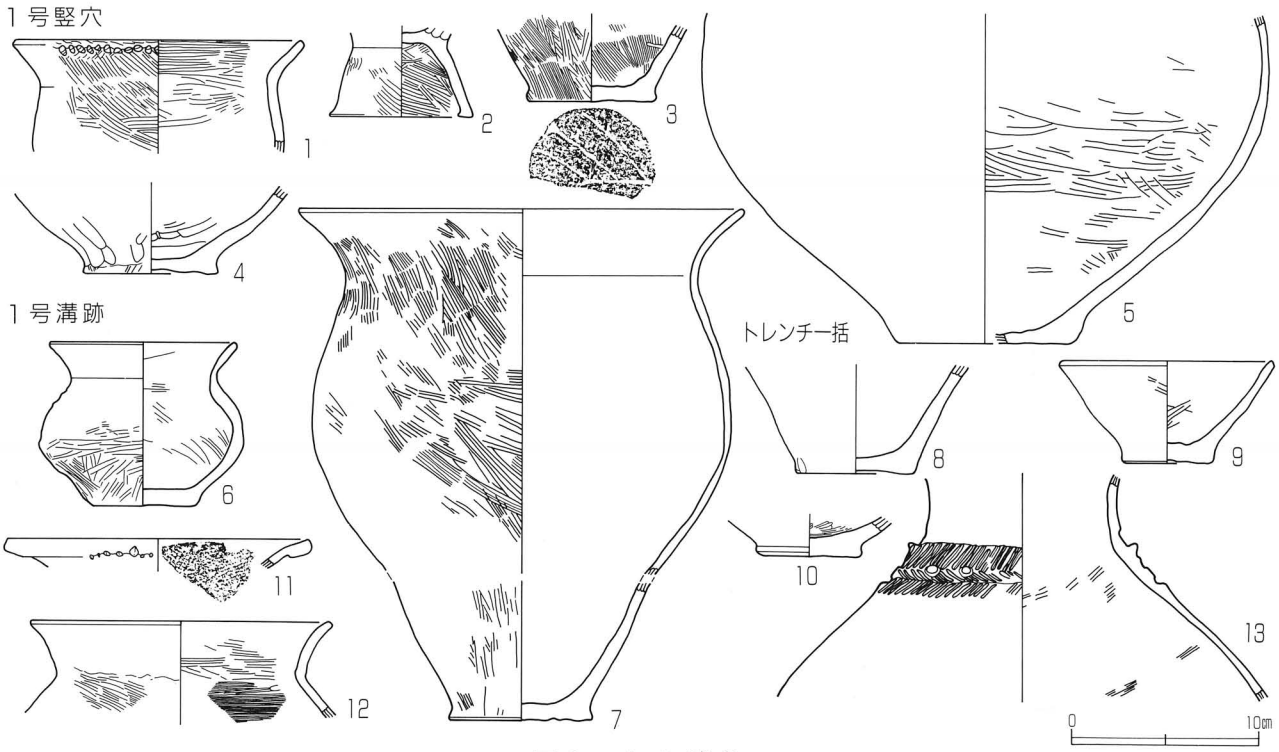


図3　出土遺物

表1　幸町A遺跡出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	甕	(15.0)	－	－	ハケ	10YR 8/4 浅黄橙	良	
2	土器	台付甕	－	－	(7.4)	ハケ	10YR 8/3 浅黄橙	良	
3	土器	甕	－	－	(6.6)	ハケ	10YR 6/6 明黄褐	良	木葉痕
4	土器	壺	－	－	7.0	ケズリ	10YR 4/6 褐	良	
5	土器	壺	－	－	(9.0)	ハケ	7.5YR 7/8 黄橙	良	
6	土器	小壺	9.8	8.7	5.4	ハケ・ケズリ	10YR 8/4 浅黄橙	良	
7	土器	甕	(23.4)	－	(7.4)	ハケ	10YR 6/4 鈍い黄橙	良	
8	土器	甕	－	－	6.2		10YR 6/4 鈍い黄橙	良	
9	土器	鉢	(11.0)	5.4	4.2	ハケ	10YR 4/6 褐	良	
10	土器	壺		－	(4.6)	ケズリ	10YR 7/4 鈍い黄橙	良	
11	土器	壺	(14.4)	－	－	ナデ・縄目文様	5YR 6/8 橙	良	折り返し口縁
12	土器	甕	(13.6)	－	－	ハケ	5YR 7/4 鈍い橙	良	
13	土器	壺	－	－	－	ナデ・ミガキ・ハケ	10YR 6/6 明黄褐	良	ボタン状貼付文

写真1　1号竪穴

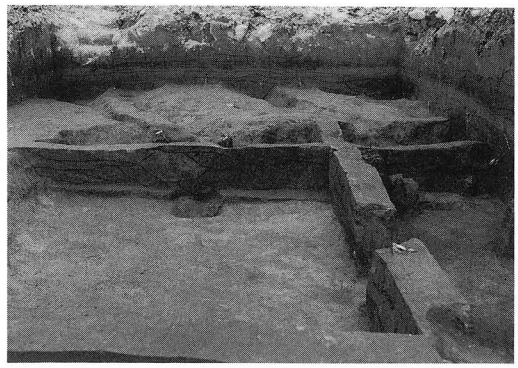
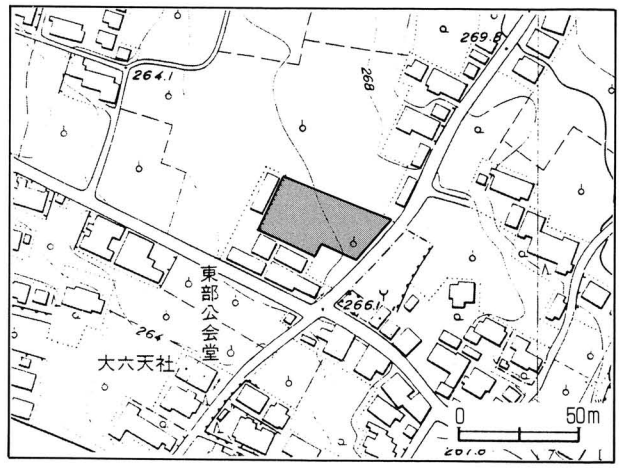


写真2　1号竪穴南北ベルトセクション

33 地蔵北遺跡

調査位置　甲府市東光寺三丁目1713他
調査原因　集合住宅建設
対象面積　1,211㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成８年９月６日～17日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

地蔵北遺跡が所在する里垣地区は、甲斐善光寺や東光寺を始めとする中世まで遡る寺院が点在する。また『古事記』『日本書紀』に登場する酒折宮や古墳が多数確認され、遺跡・史跡が集中して見られる地域である。

調査区に２×２ｍの調査グリッドを３箇所設定し東からグリッド１，２，３とし調査を行った。調査の結果、グリッド１から直径約130㎝の土坑が確認でき、その底に長径20㎝ほどの石と須恵器片が確認できた。また、近代の染付も出土した。グリッド２、３は表土直下から自然堆積層が確認できた。

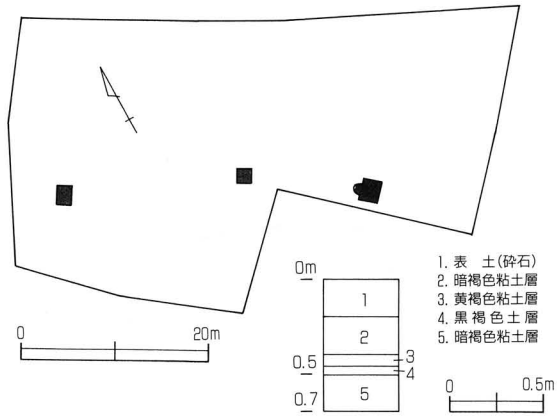
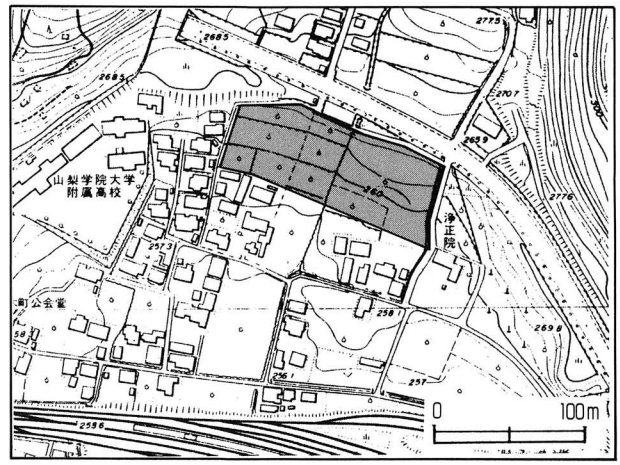


図１　試掘坑配置図　　図２　基本層序

34 酒折遺跡

調査位置　甲府市酒折三丁目1283-1、1281-1、1271、1271-2
調査原因　運動場造成
対象面積　5,605㎡
調査面積　８㎡
調査期間　平成８年９月18日～19日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

酒折遺跡は八人山の南麓に位置する。酒折宮は、現在地よりも北の舌状に張り出した尾根筋に在ったとされる。

調査は２×２ｍの調査グリッドを２箇所設定し、行った。地表からそれぞれ60㎝程度掘削し、自然堆積層となることを確認した。遺構は検出できなかった。出土遺物は縄文土器、黒曜石、土師器の小片が出土した。

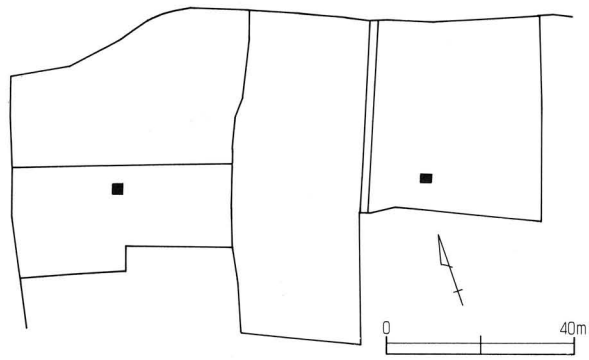
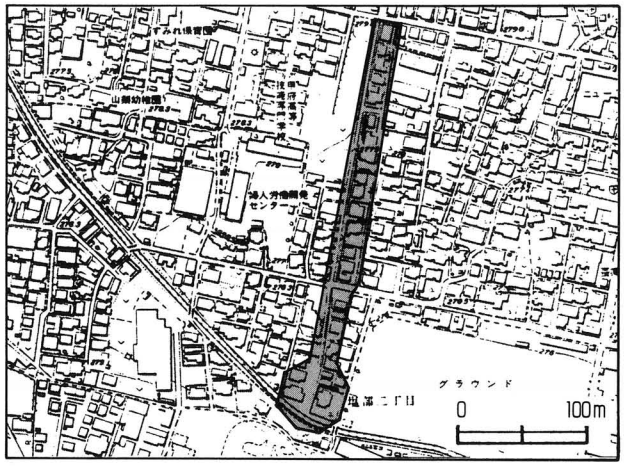


図１　試掘坑配置図

35 塩部遺跡（第４次）

調査位置　甲府市塩部二・三丁目地内
調査原因　道路改良工事
対象面積　7,000m²
調査面積　146m²
調査期間　平成８年10月１日～17日
調査担当　佐々木　満



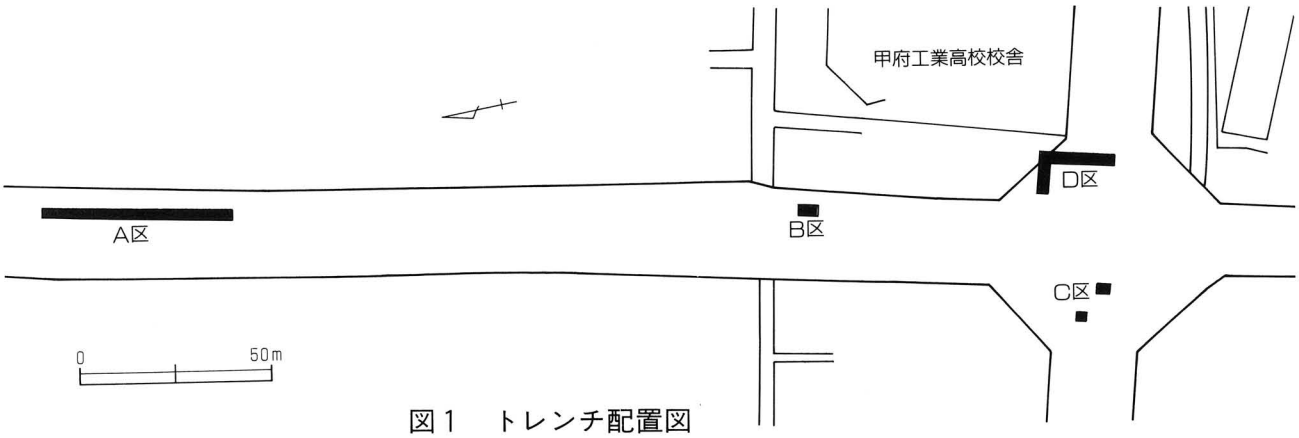


図１　トレンチ配置図

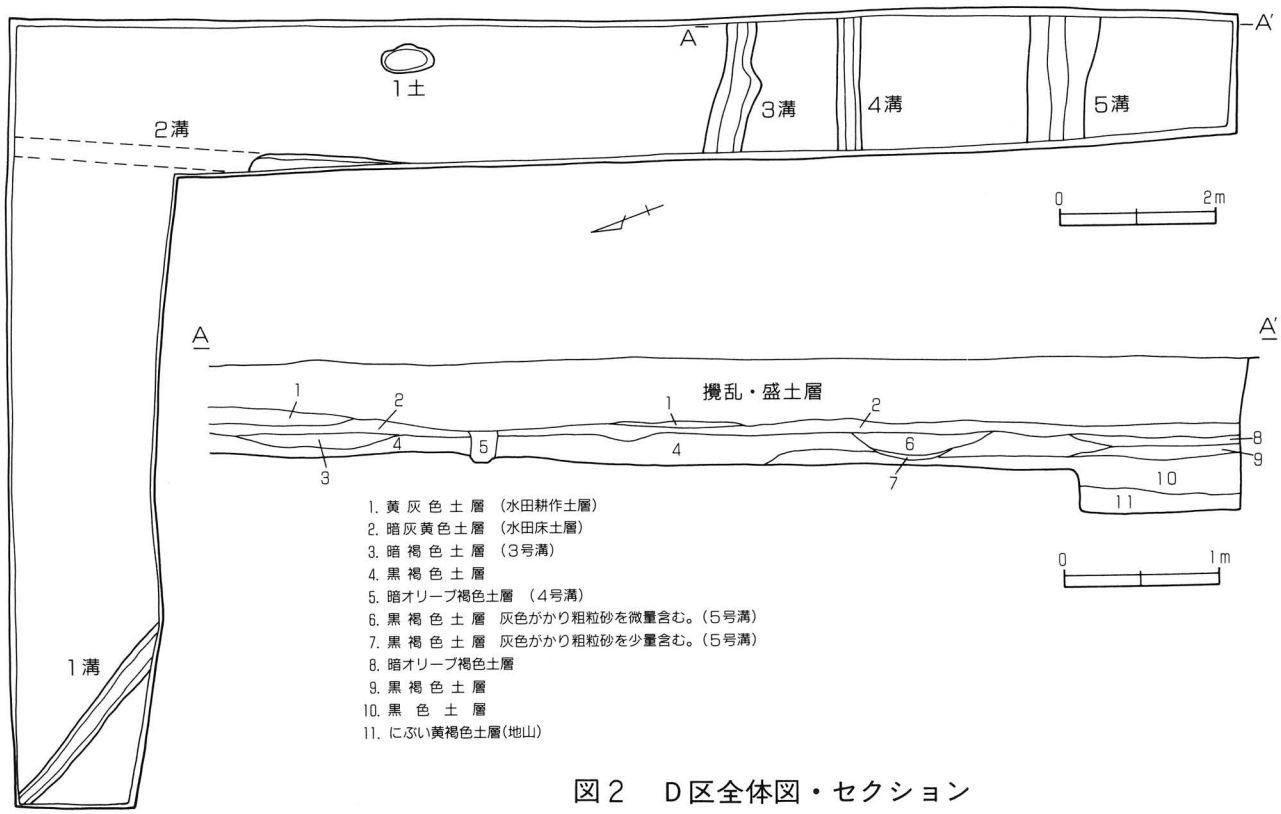


図２　D区全体図・セクション

調査の概要

本地点の南側は、山梨県埋蔵文化財センターで本調査を実施した甲府工業高校校舎地点の西側に位置する。南北方向に細長い調査対象区内を大きく４箇所に分けて調査をした。

Ａ区とした北側の調査区では表土掘削後すぐに地山面が検出され、遺構などは検出されなかった。Ａ区からＢ区までの間は住宅などが移転前であったため未調査としたが、Ｂ区でも灰釉陶器が２点出土したのみであり、遺構などは確認されなかったことから、密度は極めて薄いと考えられる。

Ｃ・Ｄ区については、県調査区の隣接地であり最も遺構・遺物が検出される可能性が高いと考えられた。Ｄ区からは若干の遺物とともに溝跡４条と土坑１基が検出されたが、３～５号溝跡は近世以降の水田に関わる水路と考えられる。１・２号溝跡と１号土坑は、覆土の様相から弥生から古墳時代の遺構と考えられるが、遺物の出土もなく、時期決定の決め手を欠いた。

周辺は解体された住宅基礎などの攪乱も多く、残存状況も極めて悪いことが予測され、かつ遺構・遺物の密度が薄かったことから試掘調査で確認を終了とした。

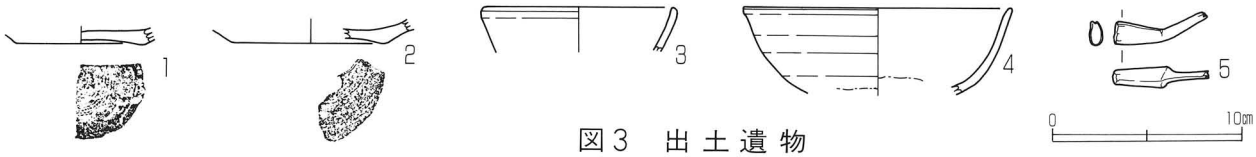


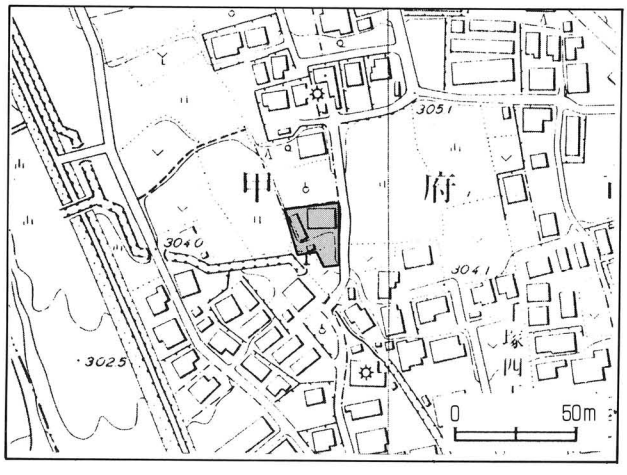
図３　出土遺物

表１　塩部遺跡（第４次）出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種　別	器　種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調　整	色　調	焼成	備　考
1	土　器	坏	－	－	(6.6)	ロクロ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
2	土　器	坏	－	－	(8.0)	ロクロ	10YR 7/4 鈍い黄橙	良	
3	灰釉陶器	碗	(9.0)	－	－	ロクロ	N 5/ 灰	良	二次被熱
4	灰釉陶器	碗	(14.0)	－	－	ロクロ	2.5Y 7/2 灰黄	良	
5	金属製品	煙管						良	

36 天神西遺跡（第１次）



調査位置　甲府市千塚四丁目3331、3332、3541、3541-1、3542
調査原因　個人住宅建設
対象面積　558.07㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成８年10月２日～15日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

調査地は荒川の左岸、現在の流路との距離はわずかに10ｍしか離れていない。調査地に２×２ｍの調査グリッドを３箇所設定し（東より１，２，３とした）、試掘調査を行った。

調査の結果、１グリッドは地表下40cmから遺物が出土し始め、地表下100cmで土坑が確認できた。３グリッドでは地表下60cmで３段に掘り込まれた土坑が検出できた。出土遺物に、土師質土器片、古銭（元豊通宝）がある。

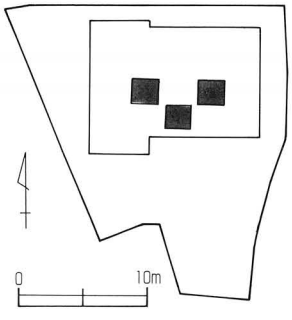
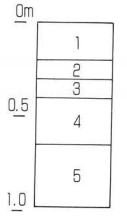


図１　試堀坑配置図



1. 表　土（砕石）
2. 暗褐色土（サラサラしている）
3. 暗褐色土（色調が暗い）
4. 褐色砂層
5. 褐色砂層（粒子が粗い）

図２　基本層序

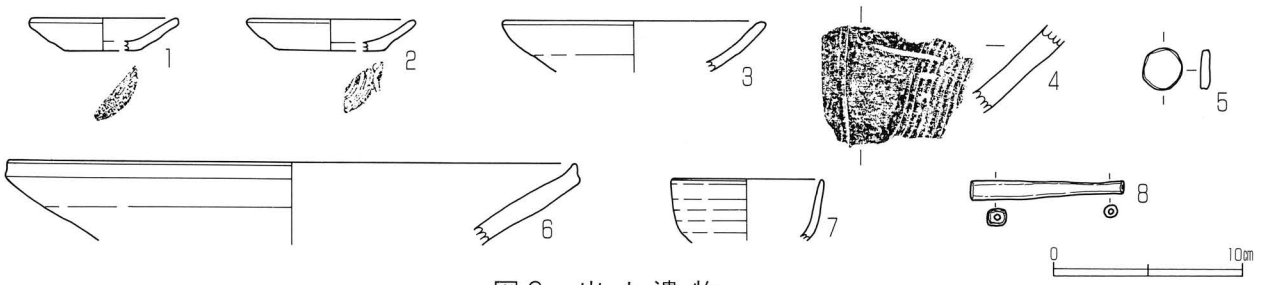


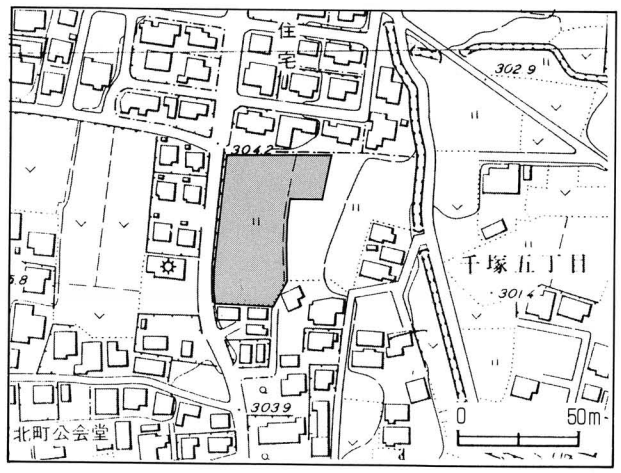
図3　出土遺物

表1　天神西遺跡出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種　別	器　種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調　整	色　調	焼成	備　考
1	土　器	坏	(8.0)	(1.7)	(4.0)	ナデ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
2	土　器	坏	(9.0)	(1.7)	(6.0)	ナデ	5YR 6/6 橙	良	
3	土　器	坏	(14.0)	－	－	ナデ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
4	土　器	擂鉢	－	－	－	ナデ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
5	土製品		－	－		ナデ・ヘラ	5YR 7/4 鈍い橙	良	
6	土　器	擂鉢	(30.0)	－	－	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
7	陶　器	碗	(8.0)	－	－	ロクロ	5Y 7/3 浅黄	良	
8	金属製品	煙管	－	－	－				

37 榎田遺跡（第3次）



調査位置　甲府市千塚五丁目2926-1
調査原因　宅地造成
対象面積　1,821.95㎡
調査面積　320㎡
調査期間　平成8年10月21日～
　　平成9年1月29日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

今回の調査地点は、平成4年に県埋蔵文化センターが発掘調査を実施し、弥生時代から平安時代にかけての大規模集落跡や方形周溝墓群が確認された地点の、道路を挟んで東側にあたる。

造成計画で道路が建設される場所に、2m幅の試掘トレンチをそれぞれ設定し調査を実施した。その結果、弥生時代から平安時代にかけての土器が多量に出土した。そのため、新規に造成される幅6×25mの道路部分について全面を発掘調査の対象とし、宅地部分については個別に試掘調査で対応することとした。

建設される2条の道路のうち、北側の道路をトレンチ1、南側の道路をトレンチ2とした。さらにトレンチ1の東側に1段低く飛び出た区画をトレンチ3として調査を実施した。

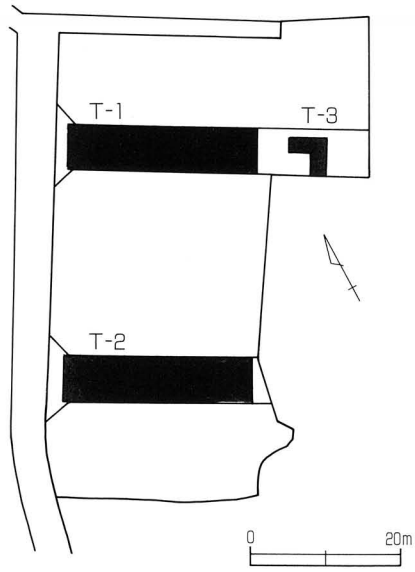


図1　トレンチ配置図

トレンチ１（上層）

地表から約70cmの深さで遺物がやや多く出土したため、精査を実施し遺構確認を行った。トレンチ東側に直径２ｍを超える巨石が集中し、その周囲に南北方向に延長方向を持つ溝跡が4条検出できた。

トレンチ１（下層）

地表から約100cmの深さで精査し、遺構確認できたものをトレンチ１下層として区分し以下のとおり報告する。トレンチ１下層からは３軒の竪穴住居跡、１条の溝跡が検出された。

１号竪穴　（位置）トレンチ１北西。３号・11号・12号竪穴と重複する。（主軸）カマドそのものは確認できていないが、北カマドと想定すると西壁方向からN－22°－W。（形状・規模）他の竪穴と重複し、また調査区域外に拡大するため、全体像は不明である。（床）明確な硬化面はなかった。掘り上がった状態は掘り方面と考えておきたい。（カマド）確認できなかった。（壁）西壁は比較的良好に検出されたが、南壁の残存状況は不良である。また東・北壁については他遺構との重複や調査区外にあたるため検出できなかった。

３号竪穴　（位置）トレンチ１北西。１号竪穴・11号竪穴と重複する。W－40°－N。（形状・規模）他の竪穴と重複し、また調査区域外に拡大するため、全体像は不明である。（床）明確な硬化面はなかった。しかし、黄褐色の粘土が貼られた状態で確認できたため、これを床面として考えたい。（カマド）約90cmの円形の掘り方をもつ。向かって左に４石（外側にもう１石）、右に３石を配す。奥に円筒形土器を横位置に配す。（壁）残存状況が悪く不明瞭だった。

11号竪穴　（位置）トレンチ１西端。１号竪穴・３号竪穴と重複する。（主軸）わずかに残る南壁からN－22°－Wと推測される。（形状・規模）他の竪穴と重複し、また調査区域外に拡大するため、全体像は不明である。（床）明確な硬化面はなかった。（カマド）確認できなかった。（壁）南壁の一部がやや残りが良かった。

12号竪穴　（位置）トレンチ１。１号竪穴と重複する。調査区の北壁断面で確認したもので、１号竪穴に重複してしまい、断面での確認となった。

トレンチ２（上層）

遺物がやや多く出土した地表から約60cmの深さで、精査を実施し遺構確認を行った。80基以上のピット群が確認できた。しかし、ピット群に規則性は看取できなかった。

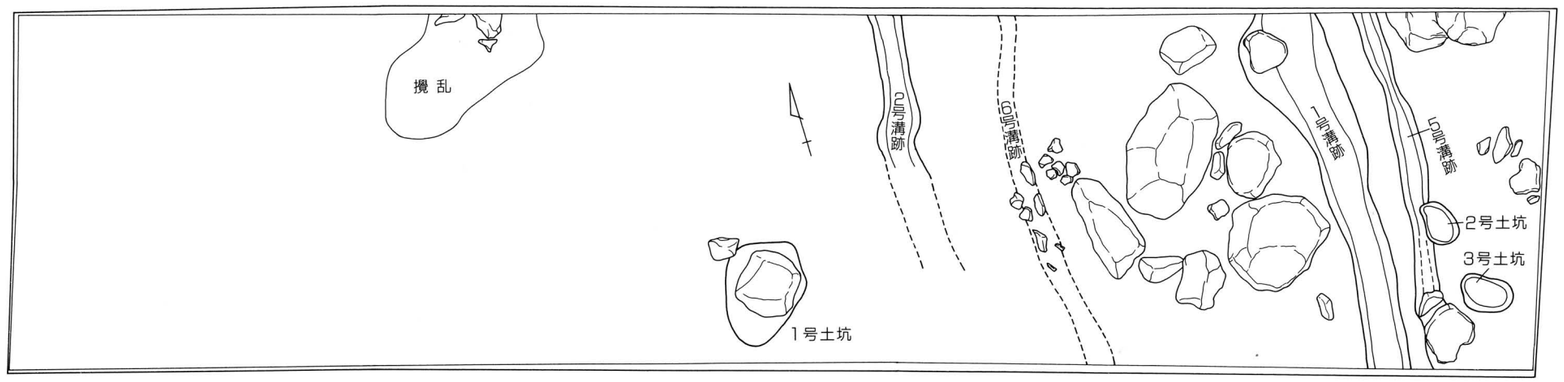
トレンチ２（下層）

地表から約100cmの深さで精査し、遺構確認できたものをトレンチ２下層として区分し以下のとおり報告する。

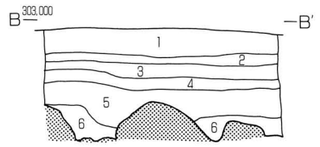
２号竪穴　（位置）トレンチ２南西。（主軸）比較的残存状況の良かった東壁から、N－11°－E。（形状・規模）残存状況が不良であるが、隅丸方形を呈することを想定している。（床）明確な硬化面はなかった。しかし部分的に白色の粘土を意図的に貼り付けた箇所が確認できたため、この面を床面として考えたい。（カマド）確認できなかった。（壁）東壁のみ比較的良好に残存する。（出土遺物）10世紀前半に位置づけられる土器を中心に出土している。３は墨書土器。横に二本、縦に三本を線引きする。ドーマンを模したもので、祭祀に用いたものであろう。トレンチ出土のものであるが70は同様の墨書を持つものであろう。８は置きカマドの破片である。

４号竪穴　（位置）トレンチ2ほぼ中央に位置する。５号・６号・10号・13号竪穴と重複する。（主軸）N－５°－W。（形状・規模）比較的残存状況の良好な北辺から、隅丸方形を呈することを想定している。東西約7mの規模を測る。（床）明確な硬化面はなかった。（カマド）今回確認されたカマドのなかで最大規模を誇る石組みカマドである。４号竪穴の北辺のほぼ中央に位置する。南北約2.5m、東西約２ｍを測る。向かって左に７石、右に６石

トレンチ1 上層

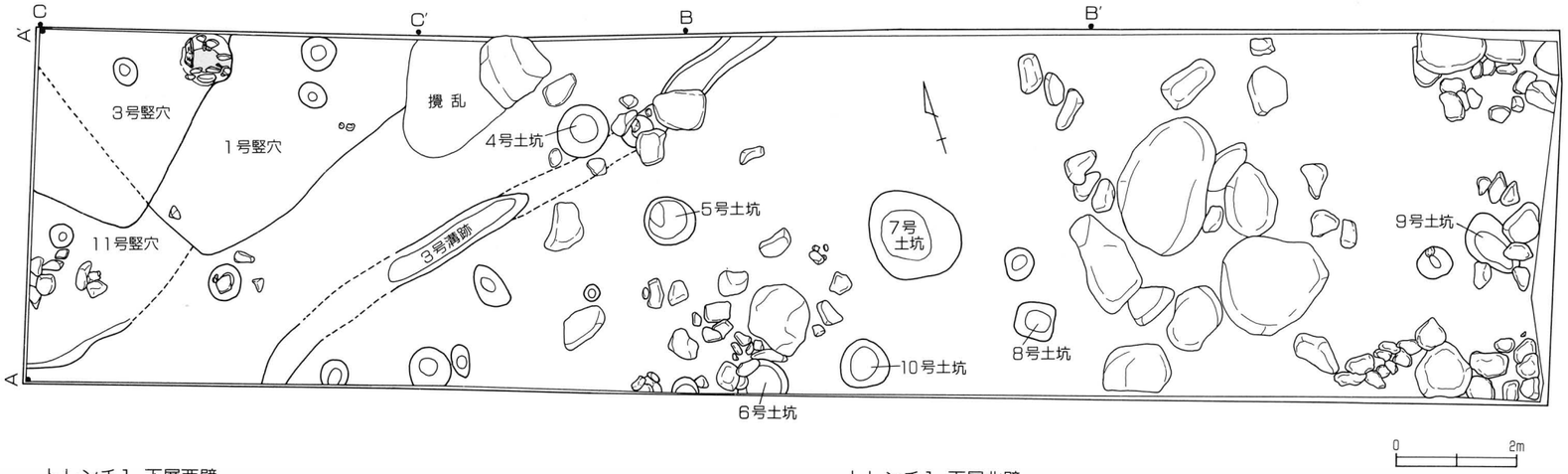


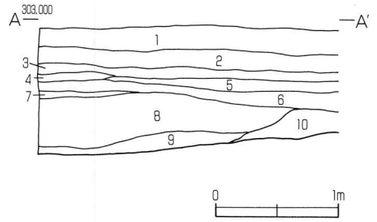
トレンチ3



1. 表　土（灰色粘土層）
2. 黄褐色粘土層
3. 黄褐色粘土層
4. 灰色粘土層
5. 暗褐色土層
6. 黒褐色土層

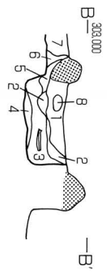
トレンチ1 下層

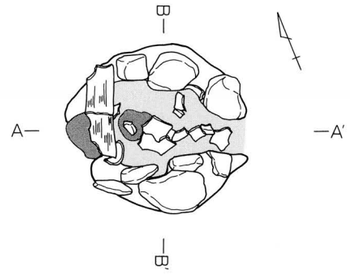




1. 表　土（灰色粘土層）
2. 黄褐色粘土層
3. 黄褐色粘土層
4. 砂　利　層
5. 暗褐色土層
6. 暗茶褐色土層
7. 暗褐色土層
8. 極暗褐色土層
9. 黒褐色土層
10. 黒褐色土層

3号竪穴竈

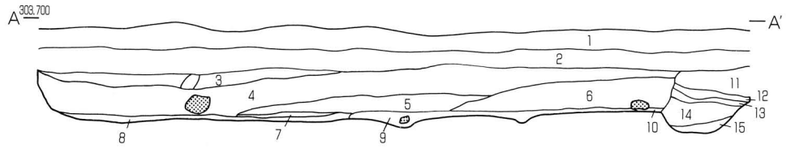




1. 黒褐色土層　焼土粒を少量と遺物を含む。粘性はやや弱く、しまりはある。
2. 赤黒色土層　焼土塊、焼土粒を多量に含む。粘性はなく、しまりはある。
3. 黒褐色土層　焼土粒を微量、炭化物を微量含む。粘性はやや弱く、しまりはやや弱い。

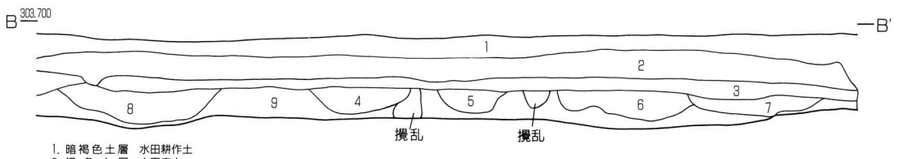
0　0.5m

トレンチ1 下層西壁



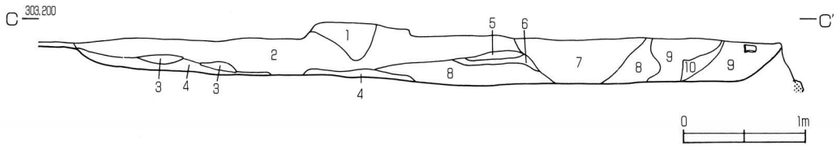
1. 暗褐色土層　水田耕作土
2. 褐　色　土　層　水田床土
3. 黒褐色土層　やや灰色がかり黄褐色土を微量含む。粘性はやや弱く、しまりはある。
4. 黒　色　土　層　やや砂利っぽく炭化物を少量、黄褐色土を微量含む。粘性はやや弱く、しまりはある。
5. 黒　色　土　層　やや砂利っぽく焼土粒を微量含む。粘性はなく、しまりはやや強い。
6. 黒　色　土　層　2、3層に比べやや明るく、砂利もやや粗い。粘性はなく、しまりはある。
7. 黒　色　土　層　炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりはやや強い。
8. 黒　色　土　層　炭化物、焼土粒を主体とする。
9. 黒褐色土層　灰オリーブ色砂粒を多量に含む。粘性はなく、しまりは強い。
10. 赤褐色土層　焼土粒主体の層。
11. 黒褐色土層　炭化物を少量、焼土粒を微量含む。粘性はやや弱く、しまりはある。（3号竪穴）
12. 灰オリーブ色土層　灰オリーブ色砂粒、粘土粒を主体とする。
13. 黒　色　土　層　炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりは強い。
14. 暗褐色土層　焼土含む。（1号竪穴）
15. 暗褐色土層　白色砂粒含む。（1号竪穴）

トレンチ1 下層北壁



1. 暗褐色土層　水田耕作土
2. 褐　色　土　層　水田床土
3. 黒褐色土層　水田床土
4. 黒褐色土層　全体に砂利っぽく、粘性はなく、しまりはある。
5. 黒　色　土　層　全体に砂利っぽく、粘性はやや弱く、しまりはある。
6. 黒褐色土層　やや粒子の粗い砂粒を多量に含み粘性はなく、しまりやや弱い。
7. 黒褐色土層　全体に砂利っぽく粘性はなく、しまりはある。
8. 黒褐色土層　全体に砂利っぽく、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりはある。（3号溝跡）
9. 地　　山

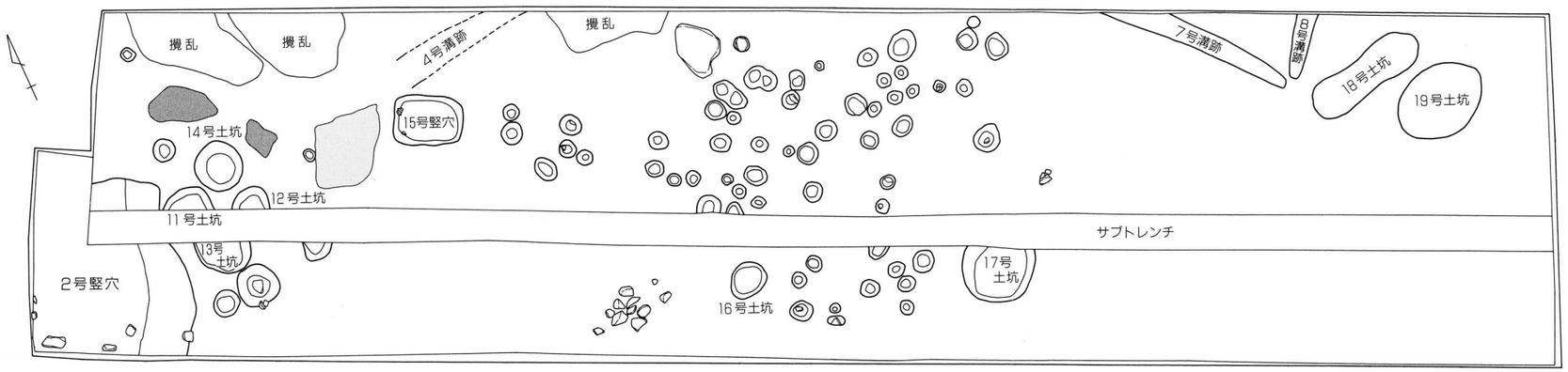
トレンチ1 下層北壁



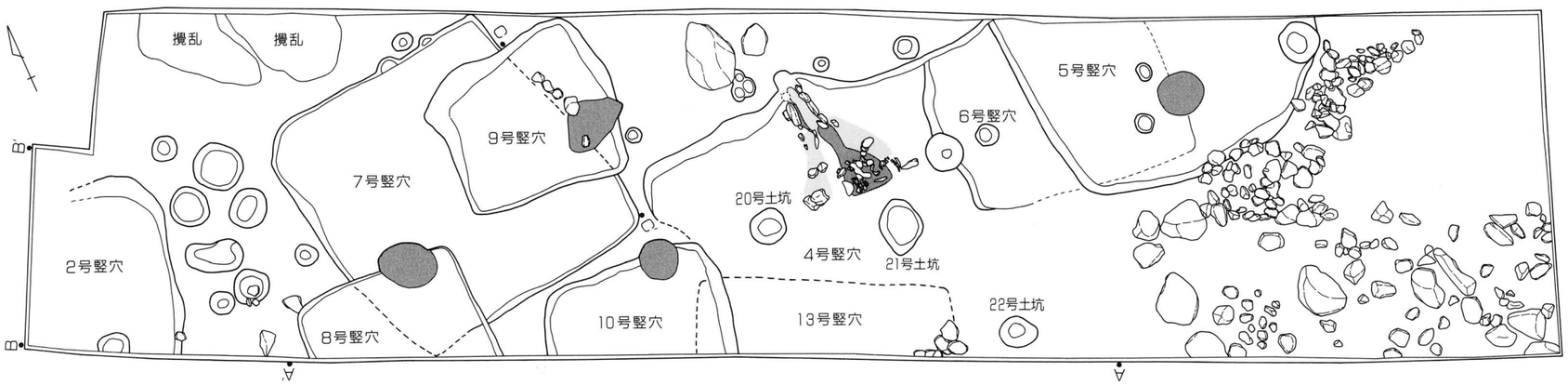
1. 暗褐色土層　焼土少量含む。（3号竪穴）
2. 暗褐色土層　やや明るく、白色粒含む。
3. 暗褐色土層　やや暗く、土粒細い。
4. 暗褐色土層　やや暗く、白色砂粒はほとんど含まない。
5. 暗褐色土層　やや明るく、土粒は粗い。
6. 黒褐色土層　土粒は細い。
7. 暗褐色土層　2層に比べ土粒細い、白色砂粒を含む。
8. 暗褐色土層　7層に比べ明るい。黒色土混入。
9. 暗褐色土層　灰オリーブ色砂粒含む。
10. 暗褐色土層　やや明るく土粒は粗い。

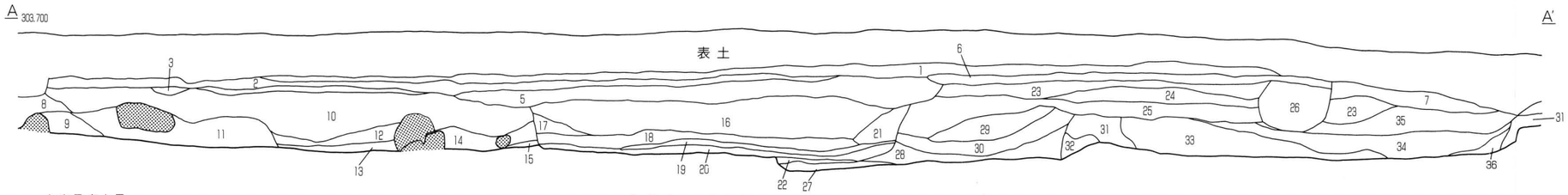
図2　トレンチ1・3 全体図・セクション、3号竪穴竈

トレンチ2 上層



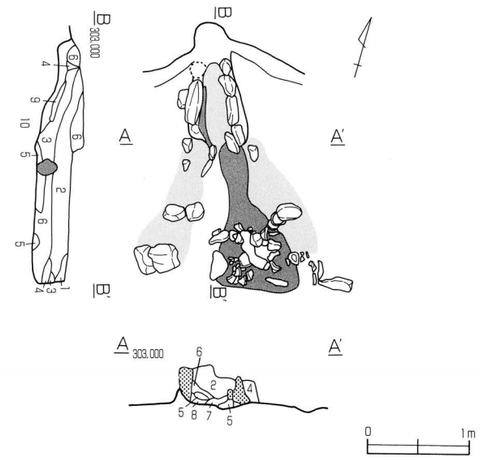
トレンチ2 下層





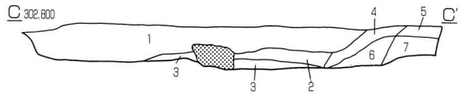
1. 水田床土層
2. 水田床土層
3. 灰褐色砂層　玉砂利、粗粒砂を主体とする。(溝)
4. 暗褐色土層　黄褐色土、小礫を微量含む。土粒は粗く粘性やや弱く、しまりはやや強い。
5. 黒褐色土層　炭化物、焼土粒を微量含む。土粒はやや粗く粘性はやや弱く、しまりはやや強い。
6. 黒褐色土層　5層に比べやや明るく、土粒は粗い。
7. 暗褐色土層　炭化物を微量含む。土粒は粗く、粘性はなく、しまりはある。
8. 黒褐色土層　小礫を少量、炭化物を微量含む。土粒は粗く粘性あり、しまりはある。
9. 黒　色　土　炭化物を少量、小礫を微量含む。土粒は細く、粘性あり。しまりはやや弱い。
10. 黒　色　土　玉砂利、炭化物を少量含む。粘性はありしまりはある。土粒はやや粗い。
11. 黒　色　土　礫が入り、玉砂利を少量、炭化物を微量含む。10層に比べややや明るい。土粒はやや粗く粘性あり。しまりやや強い。
12. 黒褐色土層　小石礫を少量、オリーブ色土粒を多量に含む。土粒はやや細く、粘性はあり。しまりはある。
13. 黒　色　土　層　炭化物を少量含む。土粒は細く、粘性はあり、しまりはある。
14. 黒　色　土　層　炭化物を少量、暗オリーブ色土粒を微量含む。土粒はやや細く粘性、しまりはある。
15. 黒　色　土　層　14層に比べ暗く、しまりやや強い。
16. 黒　色　土　層　全体にやや灰色がかり、炭化物、焼土粒を多量、玉砂利を微量含む。土粒はやや粗く、粘性はやや弱い。しまりはある。
17. 黒　色　土　層　1層に比べ明るい。(3号竪穴)　(3号竪穴)
18. 黒　色　土　層　炭化物、焼土粒を多量、灰オリーブ土粒を少量含む。土粒はやや細く、粘性、しまりはある。(3号竪穴)
19. 黒　色　土　層　炭化物塊、炭化物、焼土粒を多量、オリーブ色粘土粒を少量含む。粘性、しまりはある。(3号竪穴)
20. 黒　色　土　層　焼土粒、灰オリーブ土粒を少量、炭化物を微量含む。土粒はやや粗く粘性はやや弱い。しまりはある。(3号竪穴)
21. 黒　色　土　層　17層と同じ。(3号竪穴)
22. 暗灰オリーブ色土層　灰オリーブ色砂粒を多量に含む。土粒はやや細く、粘性、しまりはある。(10号竪穴)
23. 黒　色　土　層　灰オリーブ色砂粒を少量、炭化物を微量含む。粘性、しまりはある。(10号竪穴)
24. 黒褐色土層　炭化物を微量含む。土粒はやや粗く、粘性はやや弱い。しまりはある。(10号竪穴)
25. 黒褐色土層　玉砂利、炭化物を少量、焼土粒を微量含む。土粒はやや粗く、粘性、しまりはある。(10号竪穴)
26. 黒　色　土　層　炭化物、灰オリーブ色砂粒を微量含む。土粒はやや粗く、粘性はやや弱い。しまりはある。(10号竪穴)
27. 黒　色　土　層　灰オリーブ色砂粒を多量に含む。土粒は細く、粘性はやや弱く、しまりはある。(10号竪穴)
28. 暗褐色土　灰オリーブ色砂粒を少量含む。土粒はやや細く、粘性はやや弱い。しまりはやや弱い。
29. 黒褐色土層　玉砂利、炭化物、焼土粒を微量含む。土粒はやや粗く、粘性はやや弱い。しまりはある。
30. 黒褐色土層　29層に比べ土粒がやや細く、灰色砂粒を少量含む。
31. 黒褐色土層　30層に比べ土粒が粗い。
32. 黒褐色土層　灰オリーブ色砂粒を少量含む。土粒はやや粗く粘性あり。
33. 黒褐色土層　土粒がやや粗い。
34. 黒褐色土層　灰オリーブ色砂粒を少量含む。粘性あり。
35. 黒褐色土層　灰オリーブ色砂粒やや多量に含む。

4号竪穴竈



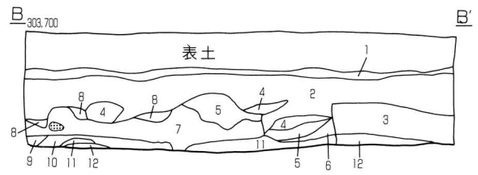
1. 褐色粘土層
2. 明褐色土層
3. 焼　土
4. 明褐色粘土層　粘性強い。
5. 焼　土　3層に比べやや固い。
6. 明褐色土層　2層に比べやや明るい。
7. 褐色土層　土粒細かい。
8. 暗褐色土層
9. 暗褐色土層　炭化物微量含む。
10. 暗褐色土層　炭化物微量含む。土粒粗い。

9号竪穴



1. 暗褐色土　土粒粗い。
2. 暗褐色土　黒色土ブロック混入、土粒細かい。
3. 褐　色　土
4. 暗褐色土　やや明るい。
5. 暗褐色土　やや暗い。
6. 黒褐色土
7. 褐　色　土　土粒粗い。
8. 暗褐色土　炭化物微量含む。4層より暗い。

2号竪穴西壁



1. 褐色土層　旧表土
2. 暗褐色土層　白色粒多量、炭化物少量含む。
3. 淡褐色砂質土層　土粒粗い。
4. 暗褐色土層　2層に比べやや明るい。土粒粗い。
5. 暗褐色土層　2層に比べやや暗い。
6. 暗褐色土層
7. 黒褐色土層　2層に比べやや暗い。炭化物含む。土粒細い。
8. 暗褐色土層　土粒粗い。
9. 暗褐色土層　土粒細い。
10. 淡褐色シルト層
11. 淡褐色シルト層　やや明るい。
12. 淡褐色シルト層　やや暗い。

0　1m

図3　トレンチ2全体図・セクション・4号竪穴竈

が残る。カマド石の抜き取り痕もあるため、片側に10石程度組んだものと推測される。(出土遺物) 古墳時代後期に位置づけられる土器群が出土している。また1点であるが瓦片も出土している。

5号竪穴　(位置) トレンチ2中央やや東よりに位置する。4号・6号竪穴と重複する。(主軸) N－6°－W。(形状・規模) 北辺は調査区外にあたり、南・東も残存状況はあまり良くない。南辺は最大で約5mを計測する。(床) 明確な硬化面はなかった。掘り上がった状態は掘り方面と考えておきたい。(カマド) 石組みカマドであり、5号竪穴の南辺に確認された。

6号竪穴　(位置) トレンチ2中央やや東寄りに位置する。4号・5号竪穴と重複する。(主軸) N－2°－W。(形状・規模) 他遺構との重複により残存状況は良くない。(床) 明確な硬化面はなかった。掘り上がった状態は掘り方面と考えておきたい。(カマド) 東辺に確認された。

7号竪穴　(位置) トレンチ2中央やや西よりに位置する。8号・9号竪穴と重複する。(主軸) N－10°－W。(形状・規模) 東西・南北約4.5mの正方形を呈する。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 東辺に東西70cm、南北120cmの掘り方を持つ。(壁) 北壁は比較的良好に残り、30cmほどの立ち上がりが確認できた。

8号竪穴　(位置) トレンチ2中央やや西よりに位置する。7号竪穴と重複する。(主軸) N－2°－E。(形状・規模) 南半分は調査区外に拡大する。東西約3mを測り、方形を基調とする。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 北辺のやや東寄りに確認できた。粘土で構築され、中央に支脚石を持つ。

9号竪穴　(位置) トレンチ2中央やや西よりに位置する。7号竪穴と重複する。(主軸) N－5°－E。(形状・規模) 東西約3m南北2～2.7mの不整な方形を呈する。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) まとまった焼土は確認できなかった。(壁) 西壁および南壁で約10cmの立ち上がりが確認できた。

10号竪穴　(位置) トレンチ2ほぼ中央に位置する。4号・13号竪穴と重複する。(主軸) N－8°－E。(形状・規模) 南側は調査区外に拡大するため全体像は不明である。北辺は約3mを計測する。方形を基調とするものと考えておきたい。

13号竪穴　(位置) トレンチ2ほぼ中央に位置する。10号竪穴と重複する。調査区の北壁断面での確認となった。

トレンチ3

地表から約80cmの深さで精査し、遺構確認を行った。

14号竪穴　(位置) トレンチ3北東。(主軸) N－22°－E。(形状・規模) 北側、東側それぞれが調査区外に拡大するため、全体像は不明である。方形を基調とするものと考えたい。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 調査区内にまとまった焼土は確認できなかった。(壁) 西壁で約30cm、南壁で約15cmの立ち上がりが確認できた。

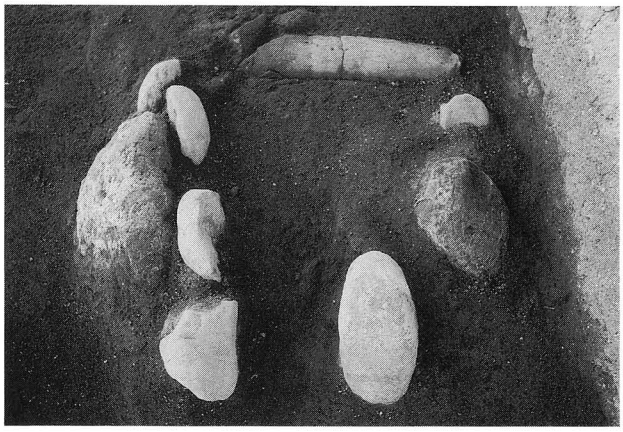
ま　と　め

今回の調査により古墳時代から平安時代にかけての集落が広く展開していたことが確認でき、また弥生時代から平安時代にかけて非常に多くの遺物が出土したことは大きな成果である。

トレンチ１全景

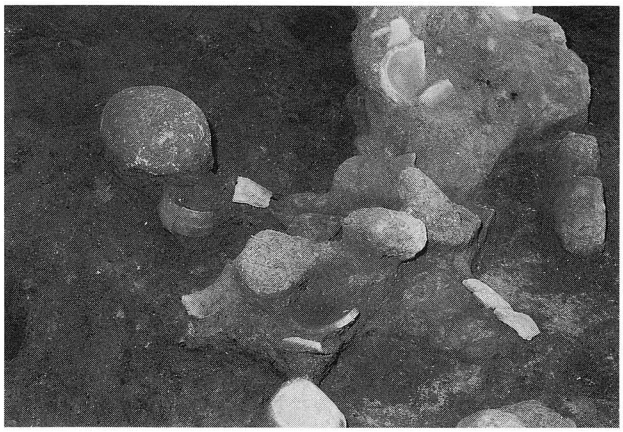
1号・3号竪穴

２号竪穴遺物出土状況



３号竪穴カマド

４号竪穴カマド



４号竪穴カマド右袖遺物出土状況

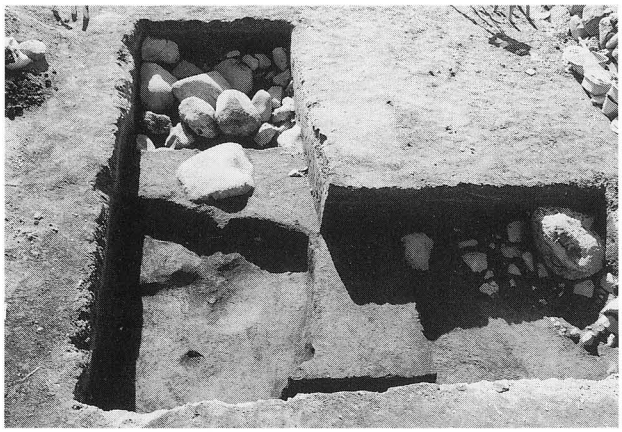
榎田遺跡（第３次） 調査写真（１）

4号竪穴完掘

トレンチ2全景

8号竪穴カマド

10号竪穴カマド



トレンチ3全景

14号竪穴遺物出土状況

榎田遺跡（第3次） 調査写真（2）

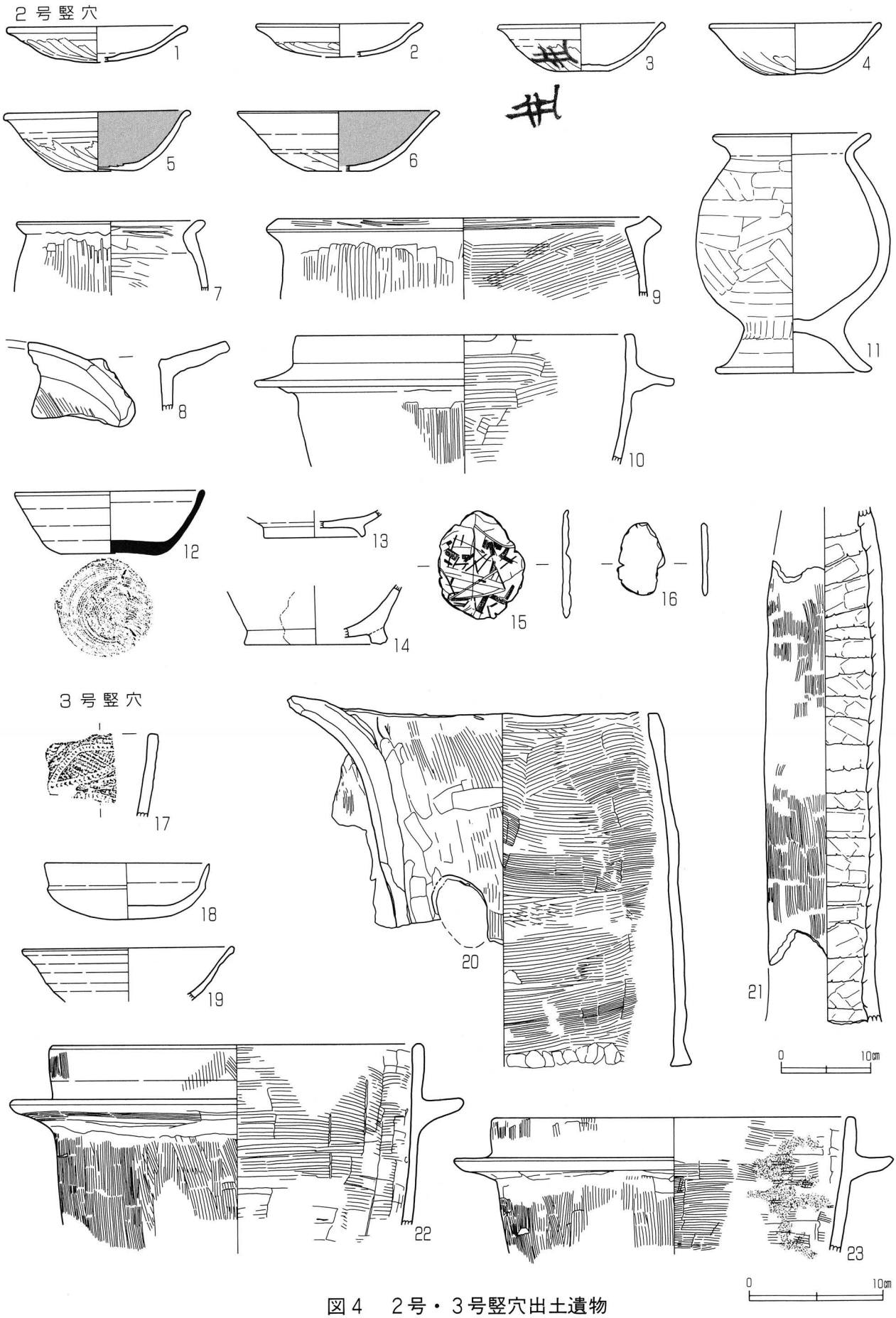


図4　2号・3号竪穴出土遺物

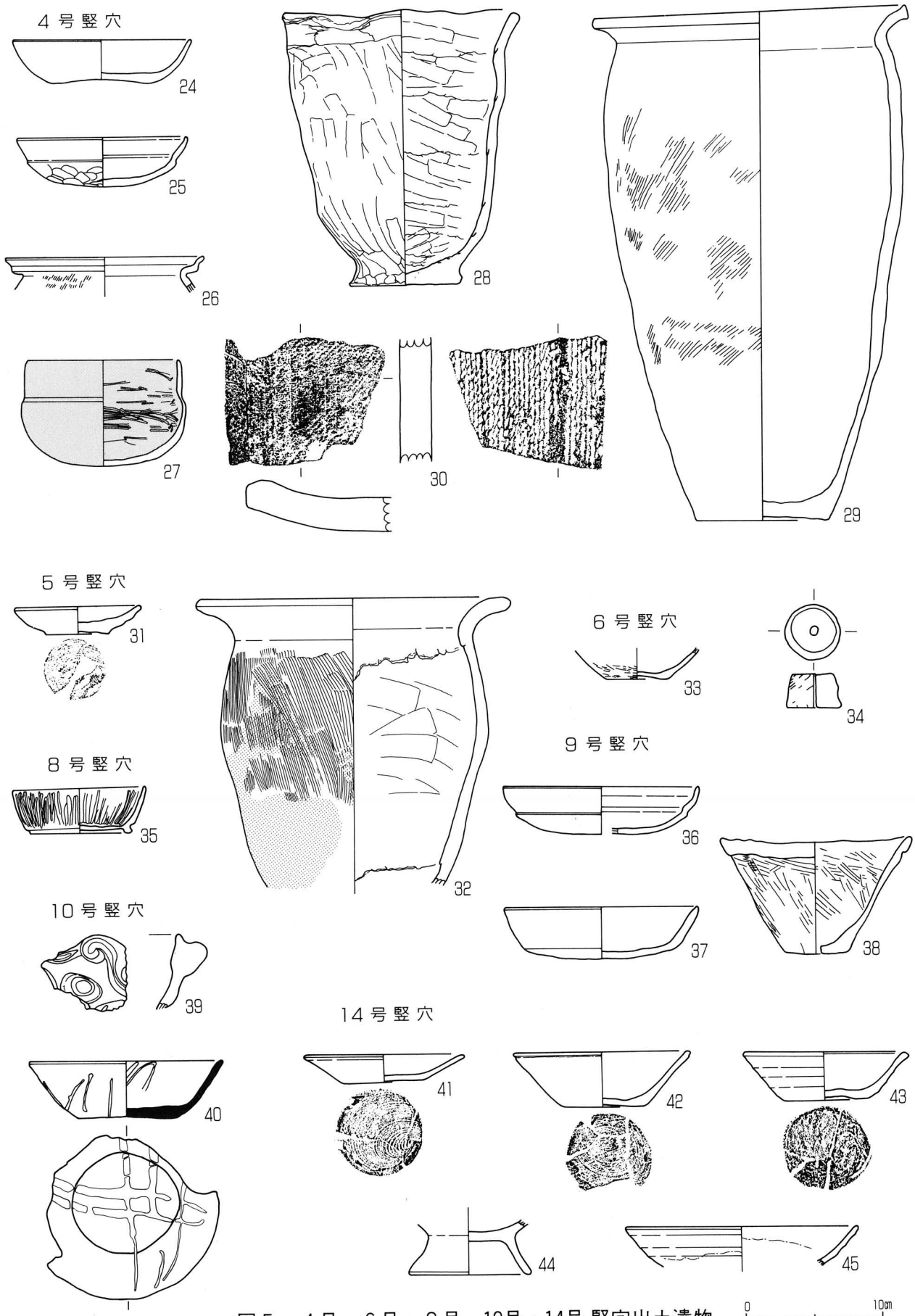


図5　4号～6号・8号～10号・14号 竪穴出土遺物

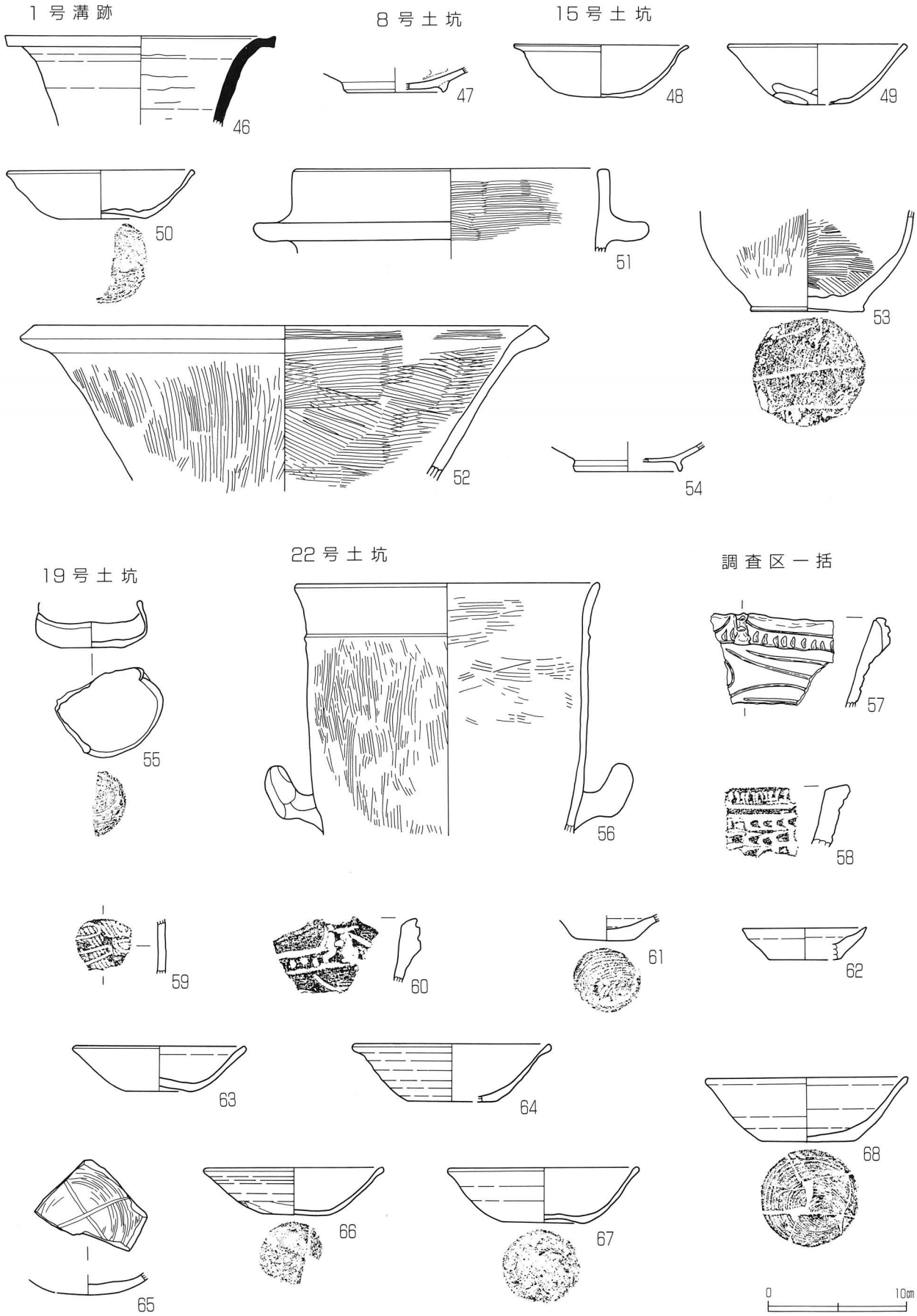


図6　1号溝跡、8号・15号・19号・22号土坑出土遺物、調査区一括出土遺物（1）

調査区一括

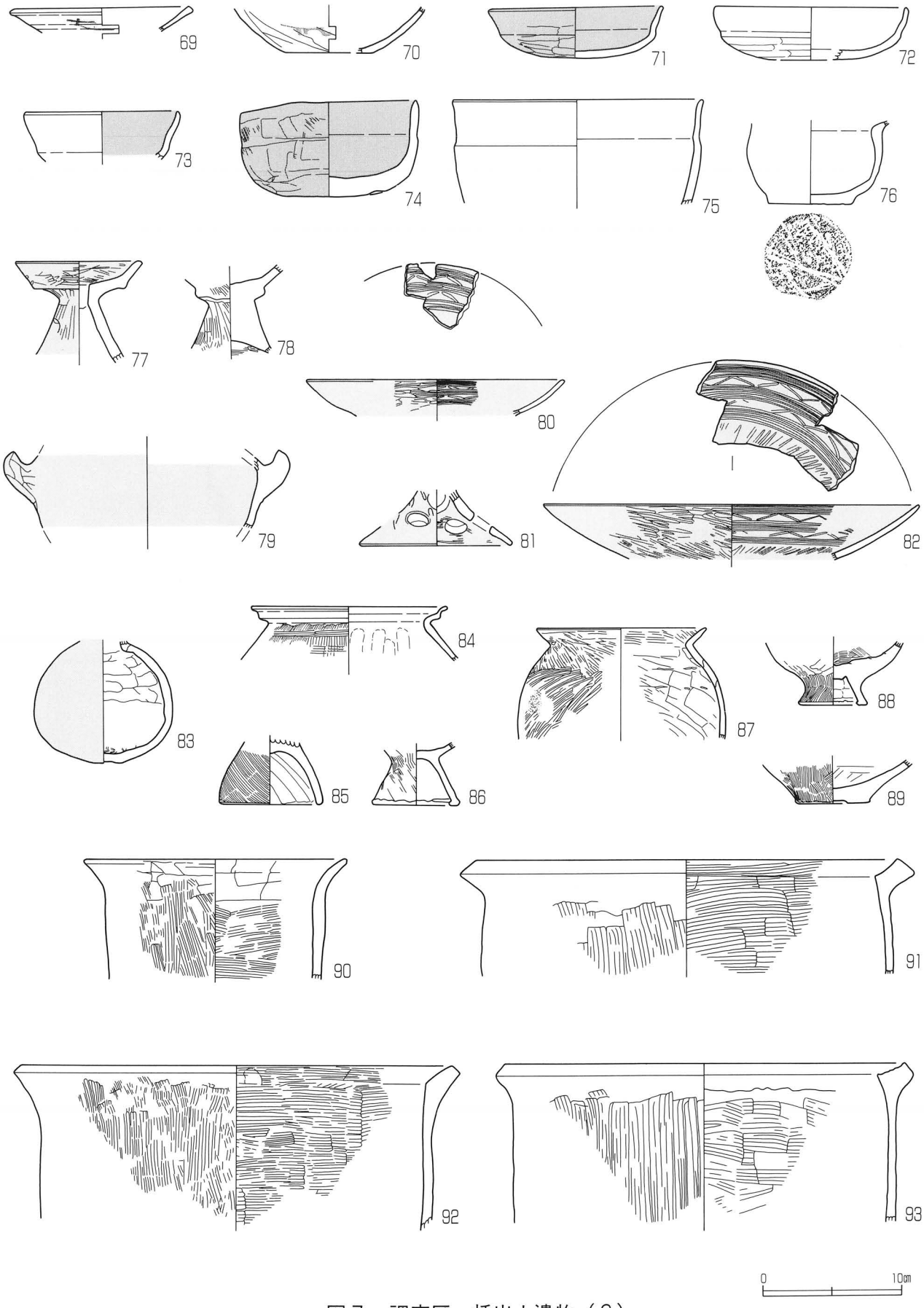


図７　調査区一括出土遺物（２）

調査区一括

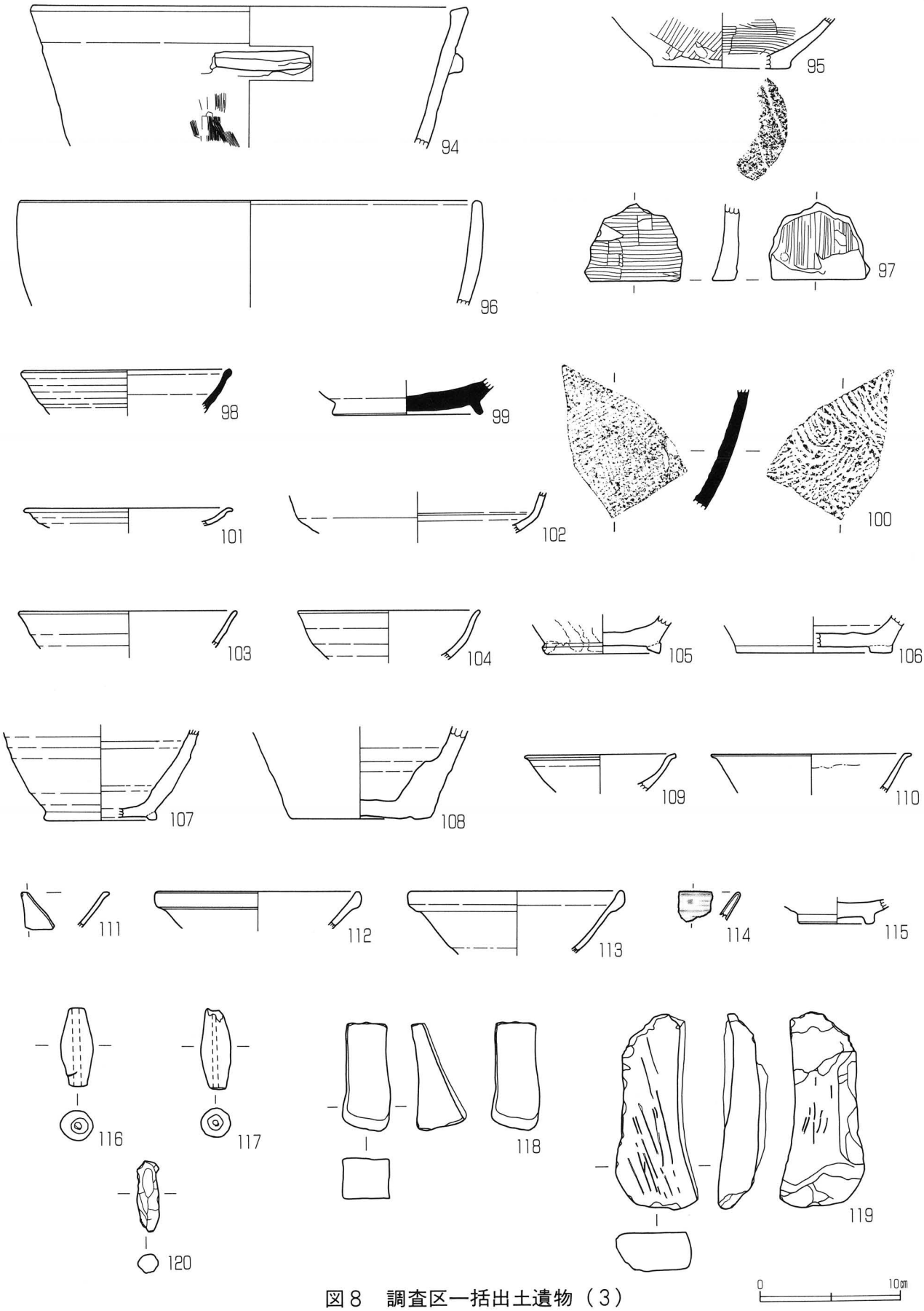


図８　調査区一括出土遺物（３）

表1　榎田遺跡（第3次）出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量			調整	色調	焼成	備考
			口径	器高	底径				
1	土器	皿	(18.6)	(2.6)	—	ナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
2	土器	坏	(12.4)	(2.5)	—	ロクロナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	内面炭化物付着
3	土器	坏	12.5	3.5	4.5	ナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	墨書
4	土器	坏	(13.0)	(3.8)	4.0	ロクロナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
5	土器	坏	13.9	4.3	5.7	ナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	内面黒色
6	土器	坏	(15.0)	(4.5)	(4.8)	ロクロナデ・ケズリ	5YR 6/6 橙	良	内面黒色
7	土器	小形甕	(13.8)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 6/6 橙	良	
8	土器	置き竈	—	—	—	ナデ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐	良	
9	土器	長胴甕	(29.6)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐	良	
10	土器	羽釜	(25.0)	—	—	ナデ・ハケ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
11	土器	台付甕	11.8	17.8	11.6	ナデ・ケズリ	2.5YR 4/6 赤褐	良	
12	須恵器	坏	14.0	4.6	7.4	ロクロナデ	5Y 8/1 灰白	良	内面緋襷
13	灰釉陶器	碗	—	—	(7.4)	ロクロナデ	2.5Y 6/1 黄灰	良	釉ハケ塗り
14	灰釉陶器	壺	—	—	(10.4)	ロクロナデ	2.5Y 7/2 灰黄	良	
15	土製品		8.0	6.4	0.6		7.5YR 6/6 橙	良	
16	土製品		5.3	3.4	0.4		2.5YR 4/6 赤褐	良	
17	土器	深鉢か	—	—	—	すり消し縄文	10YR 5/4 鈍い黄褐	良	
18	土器	坏	12.2	4.2	—	ナデ・ケズリ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
19	土器	坏	(15.2)	—	—	ロクロナデ	7.5YR 4/6 褐	良	
20	土器	置き竈	(21.6)	26.2	(28.0)	ナデ・ハケ・指頭痕	7.5YR 4/6 褐	良	外面炭化物付着
21	土器	円筒形	—	57.5	13.0	ケズリ・ハケ	5YR 6/6 橙	良	輪積痕
22	土器	羽釜	(26.7)	—	—	ハケ・ナデ	5YR 5/6 明赤褐	良	内面炭化物付着
23	土器	羽釜	(26.0)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 5/6 明褐	良	炭化物付着
24	土器	坏	(12.8)	3.2	—	ナデ・ケズリ	5YR 7/8 橙	良	静止糸切り
25	土器	坏	(12.4)	3.6	—	ケズリ	7.5YR 3/2 黒褐	良	
26	土器	台付甕	(14.4)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	S字状口縁部
27	土器	埦	11.0	9.7	—	ミガキ	5YR 7/6 橙	良	内外赤色塗彩
28	土器	甕	17.0	20.4	8.0	ナデ	7.5YR 5/6 明褐	良	
29	土器	長胴甕	22.9	37.7	(9.8)	ナデ・ハケ・叩き	10YR 5/3 鈍い黄橙	良	輪積痕
30	瓦	平瓦	—	—	—	(内)布目・(外)縄目	5Y 4/1 灰	良	
31	土器	かわらけ	(9.0)	2.0	4.6	ロクロナデ	7.5YR 4/4 褐	良	回転糸切り
32	土器	甕	(23.0)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 4/6 赤褐	良	輪積痕
33	土器	坏	—	—	(4.4)	ハケ	5YR 4/6 赤褐	良	
34	土製品	紡錘車	—	—	—	ナデ	2.5YR 5/8 明赤褐	良	
35	土器	高台坏	9.8	3.4	7.2	ミガキ・内外面暗文	2.5YR 6/8 橙	良	削り出し高台
36	土器	坏	(14.2)	3.5	—	ナデ・ミガキ・ケズリ	10YR 3/1 黒褐	良	
37	土器	坏	14.0	3.8	11.1	ナデ	5YR 7/8 橙	良	
38	土器	甑	13.4	8.5	4.6	ナデ・ハケ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	折り返し口縁
39	土器	深鉢か					7.5YR 4/4 褐	良	縄文土器
40	須恵器	坏	(14.0)	4.2	6.8	ロクロナデ	2.5YR 7/1 灰白	良	緋襷痕
41	土器	坏	11.3	2.0	6.0	ロクロナデ	10YR 7/3 鈍い黄橙	良	回転糸切り
42	土器	坏	(12.8)	(3.9)	(6.0)	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	回転糸切り
43	土器	坏	12.1	3.5	6.0	ロクロナデ	10YR 7/6 明黄褐	良	回転糸切り
44	土器	脚高高台坏	—	—	9.0	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
45	灰釉陶器	坏	17.0	—	—	ロクロナデ	2.5YR 7/1 灰白	良	
46	須恵器	壺	(19.3)	—	—	ロクロナデ	N 6/ 灰	良	輪積痕
47	灰釉陶器	皿	—	—	(7.0)	ロクロナデ	2.5YR 7/1 灰白	良	
48	土器	坏	(12.4)	3.8	—	ロクロナデ・ケズリ	5YR 5/6 明赤褐	良	
49	土器	坏	(12.6)	4.4	(4.4)	ロクロナデ・ケズリ	5YR 6/8 橙	良	
50	土器	坏	(13.2)	3.5	(6.2)	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
51	土器	羽釜	(22.8)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 6/2 灰褐	良	
52	土器	鉢	(36.0)	—	—	ハケ	7.5YR 6/6 橙	良	
53	土器	甕	—	—	8.0	ハケ	7.5YR 6/6 橙	良	
54	灰釉陶器	碗	—	—	(7.6)	ロクロナデ	10YR 7/1 灰白	良	三日月高台
55	土器	耳皿	7.4	—	—	ロクロナデ	10YR 7/1 明黄褐	良	
56	土器	甑	(21.6)	—	—	ハケ	7.5YR 5/6 明褐	良	
57	土器	深鉢	—	—	—		7.5YR 4/6 褐	良	縄文土器
58	土器	深鉢	—	—	—	半截竹管	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	縄文土器
59	土器	深鉢	—	—	—		7.5YR 6/6 橙	良	縄文土器
60	土器	深鉢	—	—	—		10YR 6/4 鈍い黄橙	良	縄文土器

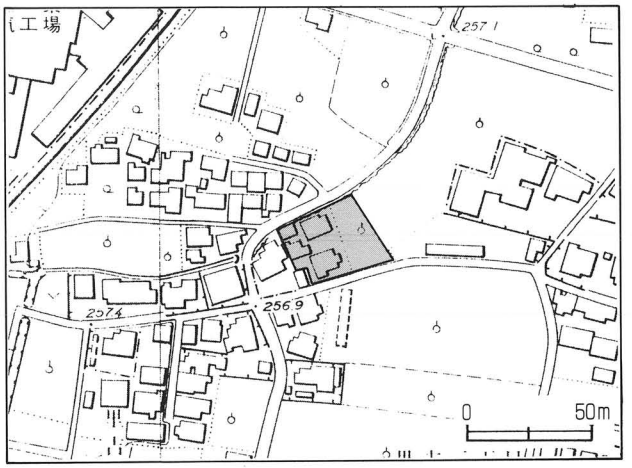
表2　榎田遺跡（第3次）出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
61	土器	坏	－	－	4.4	ロクロナデ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	回転糸切り
62	土器	坏	(8.8)	2.3	(5.2)	ロクロナデ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
63	土器	坏	(12.2)	(3.3)	(4.8)	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
64	土器	坏	(14.1)	(4.2)	(6.2)	ロクロナデ・ケズリ	5YR 6/6 橙	良	
65	土器	坏	－	－	－	ナデ・ミガキ・ケズリ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	内面黒色
66	土器	坏	12.8	3.4	4.7	ロクロナデ・ケズリ	5YR 5/6 明赤褐	良	
67	土器	坏	13.4	3.9	5.9	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	回転糸切り
68	土器	坏	(14.2)	4.6	6.8	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	回転糸切り
69	土器	坏	(12.6)	－	－	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	墨書
70	土器	坏	－	－	(6.3)	ロクロナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	墨書
71	土器	坏	(12.4)	3.6	－	ミガキ・ケズリ	10YR 4/1 褐灰	良	内外面黒色
72	土器	坏	(13.8)	(3.8)	－	ミガキ・ケズリ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	外面炭化物付着
73	土器	坏	(11.0)	－	－	ナデ・ミガキ	N 3/ 暗灰	良	内面黒色
74	土器	坏	12.5	6.5	－	ナデ・ミガキ・ケズリ・ハケ	10YR 5/3 鈍い黄褐	良	内外面黒色
75	土器	埦	(18.0)	－	－	ナデ・ミガキ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
76	土器	小型甕	－	－	6.1	ナデ	5YR 4/4 鈍い赤褐	良	木葉痕
77	土器	器台	(9.0)	－	－	ミガキ	5YR 6/6 橙	良	赤色塗彩
78	土器	高坏	－	－	－	ハケ	5YR 6/6 橙	良	
79	土器	甑	－	－	－	ナデ・ミガキ	10R 5/6 赤	良	内外面赤色塗彩
80	土器	高坏	(18.4)	－	－	ミガキ・櫛描状暗文	10R 4/4 赤褐	良	内外面赤色塗彩
81	土器	高坏	－	－	(10.6)	ナデ・ミガキ・ハケ	10R 4/4 赤褐	良	内外面赤色塗彩
82	土器	高坏	(27.0)	－	－	ミガキ・櫛描状暗文	5YR 5/6 明赤褐	良	内外面赤色塗彩
83	土器	小型壺	－	－	－	ナデ・ケズリ	7.5YR 6/6 橙	良	外面赤色塗彩
84	土器	台付甕	(14.0)	－	－	ナデ・指頭ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
85	土器	台付甕	－	－	7.6	指頭ナデ・ハケ	2.5Y 5/6 明赤褐	良	
86	土器	台付甕	－	－	5.9	ハケ	5YR 6/6 橙	良	指頭痕
87	土器	小形甕	(12.0)	－	－	ナデ・ハケ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	炭化物付着
88	土器	台付甕	－	－	(5.0)	ケズリ・ハケ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	輪積痕
89	土器	壺	－	－	5.4	ナデ・ハケ	2.5YR 4/4 鈍い赤褐	良	外面炭化物
90	土器	長胴甕	(18.8)	－	－	ナデ・ハケ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
91	土器	甕	(30.2)	－	－	ナデ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐	良	
92	土器	甕	(31.0)	－	－	ハケ	7.5YR 5/6 明褐	良	
93	土器	甕	(28.8)	－	－	ナデ・ハケ	7.5YR 6/6 橙	良	
94	土器	抱手鍋	(31.0)	－	－	ナデ・ハケ	5YR 6/6 橙	良	
95	土器	長胴甕	－	－	(10.0)	ハケ	7.5YR 6/6 橙	良	木葉痕・指頭痕
96	土器	鍋か	(37.6)	－	－	ナデ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	スス付着
97	土器	置き竈	－	－	－	ナデ・ハケ	7.5YR 7/6 橙	良	
98	須恵器	碗	(15.0)	－	－	ロクロナデ	7.5Y 5/1 灰	良	
99	須恵器	甕か壺	－	－	10.4	ロクロナデ	7.5Y 5/1 灰	良	
100	須恵器	甕	－	－	－	タタキ・青海波文	N 6/ 灰	良	
101	緑釉陶器	蓋	(15.0)	－	－	ロクロナデ	10Y 4/2 オリーブ灰	良	
102	緑釉陶器	碗	－	－	－	ロクロナデ	7.5Y 4/3 暗オリーブ	良	
103	灰釉陶器	碗	(15.8)	－	－	ロクロナデ	2.5Y 7/2 灰黄	良	
104	灰釉陶器	碗	(13.0)	－	－	ロクロナデ	2.5Y 8/1 灰白	良	
105	灰釉陶器	壺	－	－	(8.3)	ロクロナデ	5Y 7/1 灰白	良	
106	灰釉陶器	壺	－	－	(11.0)	ロクロナデ	2.5Y 6/1 黄灰	良	付け高台
107	灰釉陶器	壺	－	－	(8.0)	ロクロナデ	5Y 6/1 灰	良	
108	灰釉陶器	壺	－	－	(10.0)	ロクロナデ	2.5Y 7/1 灰白	良	
109	白磁	碗	(10.8)	－	－			良	
110	白磁	碗	(14.2)	－	－			良	
111	白磁	碗	－	－	－			良	
112	白磁	碗	(14.5)	－	－			良	
113	白磁	碗	(15.0)	－	－		5Y 7/2 灰白	良	
114	青磁	碗か	－	－	－		10Y 5/2 オリーブ灰	良	
115	青磁	碗	－	－	(5.0)		2.5Y 7/1 灰白	良	
116	土製品	土錘	5.7	2.3	0.6		7.5YR 6/6 橙	良	
117	土製品	土錘	(5.7)	2.2	0.4		5YR 6/6 橙	良	
118	石製品	砥石	(7.7)	3.4	2.9			良	
119	石製品	砥石	14.0	5.5	2.7			良	
120	鉄製品		5.1	1.5	1.4			良	

38 家之前遺跡（第３次）

調査位置　甲府市里吉三丁目790、793-1
調査原因　集合住宅建設
対象面積　1,393.66㎡
調査面積　46㎡
調査期間　平成８年11月６日～21日
調査担当　志村憲一



調査の概要

盆地低地部標高約257ｍに位置する平安時代の遺跡である。周辺には里吉天神遺跡、十丁遺跡、西方には朝気遺跡など古墳～平安時代にかけての遺跡が多数見られる。

調査区に、南北23ｍ×幅２ｍのトレンチを設定し、重機で深さ1.2ｍ掘削を行った。遺構は検出されなかったが、地表下0.8ｍの第５層からは坏、地表下1.4ｍの第７層では土師器小片が検出された。

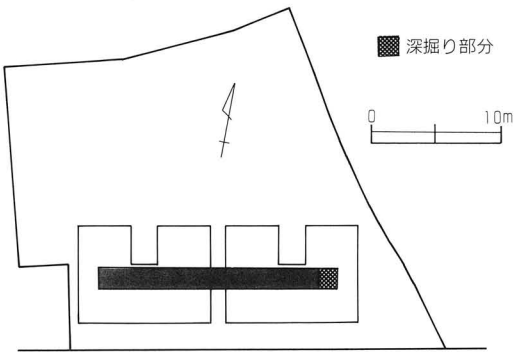


図１　試掘坑配置図

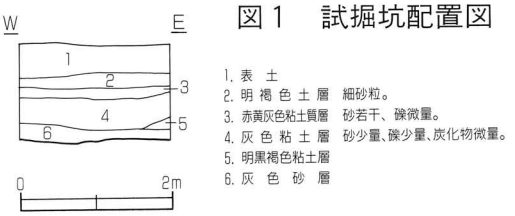
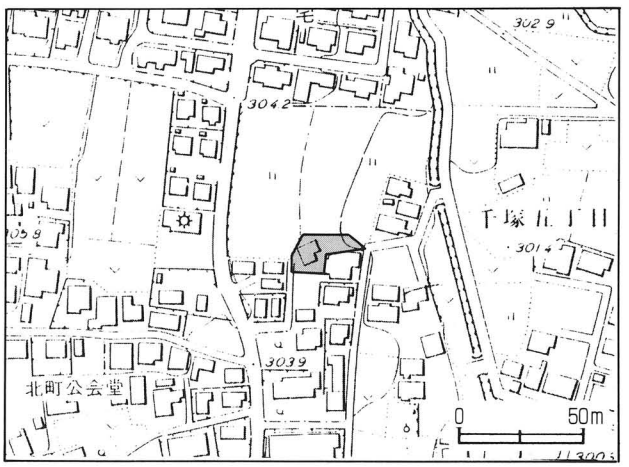


図２　深掘り部分北壁セクション

図３　出土遺物

39 榎田遺跡（第４次）

調査位置　甲府市千塚五丁目2962-7
調査原因　個人住宅建設
対象面積　267.43㎡
調査面積　４㎡
調査期間　平成８年11月13日～14日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

調査地点は、山梨県埋蔵文化財センターが平成３年に発掘調査を実施した地点から東に約120ｍ離れ、標高約302.5ｍで前述の37.榎田遺跡に隣接し約１ｍ低い位置に立地する。

対象地に２×２ｍの調査グリッドを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、地表下70cmの地層から直径20cmを超える河原石が出土し始め、それより下層は褐色の砂質土となった。

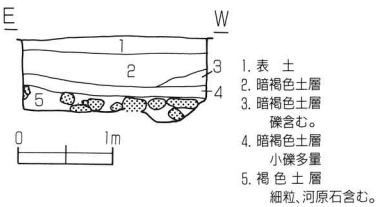
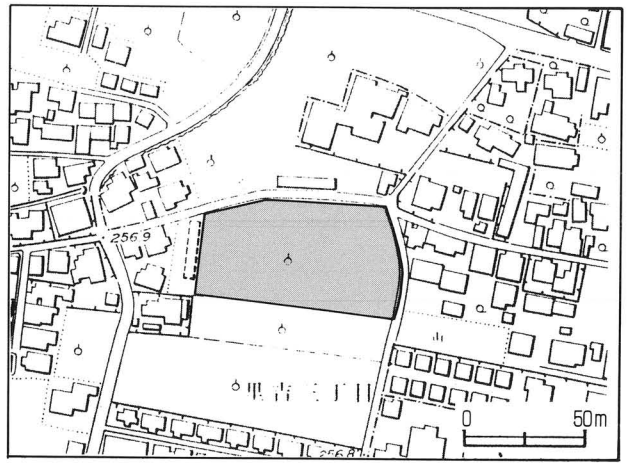


図１　試掘坑南壁セクション

40 家之前遺跡（第４次）



調査位置　甲府市里吉三丁目982-1
調査原因　集合住宅建設
対象面積　943.41㎡
調査面積　約80㎡
調査期間　平成８年11月６日～21日
調査担当　志村憲一

遺跡の概要

本報告書掲載19・25・38の家之前遺跡（第１～３次）の南側に近接し、他の地点と同様にほぼ平坦であり標高は約257ｍである。

調査の概要

調査は２箇所にトレンチを設定し、重機で掘削を行い人力で精査を行った。

トレンチ１は、東西12ｍ、幅４ｍ、中央部は南側に部分的に拡張した。地表下約70cm地点からは、Ｎ－52°－Ｅ方向に軸線をもつ、幅0.8～1.8ｍ、深さ10～30cmの溝に囲まれた、一辺約４ｍの方形のプランが確認された。この方形の高まり内からは土師器片が200点以上確認され、特に南端からは多量に検出された。方形プラン東側には幅1.7ｍ、深さ10cmの溝が確認された。遺物は、壺・小型壺・Ｓ字甕・甕・台付甕・高坏など古墳時代前期に位置づけられる土器が出土した。

トレンチ２は、東西12ｍ、幅２ｍ、深さ60cmのトレンチである。トレンチ内からは幅２ｍ、深さ40cmの南北方向の溝が確認されている。

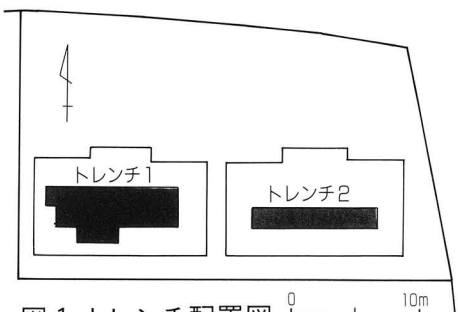
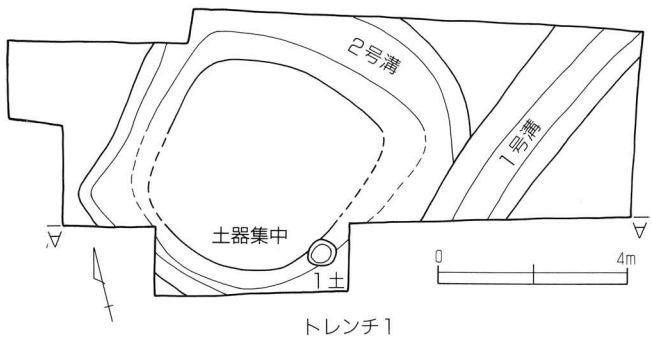


図１ トレンチ配置図



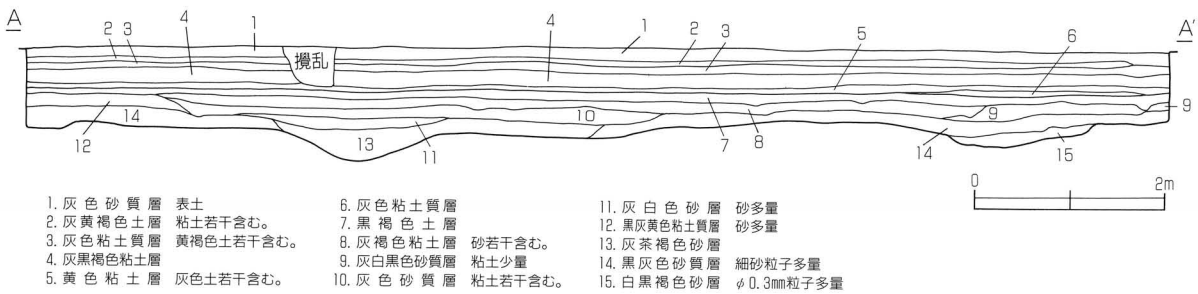


図２　トレンチ１全体図・セクション

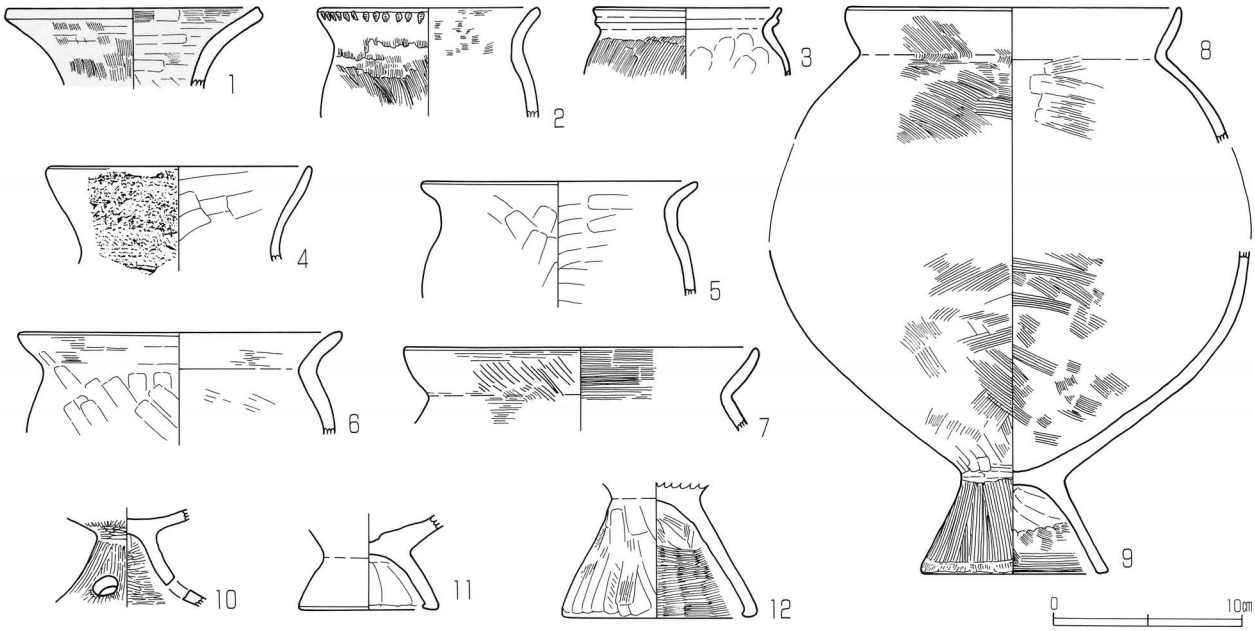


表１　家之前遺跡（第４次）出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による復元値

番号	種　別	器　種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調　整	色　調	焼成	備　考
1	土　器	壺か	(13.6)	－	－	ケズリ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	赤色塗彩
2	土　器	小型甕	(11.6)	－	－	ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
3	土　器	台付甕	(10.0)	－	－	ナデ・指頭ナデ・ハケ	5YR 6/8 橙	良	S字状口縁
4	土　器	甕	(14.0)	－	－	ナデ	10YR 6/3 鈍い橙	良	
5	土　器	甕	(14.6)	－	－	ナデ・ケズリ	10YR 7/4 鈍い黄橙	良	
6	土　器	甕	(17.2)	－	－	ナデ・ケズリ	5YR 6/6 橙	良	
7	土　器	甕	(18.8)	－	－	ナデ・ハケ	5YR 6/6 橙	良	
8	土　器	台付甕	(17.6)	－	－	ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い褐	良	
9	土　器	台付甕	－	－	9.9	ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い褐	良	8と同一個体か
10	土　器	高坏	－	－	－	ミガキ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐	良	3箇所に透かし穴
11	土　器	台付甕	－	－	(7.5)	指頭ナデ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
12	土　器	台付甕	－	－	(10.4)	ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	

写真１　トレンチ１

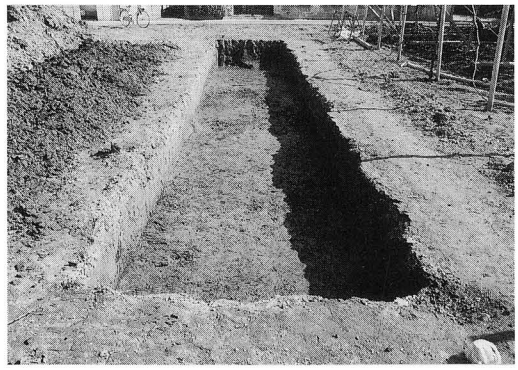
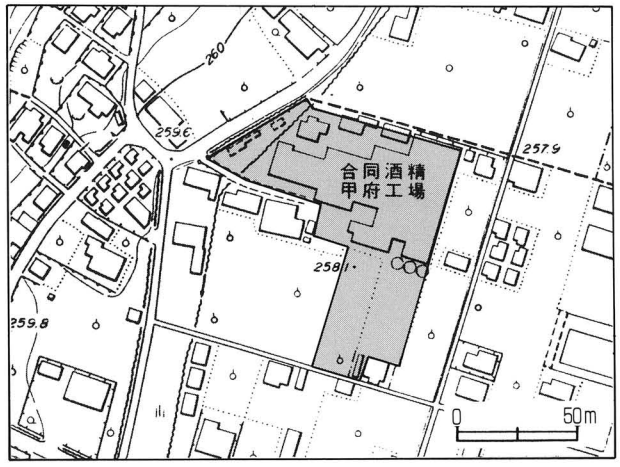


写真２　トレンチ２

41 御崎田遺跡



調査位置　甲府市東光寺二丁目4-349他
調査原因　宅地造成
対象面積　6,297.48㎡
調査面積　40㎡
調査期間　平成９年２月６日～12日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

御崎田遺跡は、愛宕山と善光寺山の間にあり、高倉川により形成された扇状地の標高260ｍ付近に位置する。当初２×２ｍの調査グリッドを４箇所設定し、その後重機で拡張し試掘調査を行った。

調査の結果、地表下0.5～３ｍまで粘性の強い粘土が堆積していた。既存の工場建設による造成工事のためか、遺構は全く検出されなかった。また、出土遺物も土師質土器の小片が５点出土しただけである。

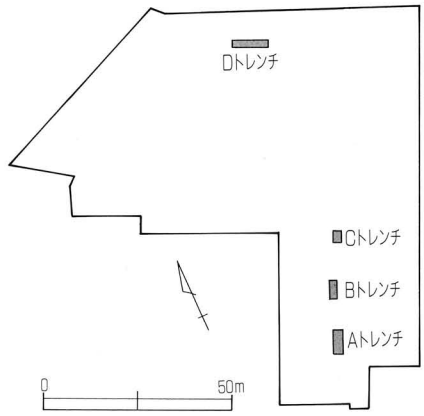
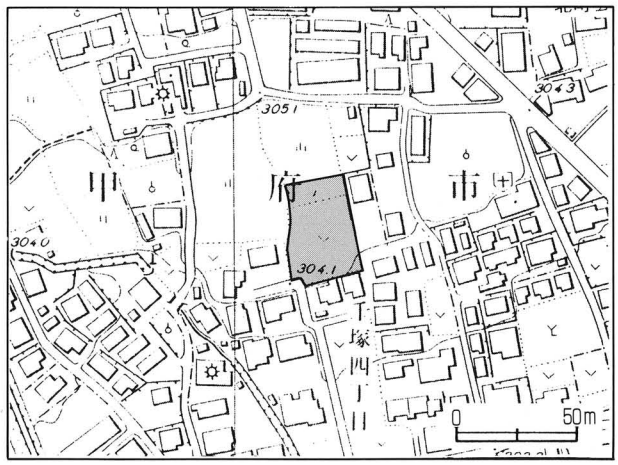


図１　試掘坑配置図

42 天神西遺跡（第２次）



調査位置　甲府市千塚四丁目3230他
調査原因　集合住宅建設
対象面積　943.61㎡
調査面積　28㎡
調査期間　平成９年２月19日～25日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

天神西遺跡は荒川に開析された扇状地の標高302ｍ付近に位置する。当初２×２ｍの調査グリッドを４箇所設定し（南西より時計回りにA、B、C、D）、試掘調査を行った。

調査の結果Ａグリッドで、地表下80cmで平安時代の竪穴住居跡が確認でき、Ｃグリッドで地表下100cmにおいて古墳時代前期の竪穴住居跡が確認でき、Ｄグリッドでは礫の堆積中から布目瓦と灰釉陶器片が出土した。そのため、Ｃグリッドを拡張し調査をおこなった。その結果、古墳時代前期の竪穴住居跡はさらに広がる様相を呈した。予定される建築物の基礎が地表下45cmの設置であるため、埋蔵文化財への影響は少ないものと判断し、試掘調査を終了した。

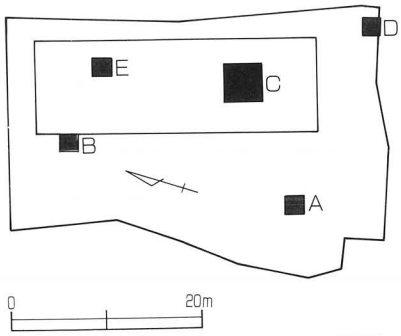
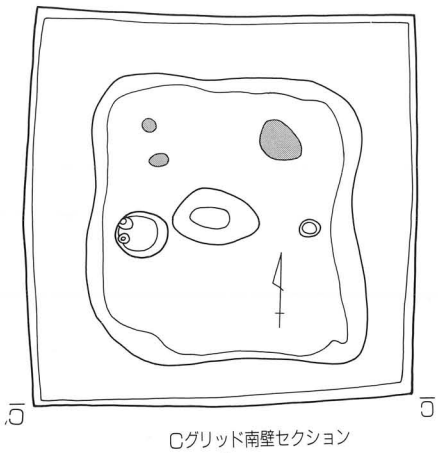


図1　試掘坑配置図



－A・B・Cグリット土層説明－

1. 灰褐色土層（耕作土）
2. 赤褐色土層（水田床土）
3. 暗褐色土層
4. 暗褐色土層
白色の砂が混じる。
5. 暗褐色土層
色調暗く、土粒子が細かい。
6. 黄褐色砂質土層
7. 暗褐色土層
色調は比較的暗い。
8. 暗褐色土層
色調は比較的明るい。
9. 暗褐色土層
直径2㎝程度の礫が混じる。
10. 暗褐色土層

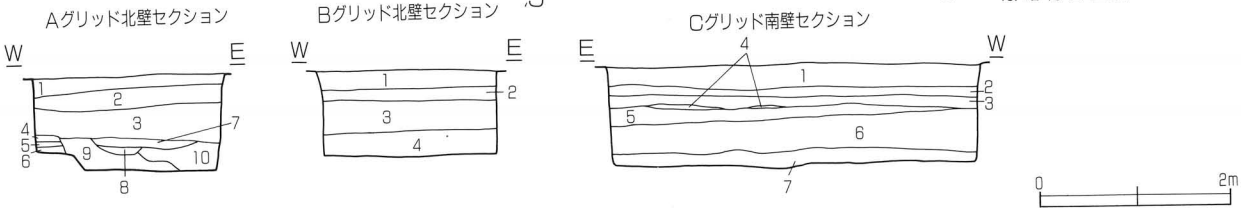


図2　Cグリッド全体図・セクション

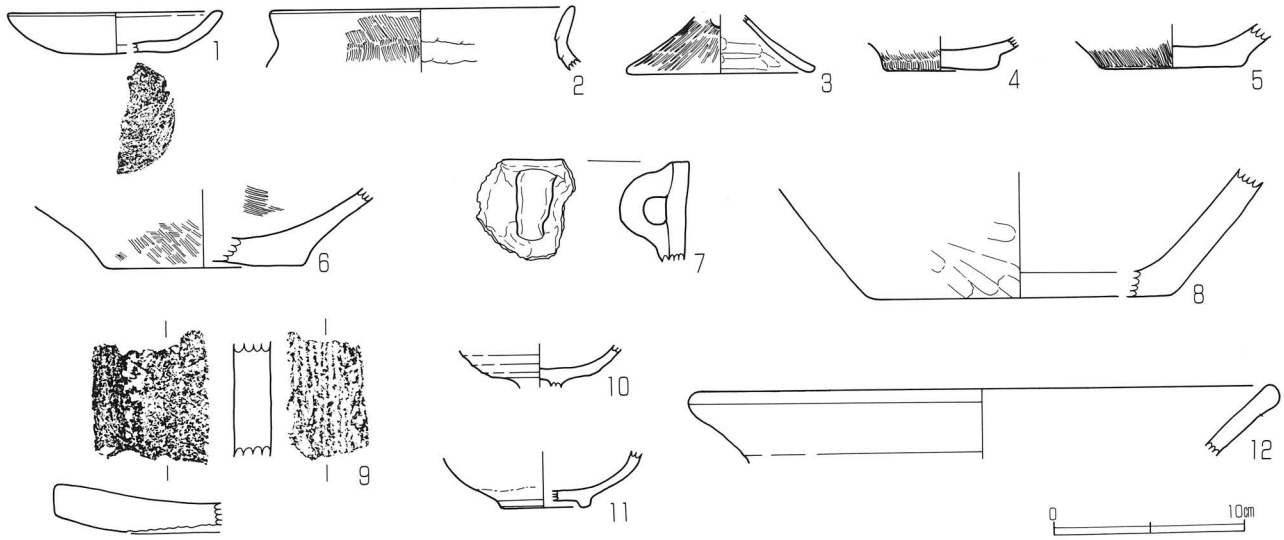


図3　出土遺物

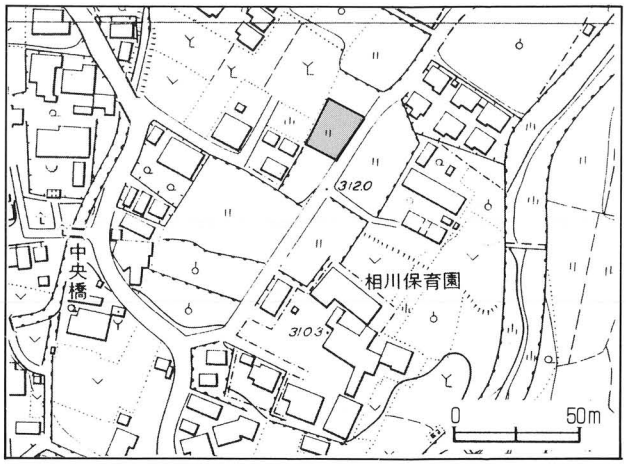
表1　天神西遺跡（第2次）出土遺物観察表

単位：㎝　（　）は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	坏	11.2	(2.1)	(6.0)	ナデ	5YR 6/6 橙	良	
2	土器	甕	(15.9)	－	－	ナデ・ハケ	5YR 4/4 鈍い赤褐	良	
3	土器	高坏	－	－		ナデ・ミガキ	5YR 5/6 明赤褐	良	
4	土器	甕か	－	－	5.1	ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
5	土器	甕か	－	－	7.6	ナデ・ミガキ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
6	土器	壺か	－	－	(10.4)	ナデ・ハケ	2.5YR 6/6 橙	良	
7	土器	内耳鍋	－	－	－	ナデ	5YR 6/4 鈍い橙	良	
8	土器	鉢	－	－	(16.0)	指頭ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	良	
9	瓦	平瓦	－	－	－		7.5Y 5/1 灰	良	布目瓦
10	陶器	仏飯器か	－	－	－	ロクロナデ	2.5Y 8/4 淡黄	良	
11	陶器	碗	－	－	(4.6)	ロクロナデ	2.5Y 8/2 灰白	良	
12	灰釉陶器	甕か	(31.0)	－	－	ロクロナデ	2.5Y 7/1 灰白	良	

43 永井遺跡

調査位置　甲府市小松町425-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　189.37㎡
調査面積　4 ㎡
調査期間　平成９年３月４日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

永井遺跡が所在する小松町は、相川扇状地の扇端部標高322ｍ付近に位置する。調査区に２×２ｍの調査グリッドを１箇所設定し試掘を行った。調査の結果、地表下60㎝まで砂が客土され、地表下100～110㎝で古墳～平安時代にかけての土器等が出土した。また、地表下130㎝の地層から直径約20㎝の人間の頭骨が出土した。

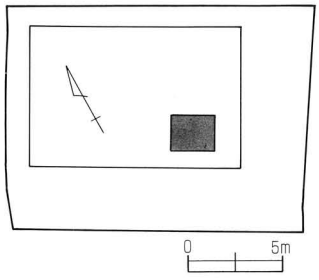


図１　試掘坑配置図

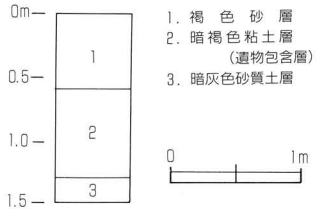


図２　基本層序

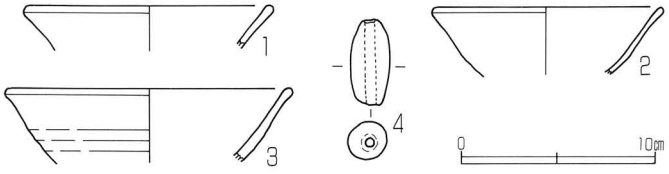
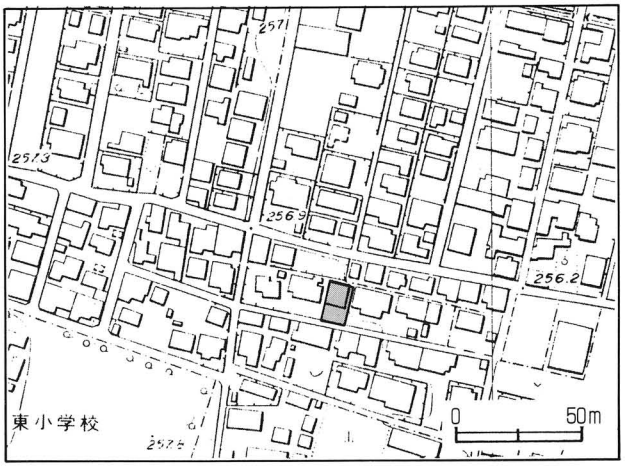


図３　出土遺物

44 朝気遺跡（第13次）

調査位置　甲府市朝気二丁目670-2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　151.18㎡
調査面積　4 ㎡
調査期間　平成９年３月11日～12日
調査担当　平塚洋一



調査の概要

朝気遺跡は古代には巨摩郡青沼郷に所在していたと考えられ、また、郷域の東端は山梨郡表門郷と境を接していたものと考えられる。

これまでおこなった朝気遺跡の調査結果から、朝気遺跡の中心は朝気一丁目の甲府市立東小学校から西にかけてあることが予想されている。

今回の調査は、２×２ｍの試掘グリッドを設定し調査を行った。調査の結果、土師質土器小片が数点出土したが、地表下75㎝までが攪乱層、以下は自然堆積層であった。

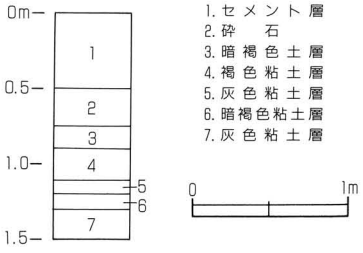
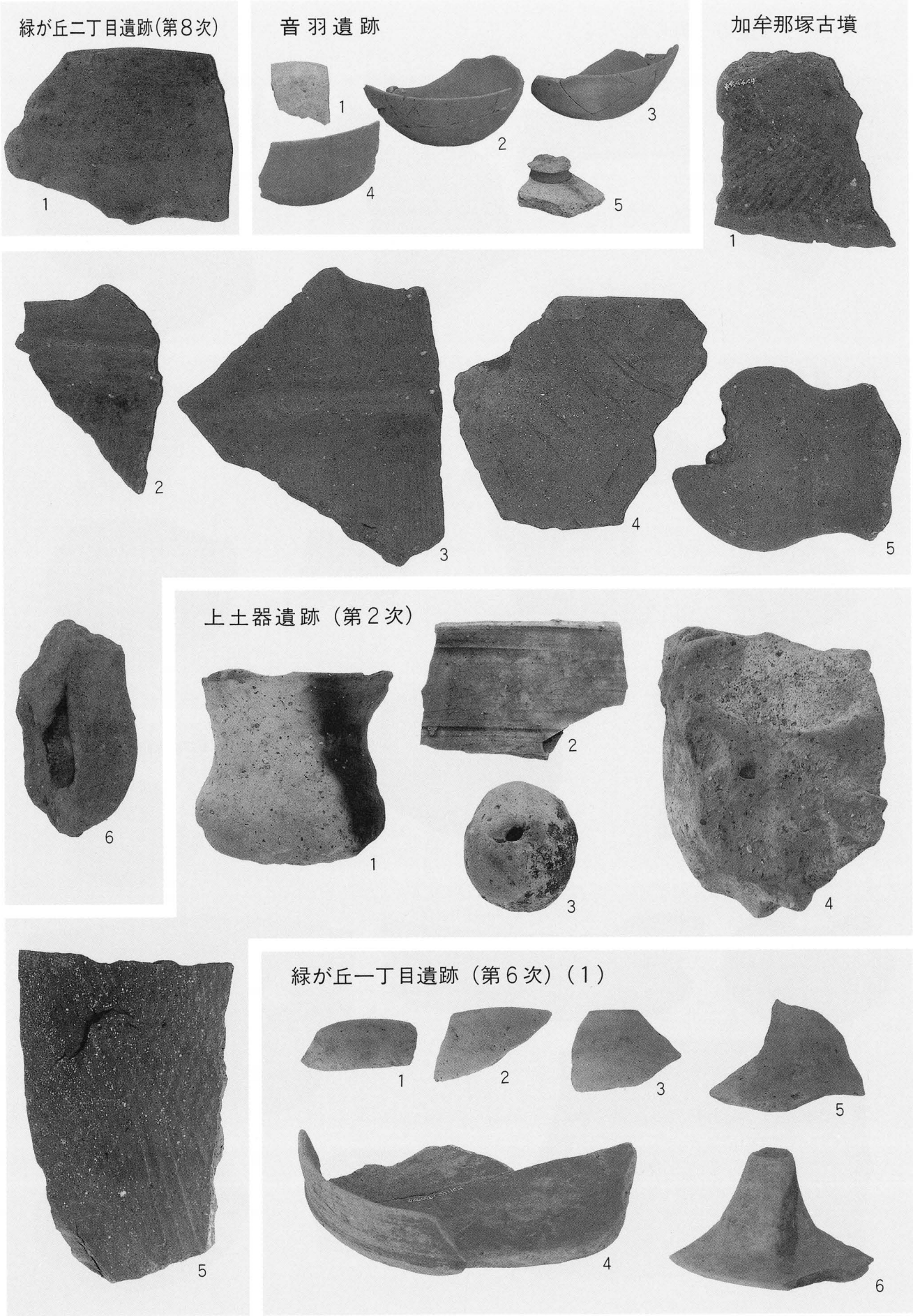
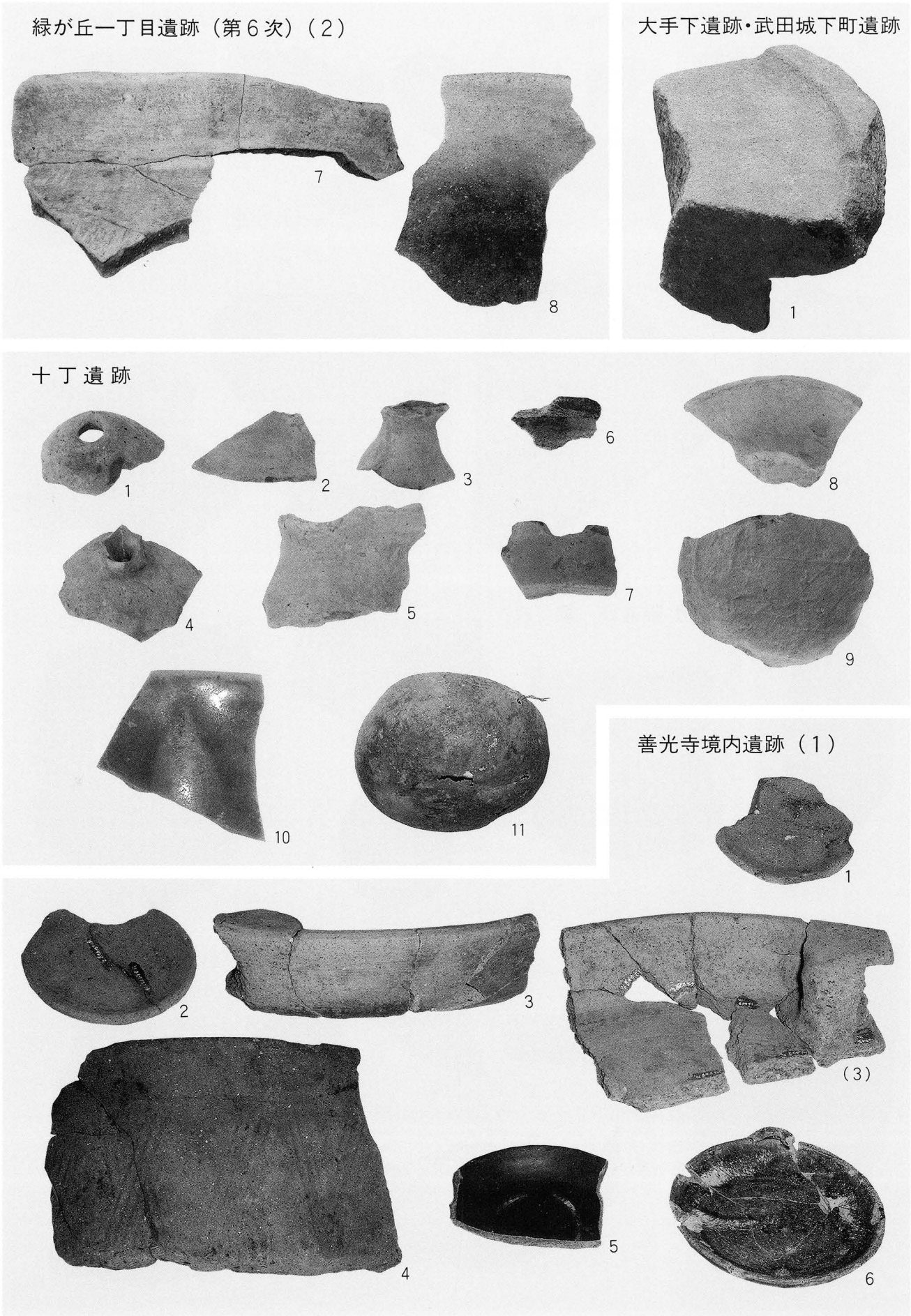


図１　基本層序

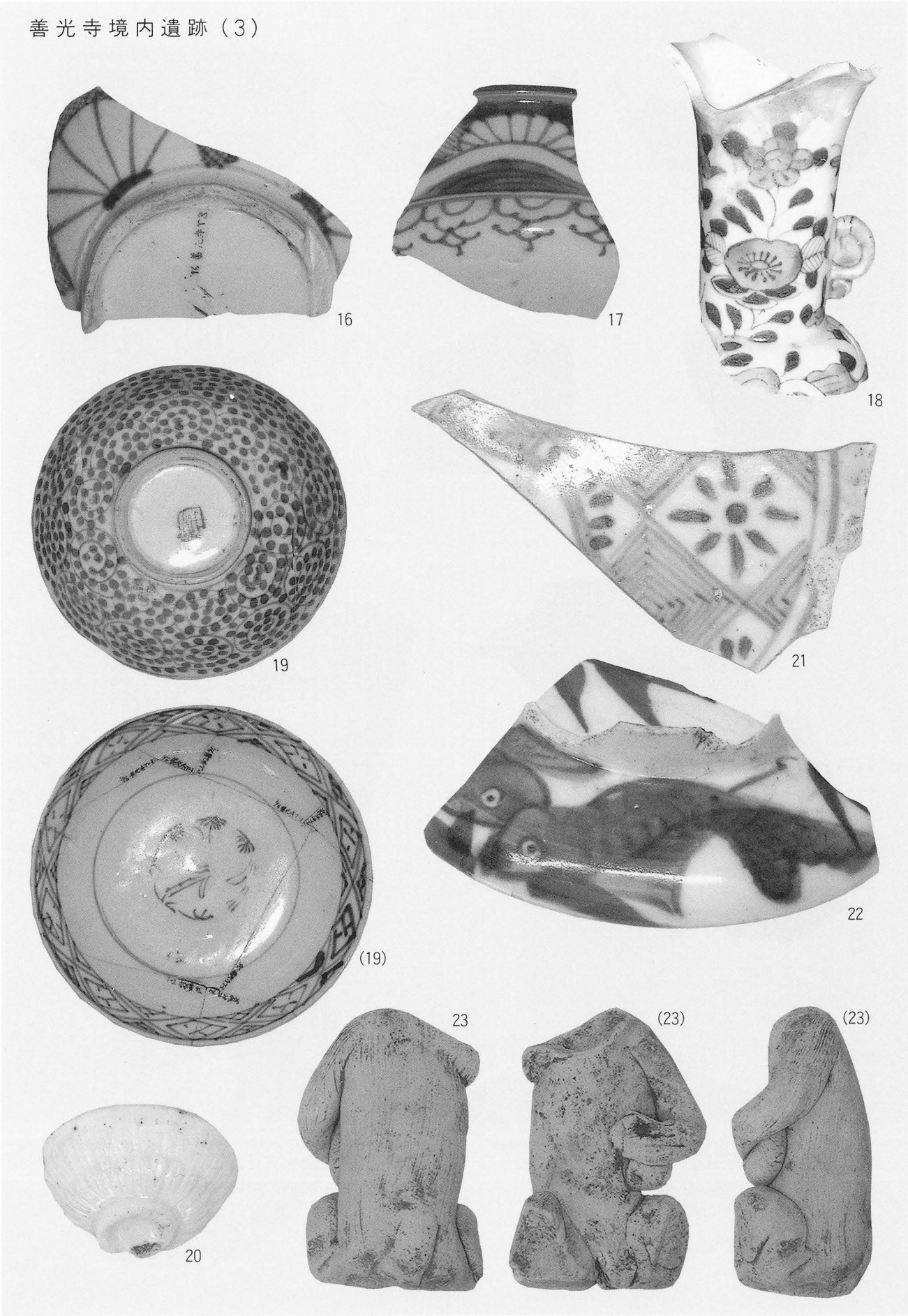


図版1　緑が丘二丁目遺跡(第8次)、音羽遺跡、加牟那塚古墳、上土器遺跡(第2次)、緑が丘一丁目遺跡(第6次)(1)

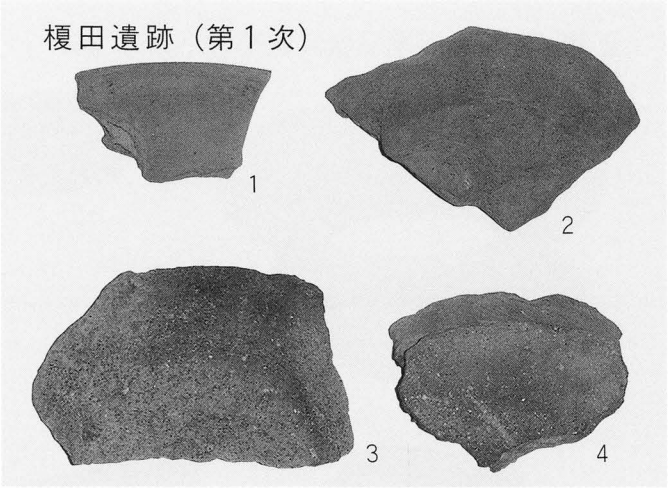


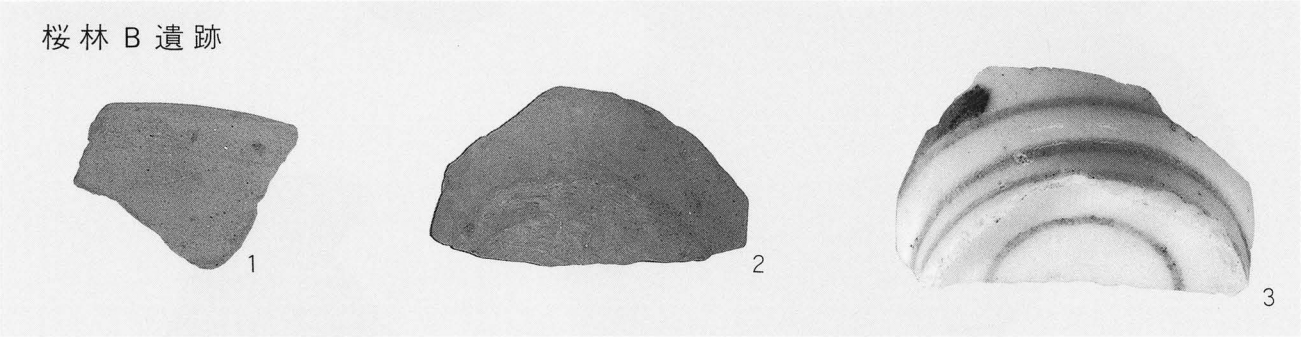
図版２　緑が丘一丁目遺跡(第6次)(２)、大手下遺跡・武田城下町遺跡、十丁遺跡、善光寺境内遺跡(１)

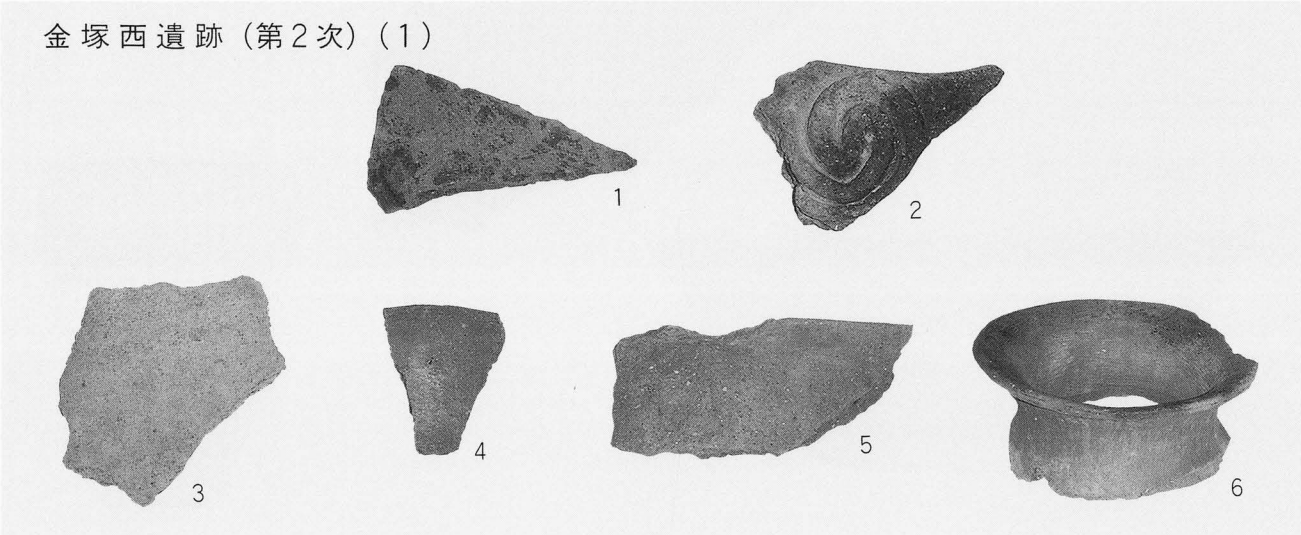
図版3　善光寺境内遺跡（2）



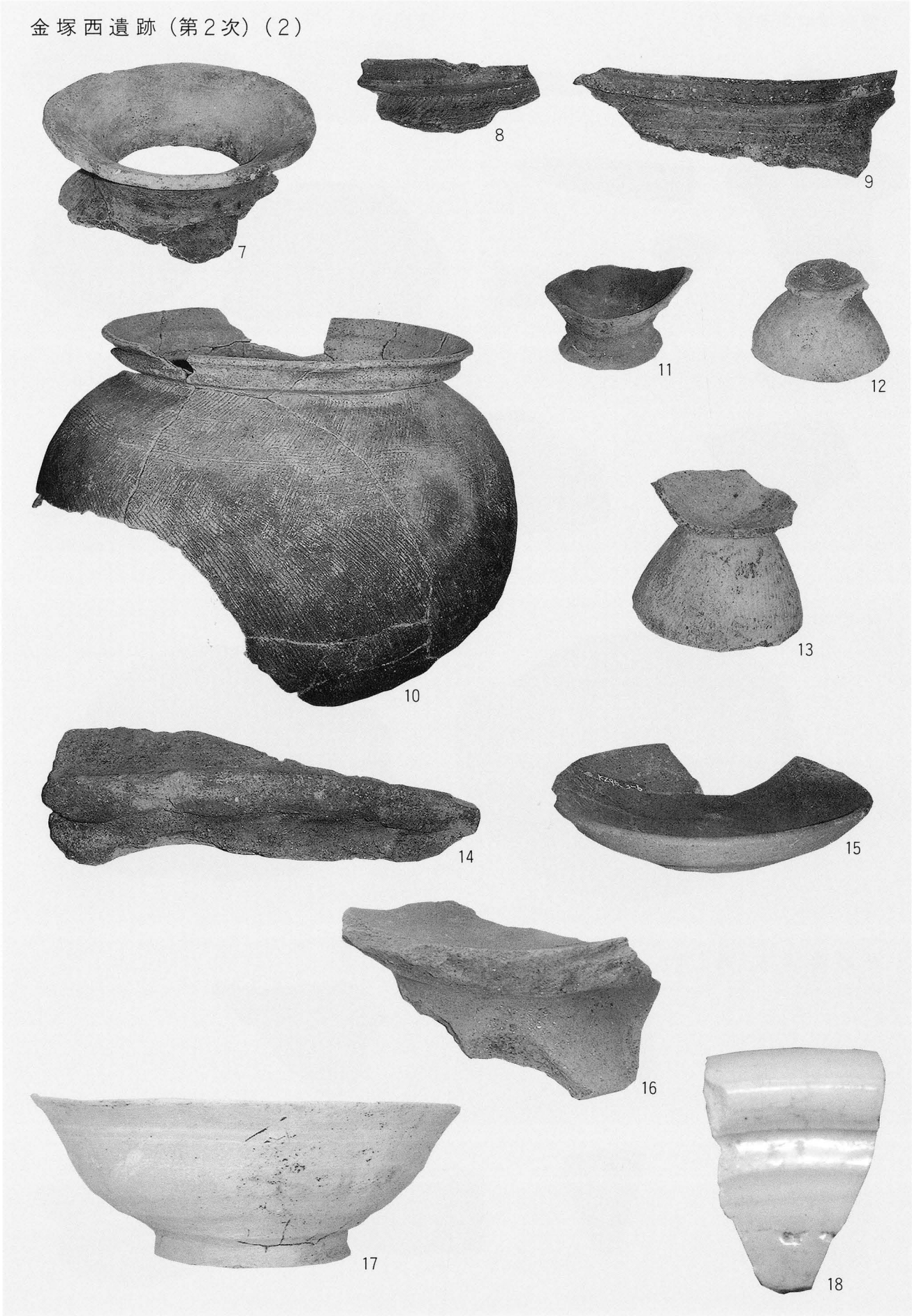
図版４　善光寺境内遺跡（３）



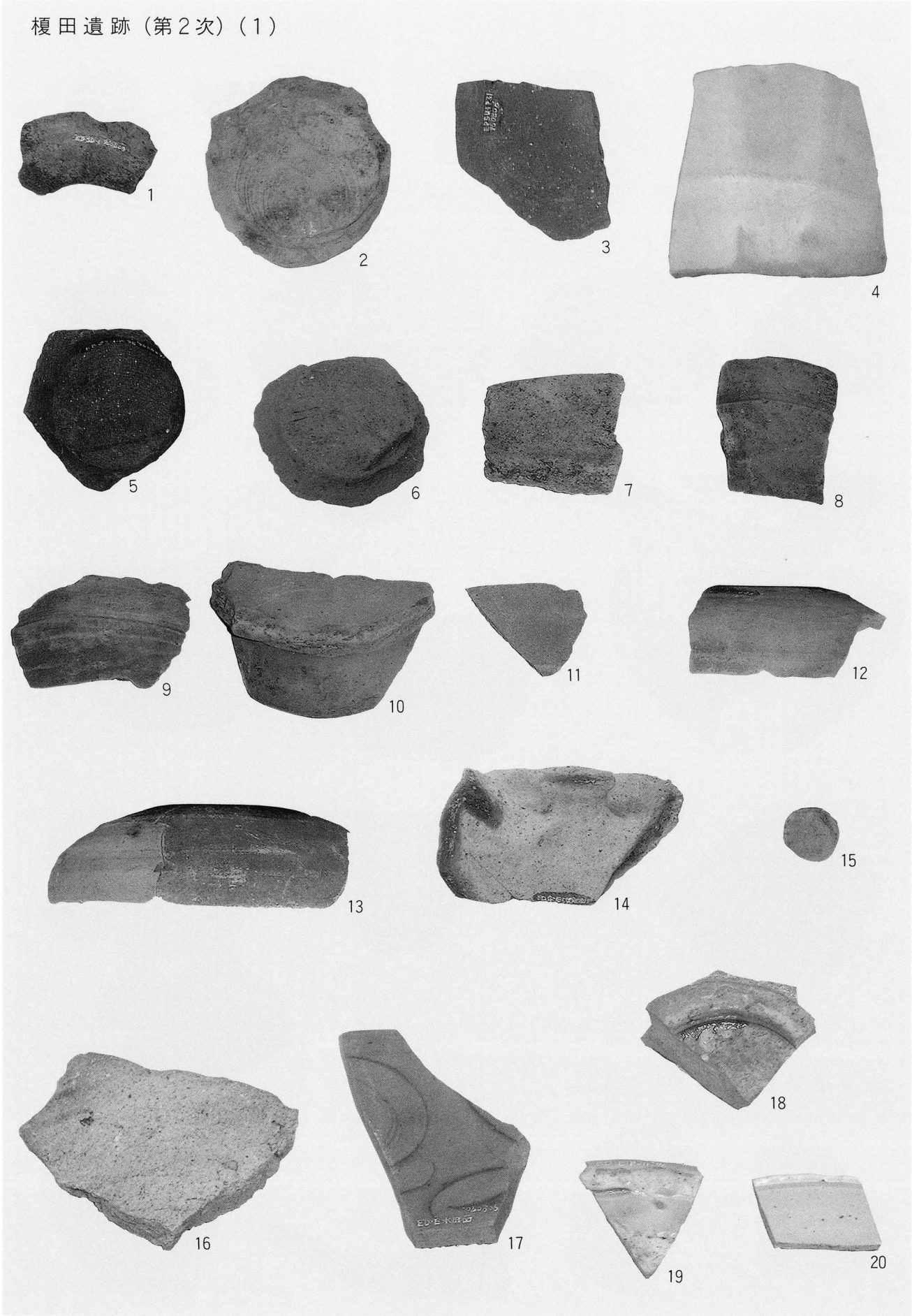




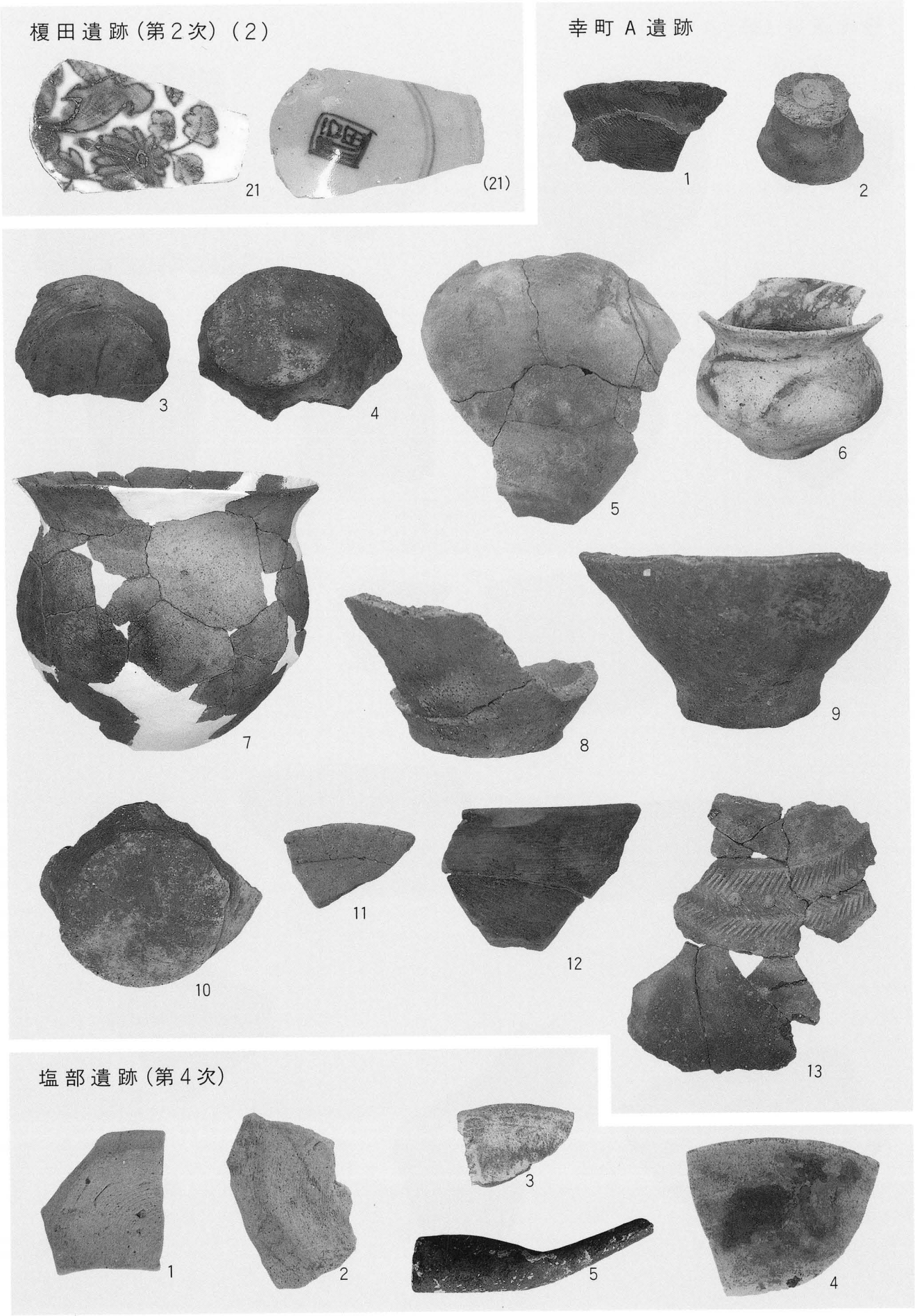
図版5　善光寺境内遺跡(4)、榎田遺跡(第1次)、桜林B遺跡、汗タリ遺跡、金塚西遺跡(第2次)(1)



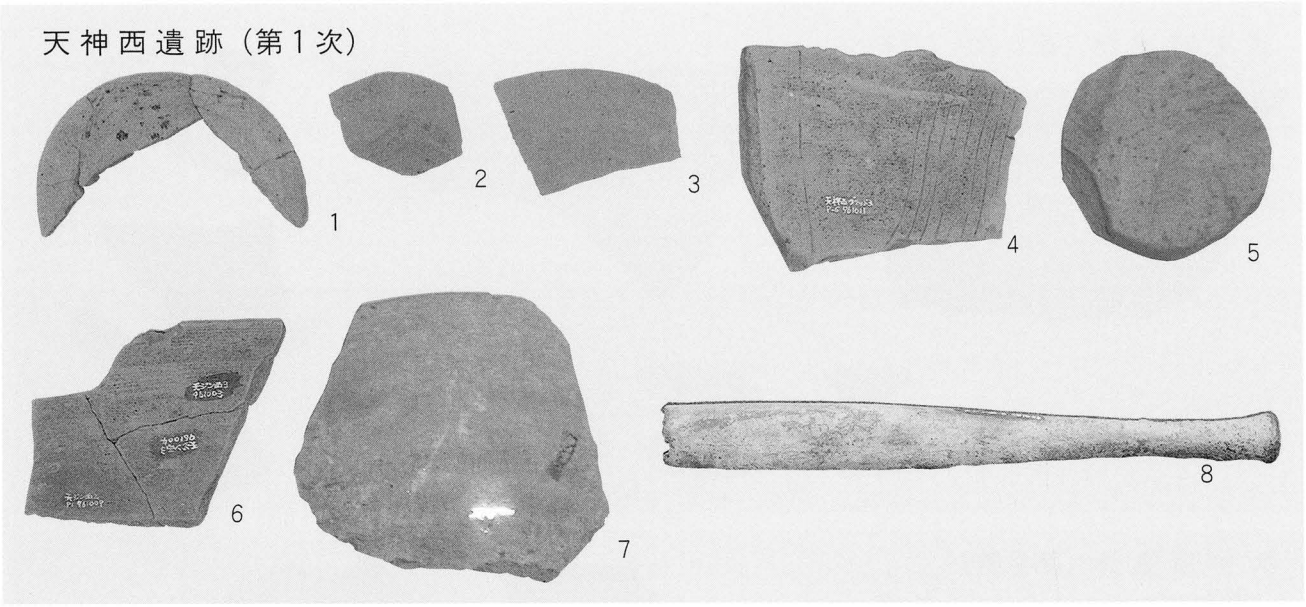
図版6　金塚西遺跡（第2次）（2）

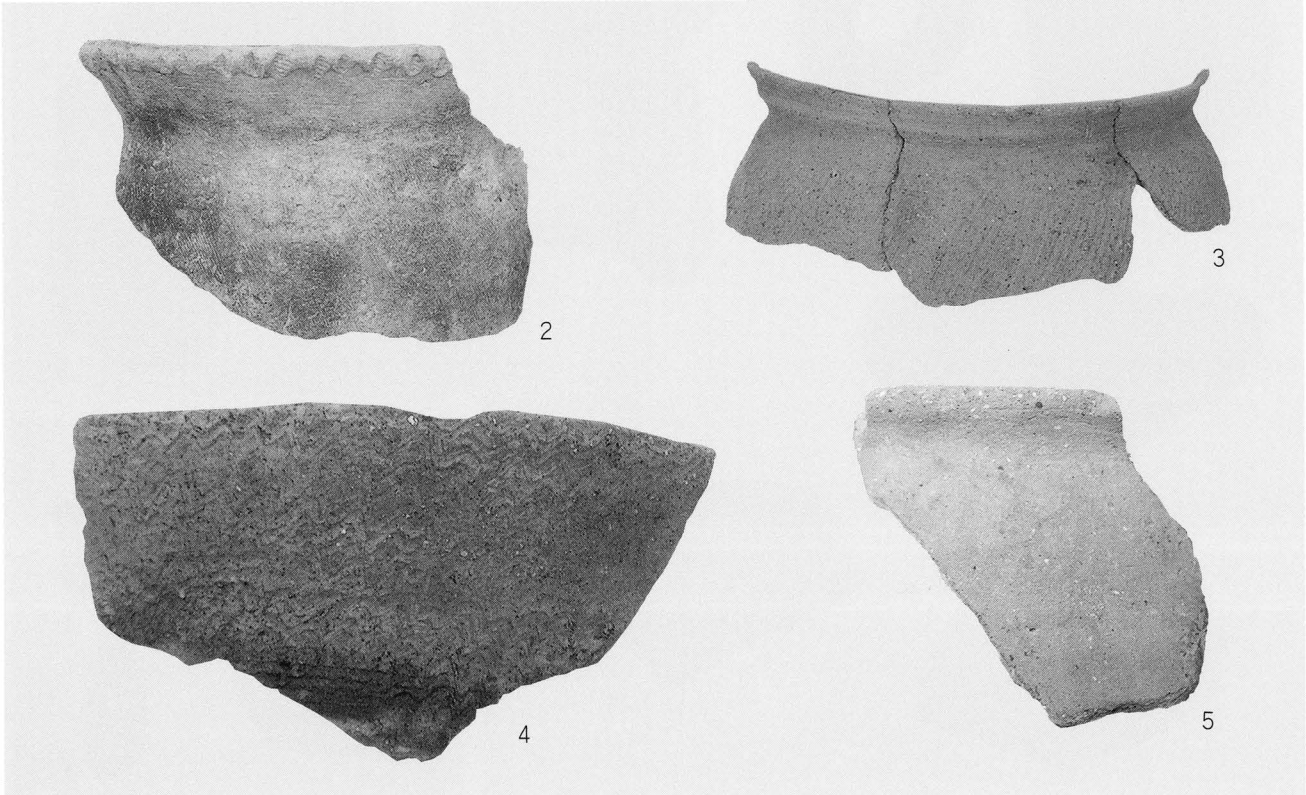


図版７　榎田遺跡（第２次）（１）



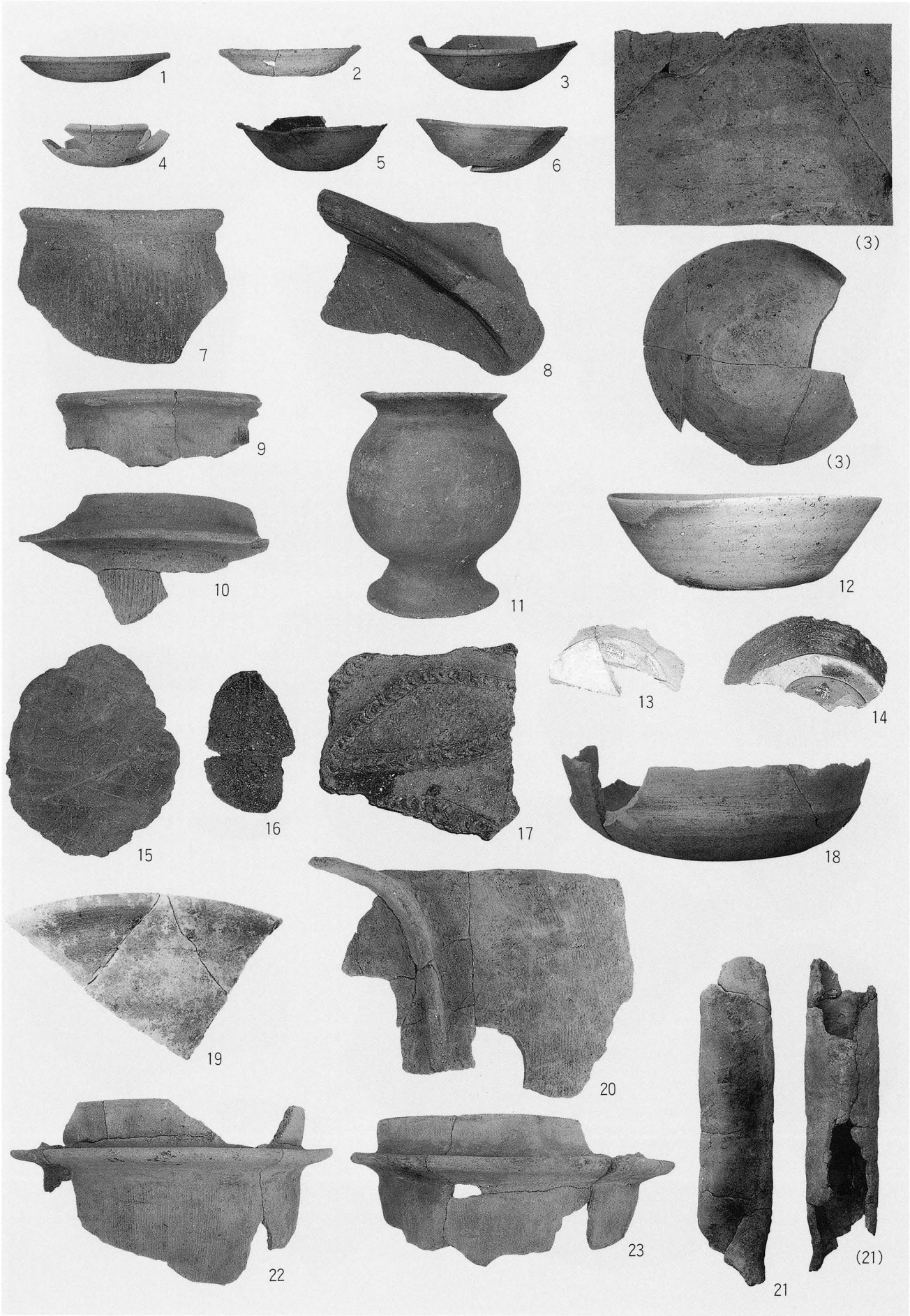
図版８　榎田遺跡(第２次)（２)、幸町Ａ遺跡、塩部遺跡(第４次)



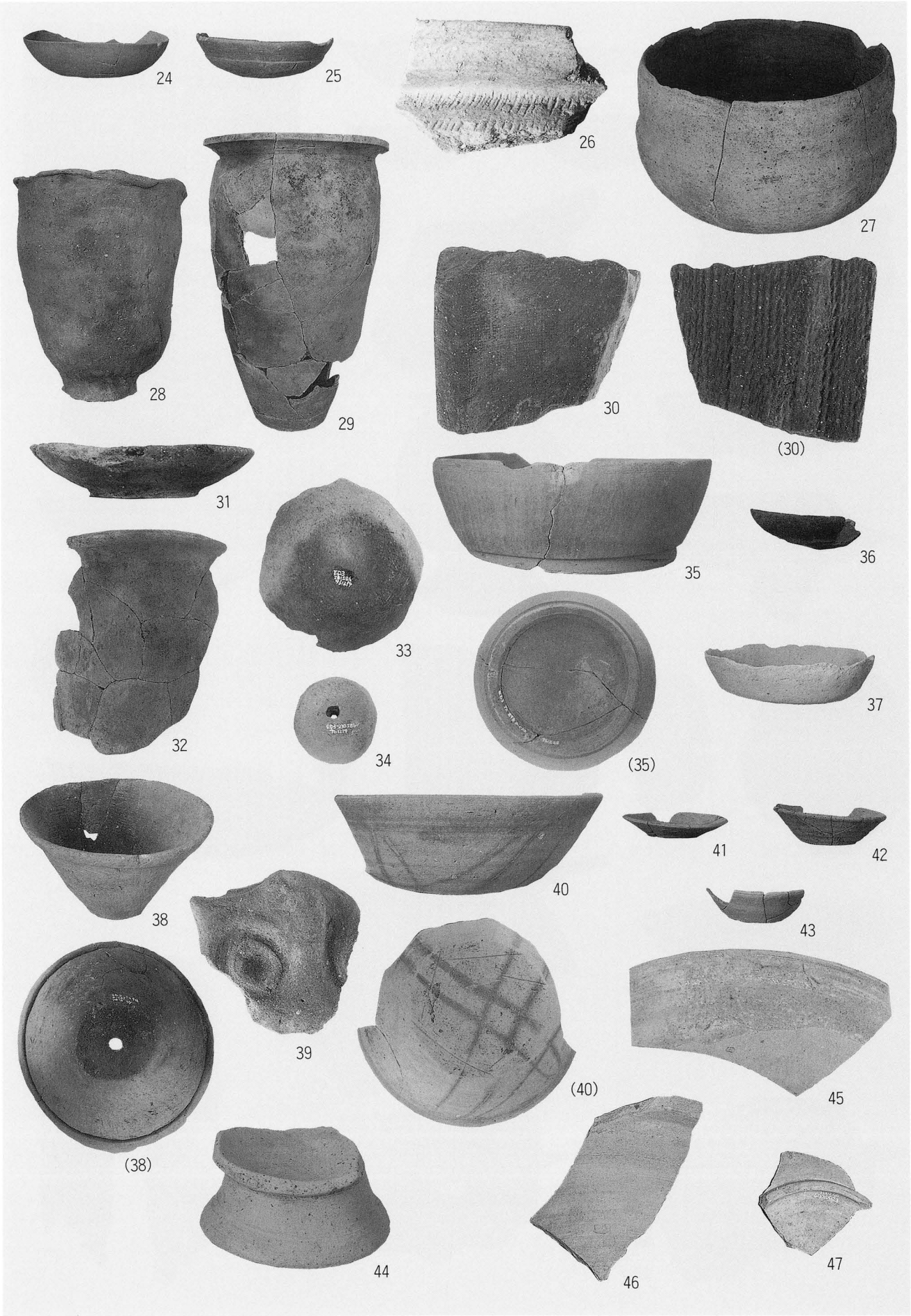


図版９　天神西遺跡(第１次)、家之前遺跡(第３次)、家之前遺跡(第４次)（１）

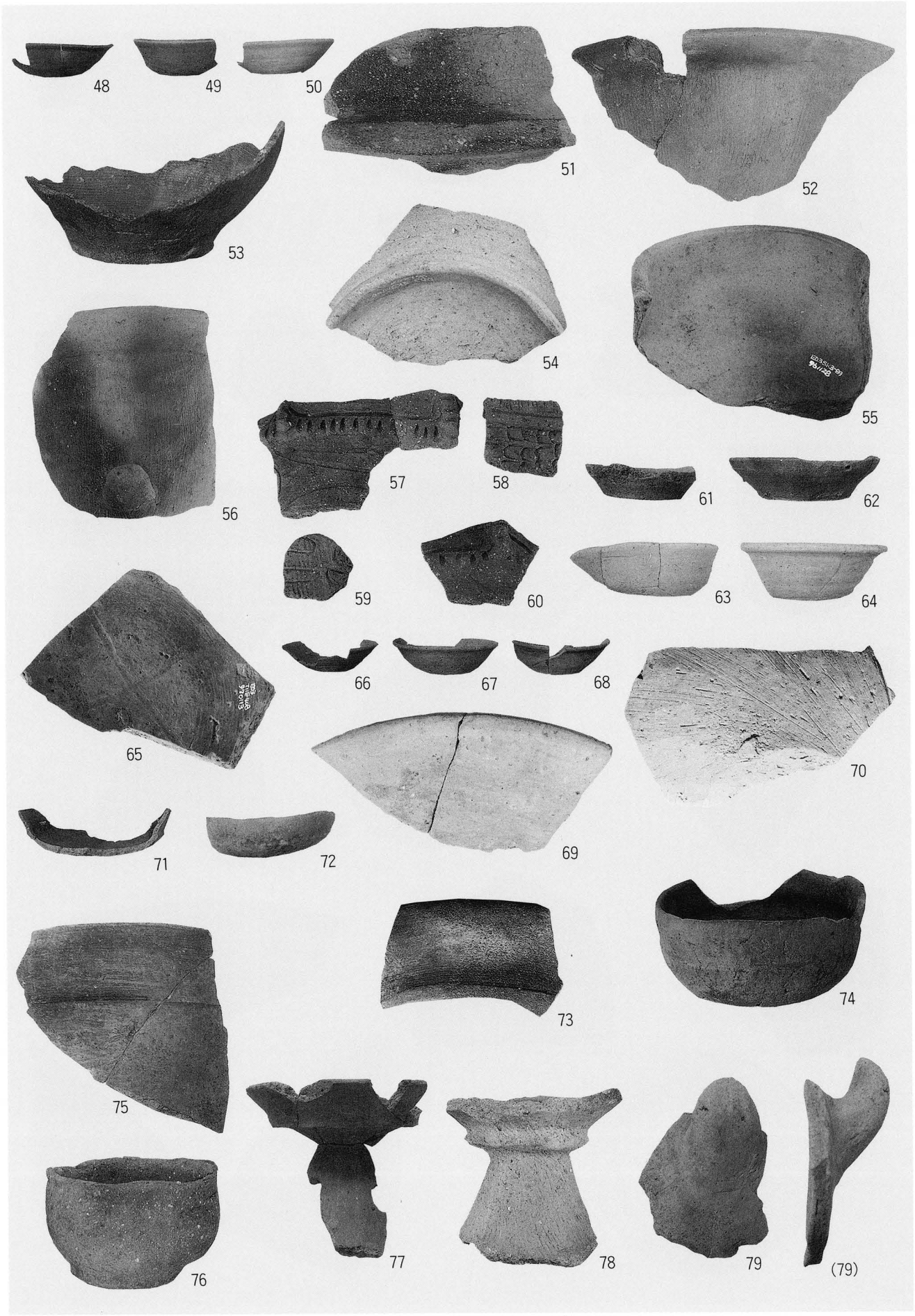
図版10　家之前遺跡(第４次)（２）、天神西遺跡(第２次)、永井遺跡



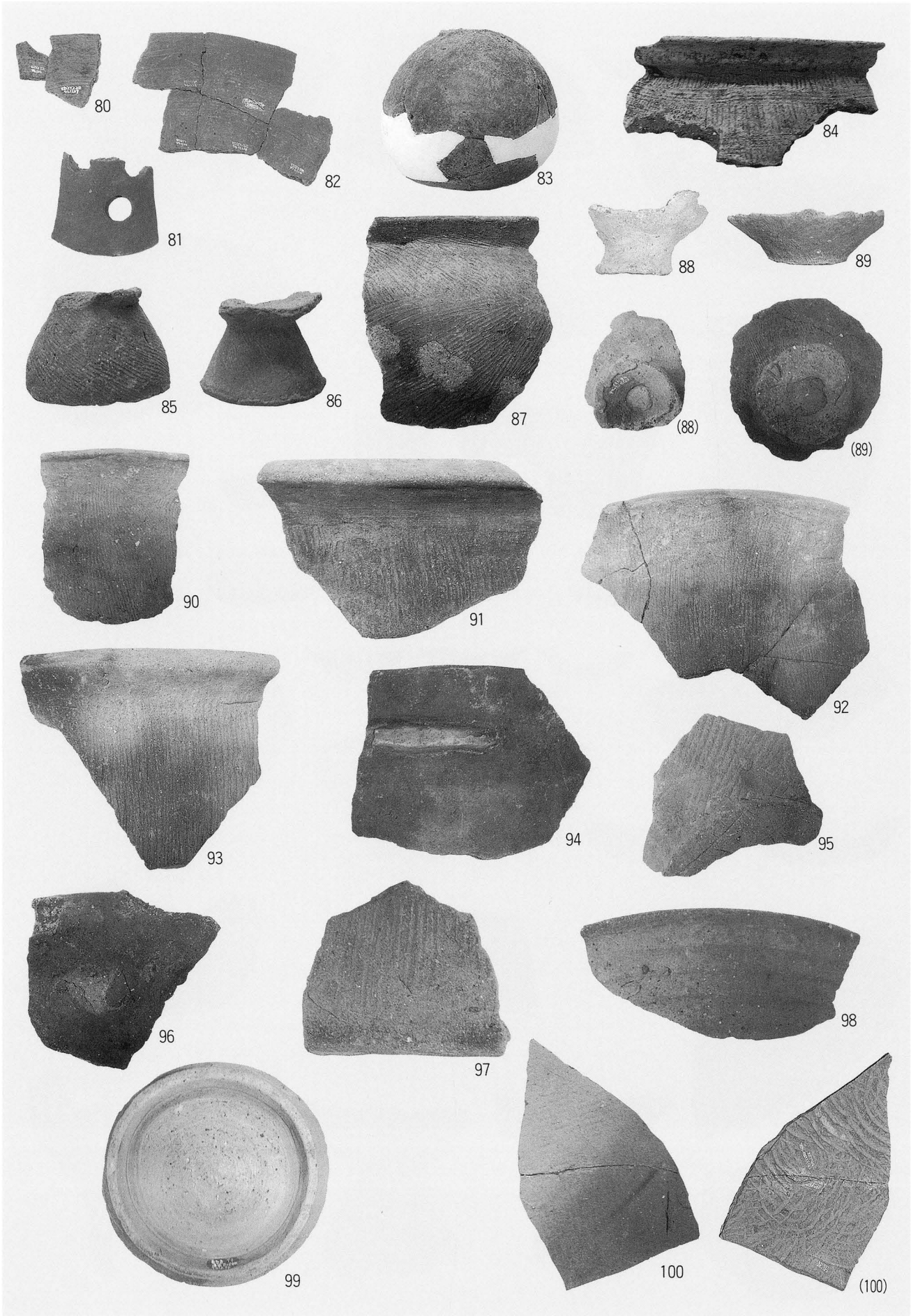
図版11　榎田遺跡（第３次）（１）



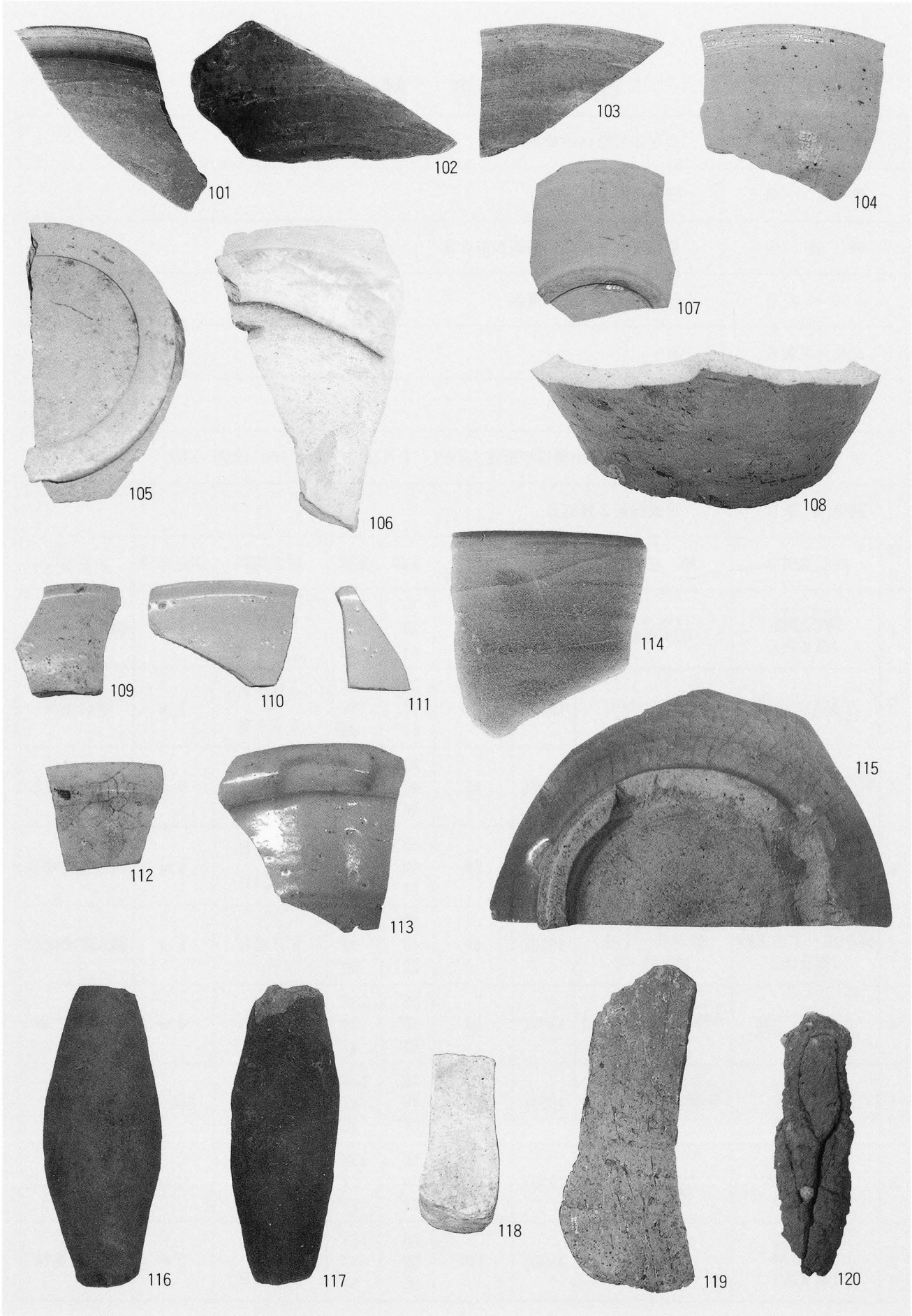
図版12　榎田遺跡（第３次）（２）



図版13　榎田遺跡（第３次）（３）



図版14　榎田遺跡（第3次）（4）



図版15　榎田遺跡（第3次）（5）

報　告　書　抄　録

ふりがな	こうふしないいせき　3
書　　名	甲府市内遺跡　III
副　書　名	平成７・８年度試掘調査報告書
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	31
編集機関	甲府市教育委員会
所　在　地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18-1　電話 055（223）7324
発行年月日	平成18年３月31日

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
1	深田遺跡（ふかだいせき）（第２次）	国玉町（くだまちょう）606	19201	211	35°38′44″	138°36′05″	平成７年(1995) ４月５日～４月６日	4 m²	個人住宅建設
2	上町天神遺跡（かみまちてんじんいせき）	上町（かみまち）1739-3・4、1740-1 他	19201	225	35°37′47″	138°35′09″	４月６日～４月７日	1 m²	物置建設
3	緑が丘二丁目遺跡（みどりおかにちょうめいせき）（第８次）	緑が丘二丁目（みどりおかちょうめ）893-10	19201	42	35°40′46″	138°33′55″	４月10日～４月13日	4 m²	個人住宅建設
4	音羽遺跡（おとわいせき）	音羽町（おとわちょう）443－9	19201	28	35°40′31″	138°32′43″	５月９日～５月17日	4 m²	個人住宅建設
5	緑が丘一丁目遺跡（みどりおかいっちょうめいせき）（第５次）	緑が丘一丁目（みどりおかちょうめ）108－5・6	19201	43	35°40′27″	138°33′50″	５月30日	4 m²	個人住宅建設
6	加牟那塚古墳（かんなづかこふん）	千塚三丁目（ちづかちょうめ）2547－4 他	19201	25	35°40′53″	138°32′47″	５月30日	4 m²	下水道工事
7	塩部遺跡（しおべいせき）（第２次）	塩部一丁目（しおべちょうめ）367－1 他	19201	74	35°40′01″	138°33′46″	６月12日～７月10日	500m²	店舗建設
8	上土器遺跡（かみどきいせき）（第２次）	桜井町（さくらいちょう）238	19201	164	35°39′21″	138°37′27″	６月22日～６月26日	20m²	個人住宅建設
9	大坪遺跡（おおつぼいせき）（第８次）	横根町（よこねちょう）460	19201	149	35°39′06″	138°37′01″	７月11日～７月13日	2 m²	事務所建設

番号	所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
10	緑が丘一丁目遺跡（第６次）	緑が丘一丁目108-1	19201	43	35°40′28″	138°33′51″	７月20日～７月28日	17㎡	個人住宅建設
11	宮の脇Ａ遺跡（第２次）	善光寺二丁目2744	19201	97	35°39′46″	138°35′43″	８月９日	1.6㎡	個人住宅建設
12	大手下遺跡・武田城下町遺跡	大手三丁目3644－1	19201	244	35°40′48″	138°34′52″	８月10日～８月11日	20㎡	集合住宅建設
13	緑が丘二丁目遺跡（第９次）	緑が丘二丁目921-1･3、923-2	19201	42	35°40′43″	138°33′58″	８月18日	８㎡	個人住宅建設
14	緑が丘二丁目遺跡（第10次）	緑が丘二丁目897-5	19201	42	35°40′46″	138°33′57″	８月18日	４㎡	個人住宅建設
15	本郷遺跡	善光寺三丁目2359-1	19201	130	35°39′33″	138°35′47″	10月11日～10月16日	50㎡	集合住宅建設
16	朝気遺跡（第12次）	朝気二丁目642－6	19201	121	35°38′58″	138°35′16″	10月19日	４㎡	個人住宅建設
17	塩部遺跡（第３次）	塩部三丁目地内	19201	74	35°40′10″	138°33′36″	10月20日～11月１日	100㎡	県道工事
18	十丁遺跡	里吉三丁目823、824、827-1	19201	195	35°38′41″	138°35′17″	平成８年(1996)１月８日～１月17日	12㎡	宅地造成
19	家之前遺跡（第１次）	里吉三丁目1001	19201	197	35°38′46″	138°35′22″	２月１日～２月５日	12㎡	宅地造成
20	金山遺跡	高室町724－2	19201	239	35°36′26″	138°33′41″	２月27日	２㎡	個人住宅建設
21	善光寺境内遺跡	善光寺三丁目2669-1	19201		35°39′44″	138°35′47″	３月６日～３月15日	90㎡	檀信徒会館建設
22	大坪遺跡（第９次）	横根町275-1･3	19201	149	35°39′14″	138°36′54″	４月２日～４月３日	８㎡	個人住宅建設
23	榎田遺跡（第１次）	千塚五丁目3006-1	19201	17	35°40′52″	138°32′33″	４月２日～４月９日	９㎡	個人住宅建設
24	桜林Ｂ遺跡	宮原町248－1	19201	230	35°36′58″	138°33′34″	４月15日～４月19日	８㎡	個人住宅建設

番号	所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
25	家之前遺跡（第２次）	里吉三丁目1003、1010、1012-2	19201	197	35°38′47″	138°35′24″	５月13日～５月24日	33m²	店舗建設
26	村内石山遺跡	横根町724－１ 他	19201	138	35°39′19″	138°36′36″	５月27日～６月４日	26m²	グラウンド造成
27	汗タリ遺跡	下今井町18－１ 他	19201		35°36′39″	138°34′59″	６月13日～６月21日	75m²	市民センター建設
28	銀杏之木遺跡	東光寺二丁目310-1	19201	122	35°39′41″	138°35′31″	７月１日～７月11日	15m²	集合住宅建設
29	金塚西遺跡（第２次）	千塚三丁目地内	19201	24	35°40′54″	138°32′42″	７月11日～８月26日	100m²	公園建設
30	砂間遺跡	高室町国母工業団地162	19201	235	35°36′40″	138°33′30″	７月15日～７月17日	６m²	工場増築
31	榎田遺跡（第２次）	千塚五丁目2805-4・5、2806-1・2	19201	17	35°41′00″	138°32′34″	７月25日～８月20日	45.7m²	集合住宅建設
32	幸町Ａ遺跡	幸町2785 他４筆	19201	190	35°38′37″	138°34′35″	８月29日～９月20日	48m²	マンション建設
33	地蔵北遺跡	東光寺三丁目1713他	19201	94	35°39′48″	138°35′35″	９月６日～９月17日	12m²	集合住宅建設
34	酒折遺跡	酒折三丁目1283-1他	19201	135	35°39′30″	138°36′10″	９月18日～９月19日	８m²	運動場造成
35	塩部遺跡（第４次）	塩部二・三丁目地内	19201	74	35°40′08″	138°33′35″	10月１日～10月17日	146m²	道路改良工事
36	天神西遺跡（第１次）	千塚四丁目3331 他	19201	16	35°40′56″	138°32′18″	10月２日～10月15日	12m²	個人住宅建設
37	榎田遺跡（第３次）	千塚五丁目2926－１	19201	17	35°41′02″	138°32′29″	10月21日～平成９年(1997)１月29日	320m²	宅地造成
38	家之前遺跡（第３次）	里吉三丁目790、793―1	19201	197	35°38′46″	138°35′21″	11月６日～11月21日	46m²	集合住宅建設
39	榎田遺跡（第４次）	千塚五丁目2962－７	19201	17	35°41′01″	138°32′30″	11月13日～11月14日	４m²	個人住宅建設

番号	所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
40	家之前遺跡（いえのまえいせき） （第４次）	里吉三丁目（さとよしちょうめ）982－1	19201	197	35° 38′ 45″	138° 35′ 23″	11月６日 ～ 11月21日	80m²	集合住宅建設
41	御崎田遺跡（みさきだいせき）	東光寺二丁目（とうこうじちょうめ）4-349 他	19201	116	35° 39′ 40″	138° 35′ 15″	平成９年(1997) ２月６日 ～ ２月12日	40m²	宅地造成
42	天神西遺跡（てんじんにしいせき） （第２次）	千塚四丁目（ちづかちょうめ）3230、 3231、3232 他	19201	16	35° 40′ 56″	138° 32′ 20″	２月19日 ～ ２月25日	28m²	集合住宅建設
43	永井遺跡（ながいいせき）	小松町（こまつちょう）425－1	19201	45	35° 41′ 02″	138° 34′ 09″	３月４日	４m²	個人住宅建設
44	朝気遺跡（あさけいせき） （第13次）	朝気（あさけ）二丁目670-2	19201	121	35° 38′ 56″	138° 35′ 16″	３月11日 ～ ３月12日	４m²	個人住宅建設

甲府市文化財調査報告 31

甲　府　市　内　遺　跡　III

― 平成７・８年度試掘調査報告書 ―

平成18年３月31日

発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号
TEL　０５５（２２３）７３２４
FAX　０５５（２２６）４８８９

印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号